E-CLASS STATIONWAGON
取扱説明書

Mercedes-Benz

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。また、スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（**4-28**）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に番号を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

表記と記載方法について

⚠ 警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

 を示す説明箇所には、特に環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のために、お車をお使いになるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

⚠ 警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

目　次

1. 安全のために

2. 安全装備

3. 運転する前に

4. 運転するとき

目　次

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

E 280 / E 350の例

※装備や仕様の違いにより、スイッチの位置などが異なることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

E 280 / E 350の例

※装備や仕様の違いにより、スイッチ位置などが異なることがあります。
また、スイッチ類のデザインや文字表記が実際の車両と異なることがあります。

⚠ 警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯 4 が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは(2-16)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

E 280 / E 350

E 350 4MATIC

1 ウォッシャー液リザーブタンク ・・・・・7-11
2 エンジンオイルレベルゲージ ・・・・・・・・・7-6
3 ブレーキ液リザーブタンク ・・・・・・・・・・7-9
4 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・・・・・・・7-4
5 エンジンオイルフィラーキャップ(補給口)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-7

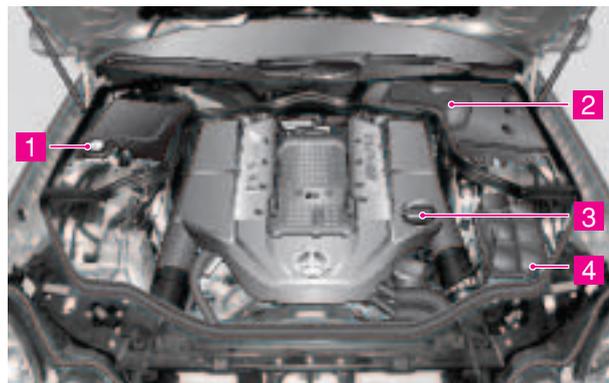
3の上にはカバーがあります。

1 ウォッシャー液リザーブタンク ・・・・・7-11
2 エンジンオイルレベルゲージ ・・・・・・・・・7-6
3 ブレーキ液リザーブタンク ・・・・・・・・・・7-9
4 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・・・・・・・7-4
5 エンジンオイルフィラーキャップ(補給口) ・7-7

3の上にはカバーがあります。

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

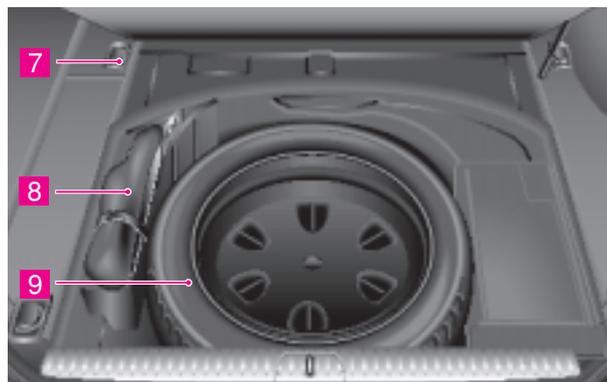
E 500

1 ウォッシャー液リザーブタンク ・・・・・7-11
2 ブレーキ液リザーブタンク ・・・・・・・・・・7-9
3 エンジンオイルフィラーキャップ(補給口) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-7
4 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・・・・・・・7-4

2の上にはカバーがあります。

E 55 AMG

1 ウォッシャー液リザーブタンク ・・・・・7-11
2 ブレーキ液リザーブタンク ・・・・・・・・・・7-9
3 エンジンオイルフィラーキャップ(補給口) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-7
4 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・・・・・・・7-4

2の上にはカバーがあります。

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

フィックスキット装備車

フィックスキット非装備車
フロアボードを開き、ラゲッジルームトレイを取り外した状態

※E 55 AMGについては、**6-6**をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

1. 安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務づけられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。
一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷することがあります。
- 目的地まで余裕を持って走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じる
  - ◇燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  - ◇給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する
  - ◇作業中は車内に戻らない（帯電するおそれがあります）
  - ◇キャップの開閉**(3-49)**は確実に行ない、火気を近づけないようにする
  - ◇ガソリンを垂らさないように注意する（塗装面を損傷するおそれがあります）
  - ◇気化した燃料を吸い込まないように注意する
  - ◇給油作業をする人以外は燃料給油口に近づかない
  - ◇ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアヘッドレストの背後や、ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート**(2-14)**を使用することが法律で義務づけられています。

子供はリアシートに

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに取り付けてください。やむを得ず助手席に取り付けるときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを取り付け、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやテールゲートのチャイルドプルーフロック**(3-27、3-33)**、パワーウインドウのセーフティスイッチ**(3-54)**を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。
新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ティップシフト位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードをCモードにして走行してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- E 55 AMGは最初の1,500kmまでは、走行速度が140km/hを超えないように、またエンジン回転数が4,500回転を超えないようにしてください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン：**走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ：**走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

滑りやすい路面

滑りやすい路面で、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキは効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。
  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所には駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、フロントウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、SBCホールドやクルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(4-14)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、 N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込み、踏みしろや踏み込んだときにペダルが一定のところで止まることを確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D 、 R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態に保つことはしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 車が完全に停止する前に、セレクターレバーをPに入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーをPに入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーをPかNに戻すように心がけてください。Rに入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだあとは絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機や、オーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

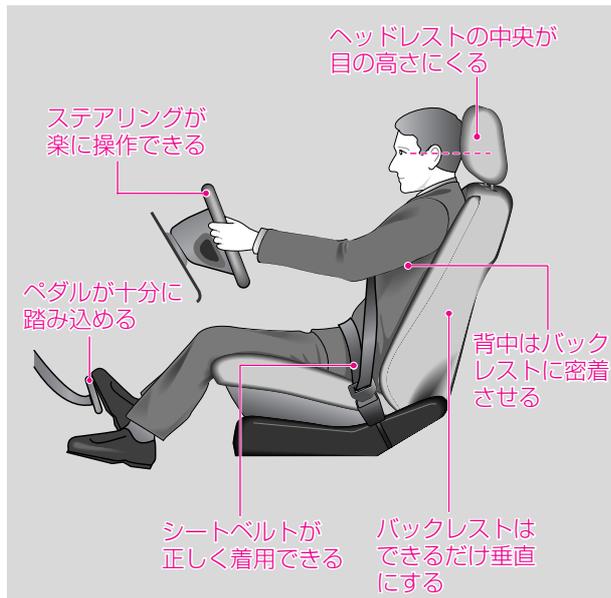
ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

2. 安全装備

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

⚠ 警　告

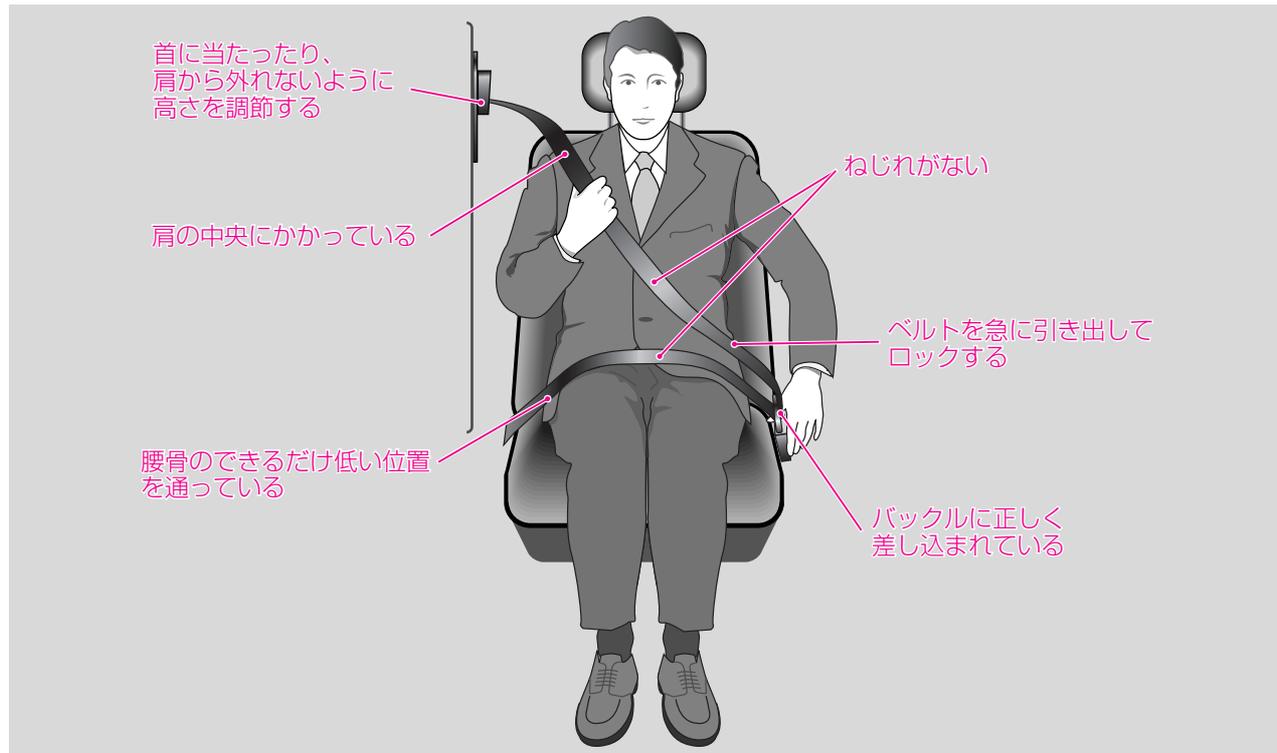
- 必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に手や足を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※シートの形状などは車種や仕様により異なります。

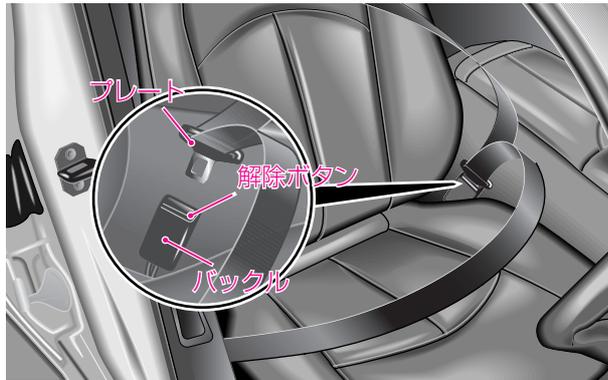
シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置であり、急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。
シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※シートの形状などは車種や仕様により異なります。

⚠警　告

- 全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに頭や身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  ◇バックレストを大きく傾けないでください。
  ◇コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  ◇シートに深く腰かけてください。
  ◇肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに頭や首、肋骨や腹部に衝撃を受けます。
  ◇腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  ◇シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  ◇1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  ◇シートベルトクリップなどを使ってシートベルトにたるみをつけないでください。
  ◇子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
  ◇着用前に、シートベルトに損傷がないか確認してください。

注　意！

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  ◇ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  ◇たばこの火や熱いものを近づけない
  ◇バックル部分に異物を入れない
  ◇着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  ◇分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  ◇強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  ◇乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  ◇シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトの着用

1 プレートを持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。
2 シートベルトにねじれがないことを確認し、プレートの先端をバックルに差し込みます。
3 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させせます。
4 肩を通るベルトが肩の部分を通ることを確認します。

シートベルトを外すときは、手でプレートを持ち、バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

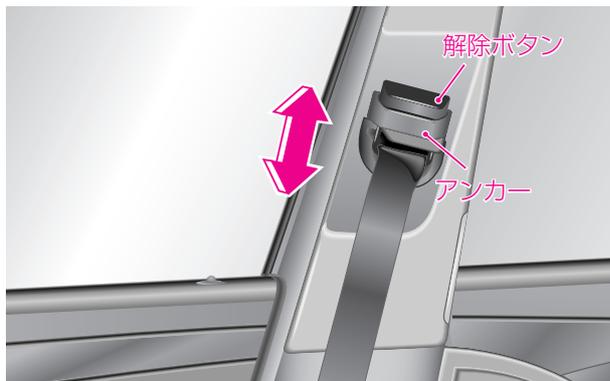
シートベルト警告

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。
エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

走行中のシートベルト警告

運転席または助手席の乗員が、シートベルトを着用しないまま走行を開始して速度が約25km/h以上になるか、走行中にシートベルトを外したときは、シートベルト警告灯が点滅し断続的な警告音も鳴ります。
そのままの状態で約60秒間走行するか、または車を停止したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

フロントシートベルトの高さ調整
シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。
高さは4段階に調整できます。
上げるときは、アンカー部を持ちそのまま押し上げます。
下げるときは解除ボタンを押したまま下げます。
調整後は確実にロックしていることを確認してください。

リアシートベルトの高さ調整（リア中央席を除く）
シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。
高さは4段階に調整できます。
上げるときは、アンカー部を持ちそのまま押し上げます。
下げるときは解除ボタンを押したまま下げます。
調整後は確実にロックしていることを確認してください。

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しません。
後席中央を除くシートベルトに装備されています。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。
後席中央を除くシートベルトに装備されています。

注　意！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトが強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で必ず新品と交換してください。

知　識

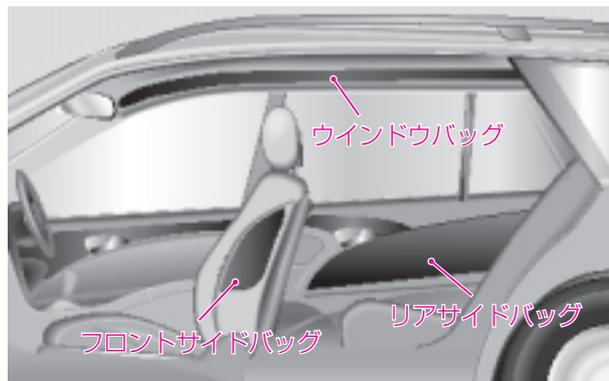
- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。
また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに差し込まれていないと作動しない場合があります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

SRSエアバッグ

右ハンドル車

エアバッグの収納場所

運転席エアバッグ
ステアリングのパッド部

助手席エアバッグ
助手席ダッシュボードパネル部

フロントサイドバッグ
運転席 / 助手席シートのバックレスト側面

リアサイドバッグ
左右のリアドアの内張り部

ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

エアバッグの作動
エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件となります。
衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。
衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

運転席 / 助手席エアバッグ
前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

フロント / リアサイドバッグ
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を軽減します。
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときはフロントサイドバッグは作動しません。

ウインドウバッグ
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を軽減します。
また、車が横転したときもウインドウバッグは作動することがあります。

SRS **エアバッグシステム警告灯**

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また、2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジンを始動すると消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システム＊の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席に重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席エアバッグが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。
  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⚠ 警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないことがあります。また、不意に作動することもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックに固い物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- フロントシートにカバーをするときは、必ずフロントサイドバッグ用のスリットが入った専用のシートカバーを使用してください。市販のカバーを使用すると、フロントサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上に物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。

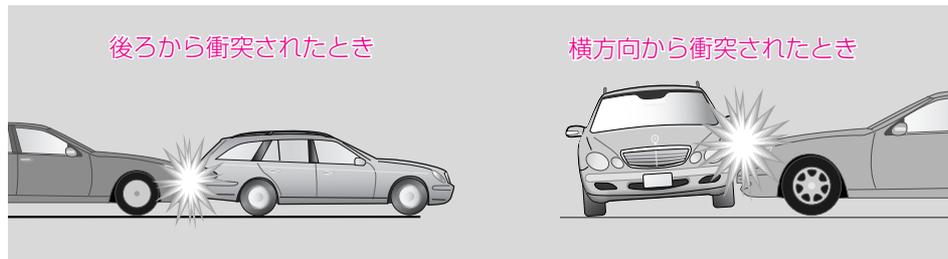
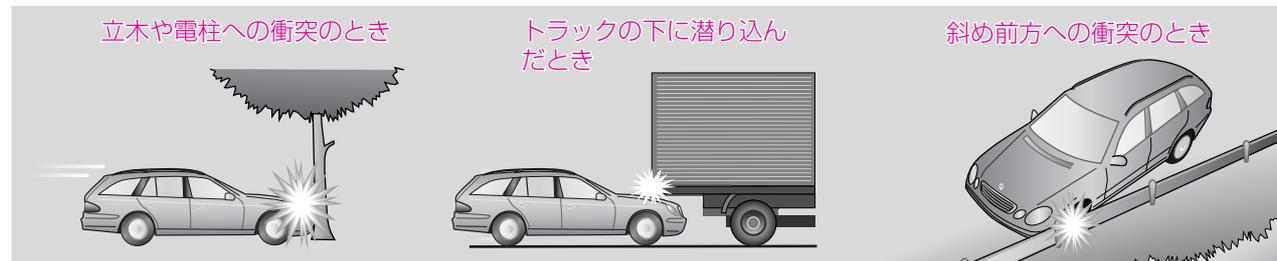
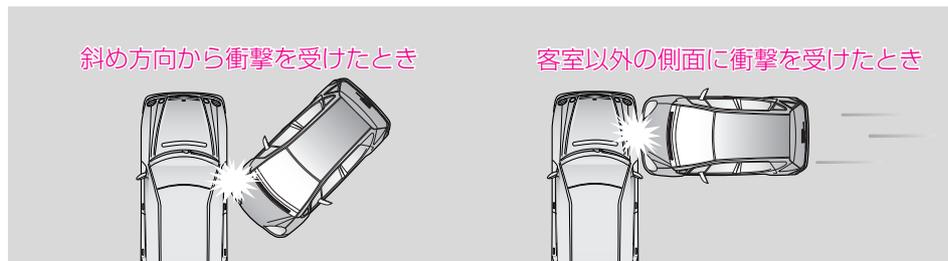
注　意！

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

⚠ 警　告

- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、前向きに装着し、助手席シートの位置をもっとも後ろに下げてください。
- 後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警　告

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注　意！

分割可倒式リアシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして、確実にロックしてください。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除する、センサー付きシート(ベビーセーフ、デュオ、キッド)があります。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ	10kg以下	生後9ヵ月位まで
デュオ	9～18kg	生後8ヵ月～4歳位
キッド	15～36kg	4歳～12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム＊
(E 55 AMG)

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。
助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

⚠ 警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

必ず以下の点に注意してください。

- **純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。**
- **やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートの位置をもっとも後ろに下げてください。**
- **後向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。**

注　意！

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

知　識

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグ、ウインドウバッグ、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。
- 純正チャイルドセーフティシートのキッドには、センサーが付いていないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

助手席エアバッグオフ表示灯＊(E 55 AMG)
センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しているときにエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。
点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※スイッチ類のデザインや文字表記が実際の車両と異なることがあります。

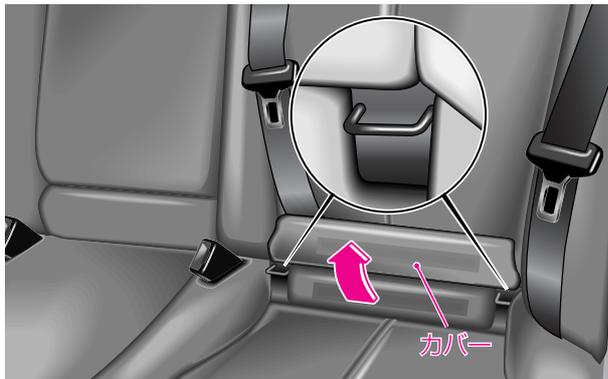
注　意！

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。
点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⚠ 警　告

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合（E 55 AMG以外）
  - ◇純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
  - ◇やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートの位置をもっとも後ろに下げてください。
  - ◇後向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合（E 55 AMG）
  - ◇センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
  - ◇助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
  - ◇センサーが付いていないタイプの純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートの位置をもっとも後ろに下げてください。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

後席の左右に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

使用するときは、シートクッション後端のカバーを開きます。

⚠ 警　告

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

注　意！

チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、後席中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

3. 運転する前に

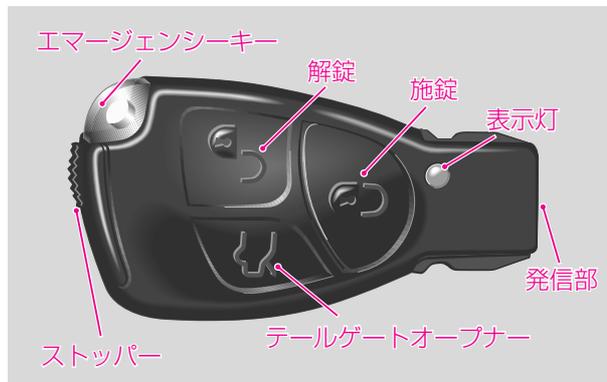
キー

リモコン機能付きのキー（2本）が付属しています。また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。
2つのキーを見わけるためキーのストッパーの色がそれぞれ異なります。

⚠ 警　告

キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを取り付けないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわったり、キーが抜けてしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

自動開閉テールゲート装備車

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。
リモコン機能では、以下の操作をすることができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートを開く＊
- ドアウインドウとスライディングルーフの開閉

知　識

新たにキーをつくる場合、従来のキーと同じ機能を持つ“交換キー”と、メモリー機能などを持たない“追加キー”の2種類があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能

エンジンスイッチにキーを差していないとき、ドア、テールゲート、燃料給油フラップを解錠 / 施錠できます。操作時に表示灯が短く点灯します。

解錠

を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠

を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

テールゲートオープナー＊

を押し続けると、テールゲートが開きます。

リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開閉することができます。
詳しくは(3-6)をご覧ください。

注　意！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠されたことを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能の設定の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定することもできます。

- と を同時に約6秒間押し続けるとキーの表示灯が2回点滅し、設定が切り替わります。この状態では以下のように作動します。
  ◇ を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠されます。
  ◇続けて約40秒以内に、 を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠されます。

元の設定に戻すには、再度、 と を同時に約6秒間押し続けます。キーの表示灯が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知　識

- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  ◇ドアを開く
  ◇テールゲートを開く
  ◇エンジンスイッチにキーを差し込む
  ◇ドアロックスイッチを押す
- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠／施錠はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。
- CDチェンジャーカバー(5-42)が開いているときにリモコン操作で施錠すると、CDチェンジャーカバーも閉じます。

施錠時のドアミラー格納＊
リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。
格納されたドアミラーは、リモコン操作で解錠し、フロントドアを開くと元の位置に戻ります。

この機能の設定と解除については(3-108)をご覧ください。

知　識
ドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動くことがあります。その場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチ(3-63)を押して、元の位置に戻してください。

ロケイターライティング
周囲が暗いときにリモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、フロントフォグランプが点灯します。点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または点灯してから約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については(3-100)をご覧ください。

自動開閉テールゲート装備車

エマージェンシーキー
キーに収納されています。
グローブボックスを施錠するとき、ラゲッジルームのフロアボードを解錠 / 施錠するときに使用します(3-37、5-37)。
また、リモコンが作動しないときに、運転席ドアを解錠 / 施錠することができます(3-25)。

エマージェンシーキーを使用する
ストッパーを矢印1の方向に押しながら、エマージェンシーキーを矢印2の方向に抜きます。
収納するときは元の位置に差し込みます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

安全のために
安全装備
運転する前に
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
点検と整備
サービスデータ
こんなときは

自動開閉テールゲート装備車

リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開閉する

キーのリモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開閉できます。

開く

[解錠ボタン]を押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

[解錠ボタン]から手を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフはその位置で止まります。

閉じる

[施錠ボタン]を押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

[施錠ボタン]から手を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフはその位置で止まります。

注　意！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに手や首などが挟まれそうになったときは、ただちに[施錠ボタン]から手を放し、[解錠ボタン]を押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

知　識

- リモコン操作時は、キーの発信部をドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコンでの操作はできません。

自動開閉テールゲート装備車

自動開閉テールゲート装備車

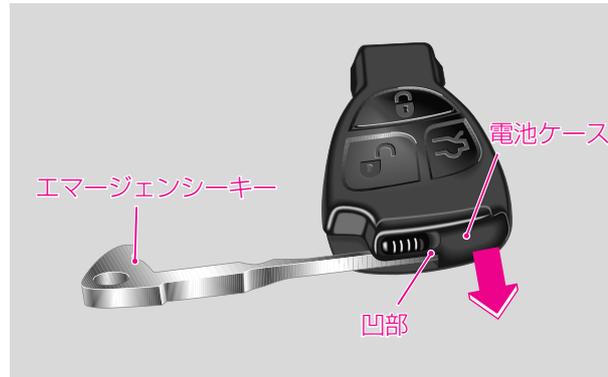
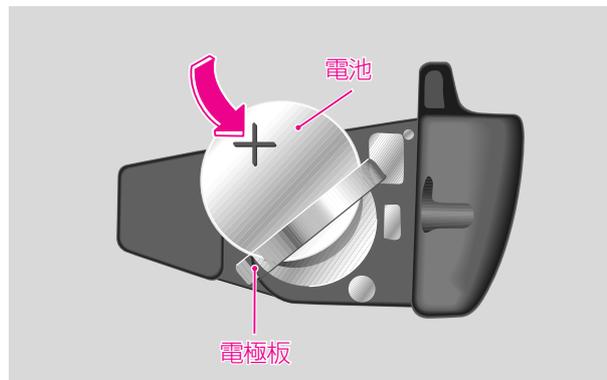
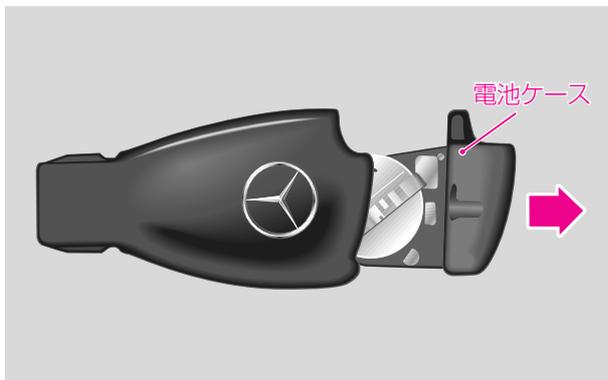
電池の交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、スイッチを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

リモコンスイッチのいずれかを押したときに表示灯が一度点滅すれば電池は正常です。

電池の交換手順

1 ストッパーを矢印1の方向に押しながら、エマージェンシーキーを矢印2の方向に抜き取ります。

2 エマージェンシーキーで電池ケース脇の凹部を押してロックを外しながら、電池ケースを矢印の方向に引きます。

3 電池ケースを矢印の方向へゆっくり取り出します。
4 電池を外し、新しい電池と交換します。電池は2個とも⊕を上にして、電極板の間に取り付けます。
5 電池ケースを本体の溝に合わせ、ロックするまで押し込みます。
6 エマージェンシーキーをキーに収納します。

電池の交換は指定サービス工場で行なうことをおすすめします。

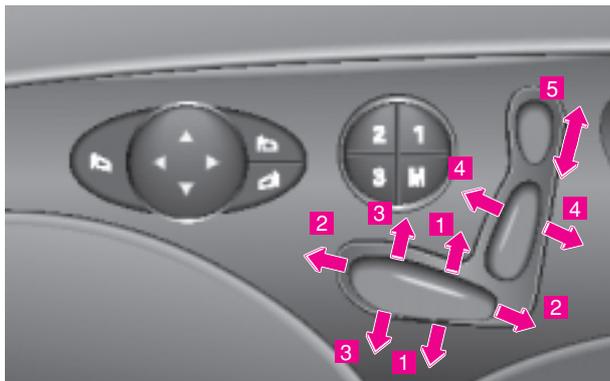
⚠ 警　告

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

リチウム電池(CR2025)を2個使用します。

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

フロントシート

右ハンドル車

シートの調整
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または調整する側のフロントドアが開いているときに操作できます。

- **シートの高さ**
  矢印1の方向に操作します。
- **シートの前後**
  矢印2の方向に操作します。
  ヘッドレストの高さも連動して上下します。
- **クッションの傾き**
  矢印3の方向に操作します。
- **バックレストの傾き**
  矢印4の方向に操作します。
- **ヘッドレストの高さ**
  矢印5の方向に操作して高さを調整します。
  また、シートの前後調整に連動してヘッドレストは上下します。

注　意！
- シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。
- シートを調整したときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっているか確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。

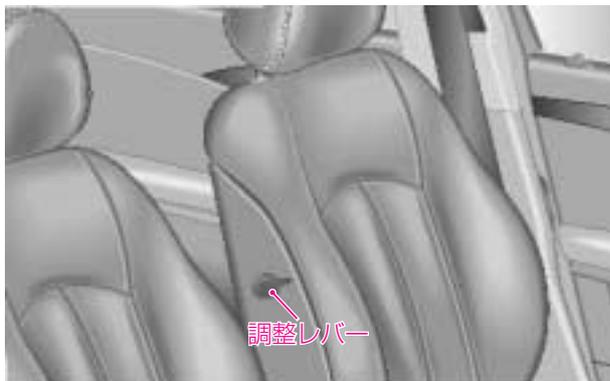
NECK PROアクティブヘッドレスト

NECK PROアクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、乗員の頭部をより効果的に支持します。
衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PROアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

> **⚠ 警　告**
>
> **フロントシートにカバーをするときは、必ず専用のシートカバーを使用してください。市販のカバーを使用すると、NECK PROアクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。**

作動したNECK PROアクティブヘッドレストをリセットする

事故などのときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部が保護されません。
このリセット作業は、指定サービス工場で行なうことをおすすめします。

1 ヘッドレスト上部にある穴に、車載のリセットツールを差し込み、ロックする音が聞こえるまで押し下げます。
2 リセットツールを抜き、ヘッドレストを後方に強く押し戻して確実にロックさせます。
もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

ランバーサポート＊
フロントシートのバックレスト側面に、ランバーサポートの調整レバーがあります。

サポートを増加させる：レバーを下方に押します。
サポートを減少させる：レバーを上方に押します。

※車種や仕様により、助手席にはランバーサポートが装備されません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

フロントシートのメモリー機能

右ハンドル車

シート位置の記憶と呼び出し

シート位置をポジションスイッチに記憶させたり、呼び出すことができます。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または操作する側のフロントドアが開いているときに、記憶と呼び出しができます。

シート位置を記憶させる

1 正しいシート位置に調整します。
運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。
2 メモリースイッチを押します。
3 3秒以内にポジションスイッチ(**1**～**3**)のいずれかを押します。そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。
運転席では、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。何人かで運転をするときに使い分けると便利です。

記憶させたシート位置を呼び出す

呼び出したいポジションスイッチ(**1**～**3**)を押し続けるとシートが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

知　識

安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートの動きが停止します。

注　意！

バックレストを大きく後ろに傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

マルチコントロールシートバック＊

身体を正しく支えるようにシートの位置や形状を調整します。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整、使用できます。
操作スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

ランバーサポートを調整する

1 スイッチ1の⏶または⏷を押して、サポートの位置を調整します。
2 ＋または－を押して、サポートの強さを調整します。

シートクッション前部の形状を調整する

スイッチ2の＋または－を押します。

バックレストのサイドサポートを調整する

スイッチ3を左または右に操作して調整します。
背中のサポートが増減します。

マッサージ機能

バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長時間走行などの疲労を軽減します。
マッサージ機能は作動後約5分後に、自動的に停止します。

マッサージ機能を使用する

スイッチ4を押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

マッサージ機能を停止する

再度スイッチ4を押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ドライビングダイナミックシート機能

カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支える機能です。

ドライビングダイナミックシートを使用する

スイッチ5を押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
運転席側のスイッチを押したときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾞﾗｲﾋﾞﾝｸﾞﾀﾞｲﾅﾐｯｸ ｼｰﾄ ｵﾝ" と表示されます。

ドライビングダイナミックシートを停止する

再度スイッチ5を押します。
スイッチの表示灯が消灯します。
運転席側のスイッチを押したときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾞﾗｲﾋﾞﾝｸﾞﾀﾞｲﾅﾐｯｸ ｼｰﾄ ｵﾌ" と表示されます。

ドライビングダイナミック機能のサポートレベルを調整することができます。
この機能の設定については(3-110、111)をご覧ください。

知　識

- スイッチを押しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。
- ポジションスイッチ(3-12)を押して、記憶させたシート位置を呼び出したときは、マッサージ機能が停止することがあります。
- ドライビングダイナミックシートスイッチを押したとき、サイドサポートがわずかに動く場合があります。

※車種や仕様により、助手席のサポートレベルが調整できない車両があります。
※マルチファンクションディスプレイの表示は予告なく変更されることがあります。
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

シートヒーター＊

スイッチはセンターコンソールにあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

使用する

スイッチの上側を押すたびに、シートヒーターが強・中・弱・停止の順に切り替わります。
強のときは表示灯が3つ点灯します。
中のときは表示灯が2つ点灯します。
弱のときは表示灯が1つ点灯します。
停止のときは表示灯が消灯します。

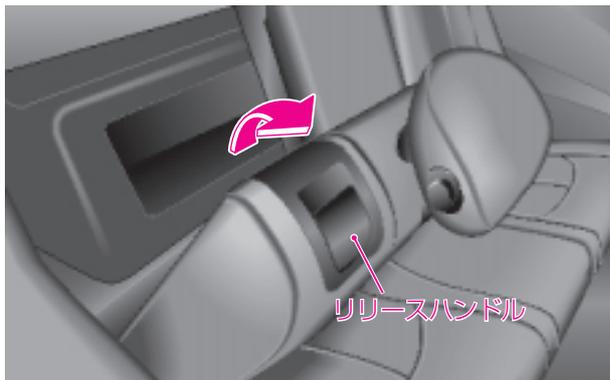
知　識

- シートヒーターを強にすると、以下のように作動が切り替わります。
  ◇強にしてから約5分後に自動的に中に切り替わります。
  ◇中になってから約10分後に自動的に弱に切り替わります。
  ◇弱になってから約20分後に自動的に停止します。
- 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

注　意！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用すると、シートヒーターが故障したり、異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）をするおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
  ◇乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
  ◇皮膚の弱い方
  ◇疲労の激しい方
  ◇眠気をさそう薬を服用された方
  ◇飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

分割可倒式リアシート

バックレストの角度の調整

リアシートのバックレストの左右のいずれか一方、または両方の角度を2段階に調整することができます。

角度を調整する

以下の操作をすることにより、バックレストの角度を通常の角度から少し立った角度へ調整できます。

1 リアシートのリリースハンドルを引き、バックレストを前方に少し倒した状態にします。

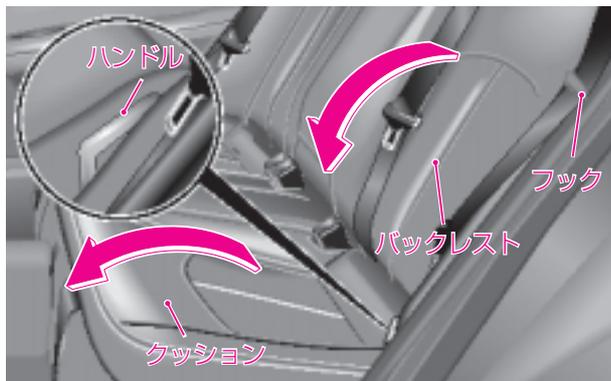
2 再度、リリースハンドルを引き、バックレストを戻します。
このとき、バックレスト上部が約4cm前方に傾きます。

通常の角度へ戻すときは、リリースハンドルを引き、バックレストを前方に少し倒してから、バックレストを戻します。

注　意！

- バックレストは必ずピッという音がするまで確実にロックしてください。バックレストがロックされていないと、エンジンスイッチを1か2の位置にしたとき、マルチファンクションディスプレイに警告が表示されます。
- 走行中はバックレストのロックを解除しないでください。事故や急ブレーキのとき、荷物が前方に放り出されてけがをするおそれがあります。
- バックレストのロックを解除すると、前席のシート位置によっては、前席シートが前方に動き出すことがあります。動いているシートに身体が挟まれないように注意してください。

知　識

左側リアシートにラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、左側リアシートのバックレストのみを少し立った角度に調整することはできません。
収納リールを取り付けた状態で左側リアシートのバックレストの角度を少し立った角度に調整するときは、右側リアシートのバックレストを前方に倒した状態で行なってください。

リアシートを倒す

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を前方に倒すことができます。

1 リアシートベルトをフックにかけます。

2 リアシートクッション横にあるハンドルを引くとロックが解除され、シートクッションが少し持ち上がります。

3 シートクッションの後部を持ち、シートクッションを前方に引き起こします。

注　意！

バックレストを前方に倒す前に、必ずシートクッションを引き起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

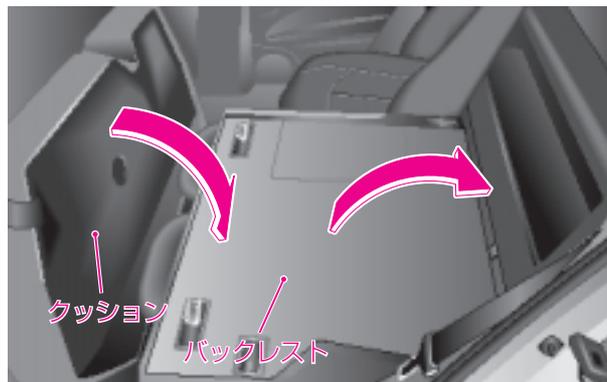
4 リリースハンドルを引いてロックを解除すると、ヘッドレストの高さが自動的に低くなり、ヘッドレストが後方に倒れます。ヘッドレストが後方に倒れなかったときは、ヘッドレスト格納スイッチ(3-21)を押すか、またはロック解除ボタンを押しながらヘッドレストを倒します。

5 バックレストを前方に倒します。

注　意！

- 走行中はバックレストのロックを解除しないでください。事故や急ブレーキのとき、荷物が前方に放り出されてけがをするおそれがあります。
- バックレストのロックを解除すると、前席のシート位置によっては、前席シートが前方に動き出すことがあります。動いているシートに身体が挟まれないように注意してください。

知　識

左側リアシートにラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、左側リアシートのバックレストのみを倒すことができません。
収納リールを取り付けた状態で左側リアシートのバックレストを倒すときは、右側リアシートのバックレストを倒した状態で行なってください。

リアシートを元の位置に戻す

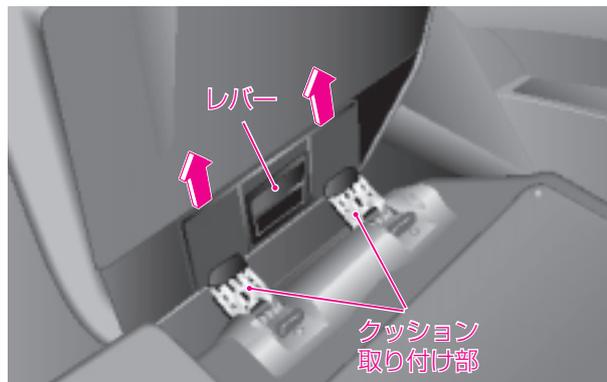
1 リアシートベルトがフックにかかっていることを確認します。
2 バックレストを元の位置に戻し確実にロックさせます。ロックするとピッという音が鳴ります。
3 クッションを後方に倒し、確実にロックさせます。
4 リアシートベルトをフックから外します。

注　意！

リアシートベルトをバックレストではさまないように、注意してください。

5 リアヘッドレストを起こし、ロックさせせます。

注　意！

- バックレストは必ずピッという音がするまで確実にロックしてください。バックレストがロックされていないと、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき、マルチファンクションディスプレイに警告が表示されます。
- 走行する前に、シートクッションが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないときは、シートクッションを強めに押してロックしてください。

リアシートクッションの取り外し / 取り付け

左右のいずれか一方、または両方のリアシートクッションを取り外すことができます。

取り外す

1 クッションを前方に引き起こします(3-18)。

2 レバーを引いてクッション取り付け部のロックを外し、クッションを上方に取り外します。

取り付ける

1 クッション取り付け部にクッションを差し込み、確実にロックさせせます。

2 クッションを後方に倒し、確実にロックさせせます。

リアシートヘッドレスト

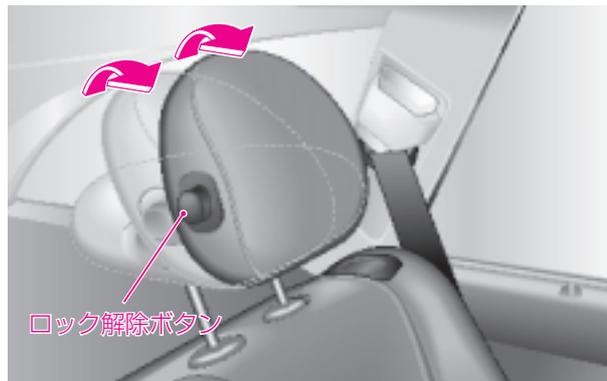
ヘッドレストの格納＊

スイッチでリアシートのヘッドレストを後ろに倒し、格納することができます。エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

スイッチの上側を押すとヘッドレストが格納されます。

元の位置に戻すときは、手で引き起こし、ロックさせます。

⚠ 警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを起こしてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

知　識

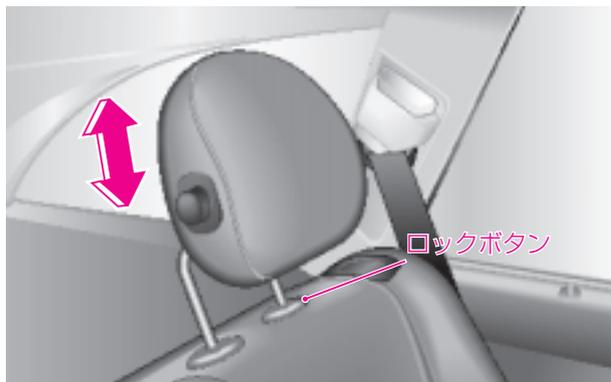
空気圧によりヘッドレストを格納するため、左右と中央のヘッドレストは同時に格納されないことがあります。

角度の調整(左右のヘッドレスト)

1　矢印の方向に引き起こし、ロックさせます。
2　ヘッドレストを支え、ロック解除ボタンを押しながらもう一段階引き起こすことができます。

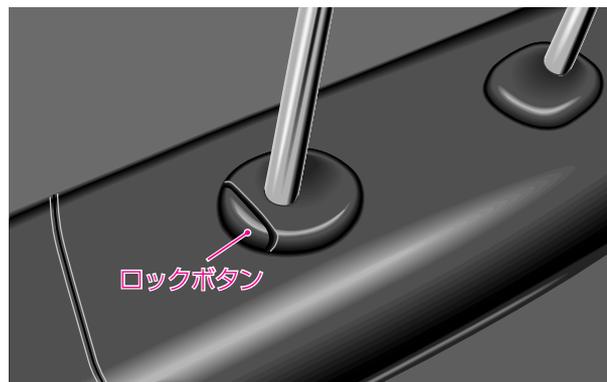
知　識

中央のヘッドレストは角度の調整ができません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

上下の調整(左右のヘッドレスト)

上げるときはそのまま引き上げます。下げるときはロックボタンを押しながら下げます。

知　識

- 中央のヘッドレストは上下の調整ができません。
- 左右のヘッドレストは、2本の支柱の長さが異なります。

ヘッドレストの脱着（左右のヘッドレスト）

取り外す

ロックボタンを押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

取り付ける

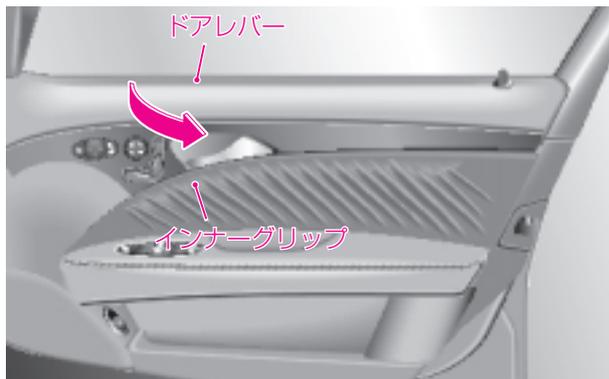
ヘッドレストの支柱を取り付け穴に押し込んでロックさせます。

知　識

中央のヘッドレストにはロックボタンはありません。

⚠ 警　告

乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

ドア

右ハンドル車

車内から開閉する

開く　：ドアレバーを矢印の方向に引きます。

閉じる：インナーグリップをもって確実に閉じます。

⚠ 警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全(半ドア)な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意！

ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

知　識

- 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- ドアが確実に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが0か1の位置のときに運転席ドアを開く

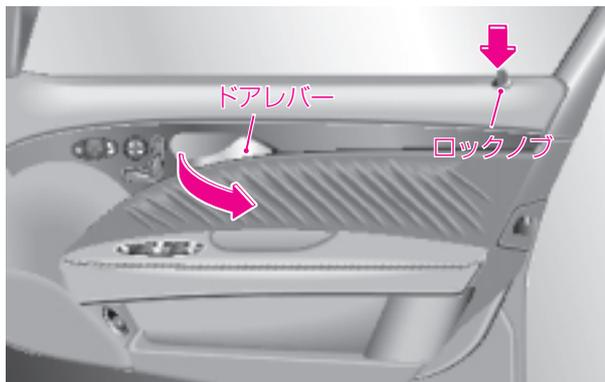
ステアリングは、ドアを閉じて次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- エンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが0の位置のときは1の位置にする
- エンジンスイッチが1の位置のときは2の位置にする

この機能が作動しないようにすることもできます。

この機能の設定と解除については(3-107)をご覧ください。

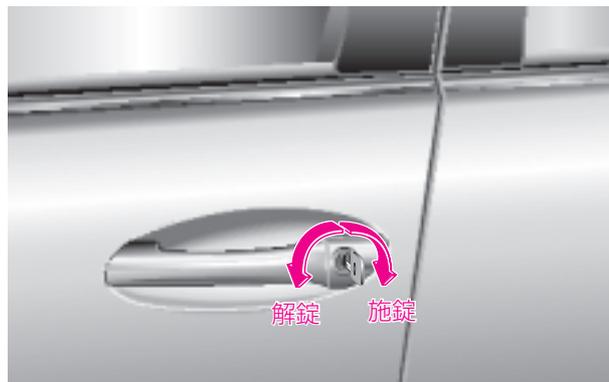
知　識

イージーエントリーの作動を停止するときは、ステアリング調整レバー、シートポジションスイッチのいずれかを操作してください。

右ハンドル車

車内から解錠 / 施錠する

解錠：ドアレバーを矢印の方向に引きます。
施錠：ロックノブを矢印の方向に押し込みます。

注　意！

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

右ハンドル車

左ハンドル車

エマージェンシーキーでドアを解錠 / 施錠する
リモコン操作ができないときは、運転席のドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

解錠：前方にまわします。
施錠：後方にまわします。

車外から開閉する
開く　：ドアハンドルを引きます。
閉じる：ドアハンドルをもって確実に閉じます。

注　意！

- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してドアを開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を止めるには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの［解錠ボタン］か［施錠ボタン］を押します。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

知　識

助手席のドアにはキーシリンダーはありません。

ドアロックスイッチ
すべてのドアとテールゲートを解錠 / 施錠することができます。

解錠：スイッチの上側を押します。
施錠：スイッチの下側を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。
- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

注　意！

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは特に注意してください。

※車種や仕様により、ドアロックスイッチの施錠位置と解錠位置が逆の場合があります。

知　識

- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

車速感応ドアロック
速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能です。

この機能の設定と解除については**(3-105)**をご覧ください。

注　意！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアやテールゲートを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

チャイルドプルーフロック(リアドア)

チャイルドプルーフロックレバーを設定側（上）にしてドアを閉じると、車内のドアレバーを引いてもリアドアを開くことができなくなります。
子供を乗せるときに使用してください。

テールゲート

車外から開く
ハンドルを手前に引き、テールゲートを開きます。

車外から開く(自動開閉テールゲート装備車＊)
- ハンドルを手前に引くと、テールゲートが自動で開きます。
- リモコンのテールゲートオープナースイッチを押し続けるとテールゲートが自動で開きます。

⚠ 警　告

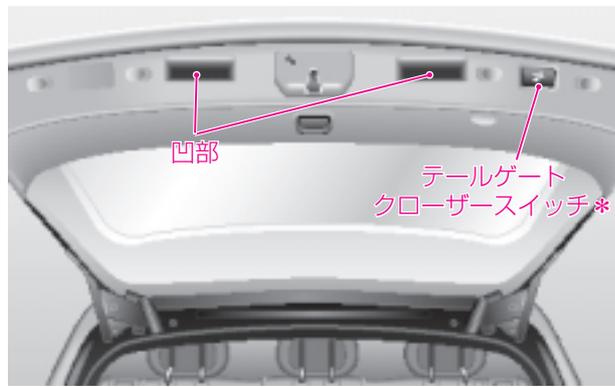
エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

注　意！

- テールゲートを開くときは、テールゲートの周りに障害物がなく、身体や物が挟まれるおそれがないことを確認してください。
- テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 車が施錠されているときに、リモコンのテールゲートオープナースイッチでテールゲートを開き、再度テールゲートを閉じると車は施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。
- 強風のときにテールゲートを開くと、強い風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。
  また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

知　識

- 自動開閉テールゲート装備車＊では、テールゲートが自動で開く高さを2段階に設定することができます。各種設定 "ｼｬﾘｮｳ" の "ﾃｰﾙ ｹﾞｰﾄ ﾉ ｵｰﾌﾟﾝ ﾘﾐｯﾄ" 画面で設定ができます(3-105)。
- 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが開く高さを低い位置に設定したときも、手で高い位置まで開くことができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

自動開閉テールゲート装備車

車外から閉じる

テールゲート内側の凹部に手をかけてテールゲートを引き下げ、外側からテールゲートを軽く押さえます。

テールゲートのロックがかみ合う位置まで閉じるとクロージングサポーター(テールゲートを閉じる電動の補助装置)が作動し、自動的にロックします。

車外から閉じる(自動開閉テールゲート装備車＊)

テールゲートにあるテールゲートクローザースイッチを押すと、テールゲートが自動で閉じます。

知　識

- テールゲートクローザースイッチでテールゲートを閉じているときに挟み込みを感知すると、テールゲートはその位置で止まります。
- テールゲートを開いたまま走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

注　意！

- テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
- テールゲートが開いているときにリモコンで施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。このときはキーの閉じ込みに注意してください。
- テールゲートを閉じるときは、テールゲートの周りに障害物がなく、身体や物が挟まれるおそれがないことを確認してください。
- ラゲッジルームに人を乗せないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- テールゲートクローザースイッチは、安全のため、必ず完全に停車した状態で操作してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

右ハンドル車

車内から開く(自動開閉テールゲート装備車＊)

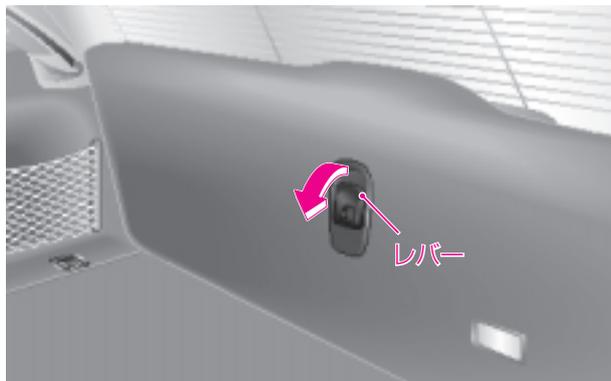
運転席ドアにあるテールゲートオープナースイッチを引いている間だけテールゲートが開きます。テールゲートが開くとスイッチの表示灯が点灯します。

注　意！

- テールゲートを開くときは、テールゲートの周りに障害物がなく、身体や物が挟まるおそれがないことを確認してください。
- テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- テールゲートオープナースイッチは、安全のため、必ず完全に停車した状態で操作してください。
- ラゲッジルームに人を乗せないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 強風のときにテールゲートを開くと、強い風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

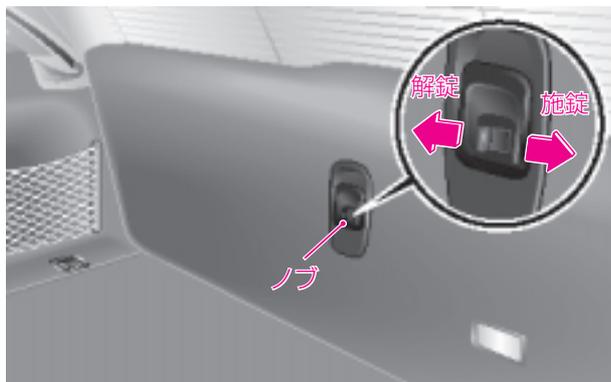
知　識

自動開閉テールゲート装備車＊では、テールゲートが開く高さを2段階に設定することができます。各種設定 "ｼｬﾘｮｳ" の "ﾃｰﾙ ｹﾞｰﾄ ﾉ ｵｰﾌﾟﾝ ﾘﾐｯﾄ" 画面で設定ができます(3-105)。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

テールゲート内側のレバー
テールゲート内側にあるレバーで車内からテールゲートを開くことができます。

開く：レバーを矢印の方向に引き、テールゲートを押し上げます。

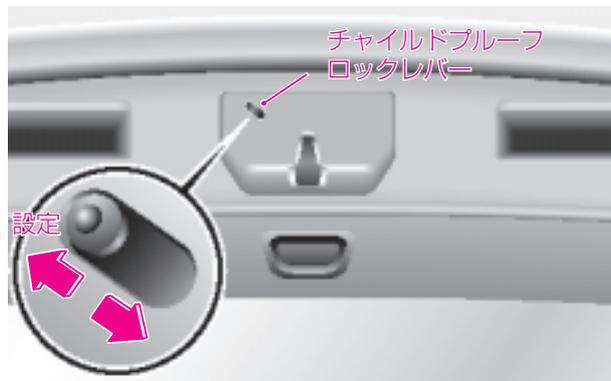
注　意！

- テールゲートを開くときは、テールゲートの周りの人や障害物に当たるおそれがないことを確認してください。
- テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- ラゲッジルームに人を乗せないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 強風のときにテールゲートを開くと、強い風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。
  また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートを開くときに大きな力が必要になります。テールゲートが不意に下がって身体を挟まないように注意してください。

テールゲートの解錠 / 施錠

テールゲート内側のノブでテールゲートを解錠 / 施錠することができます。

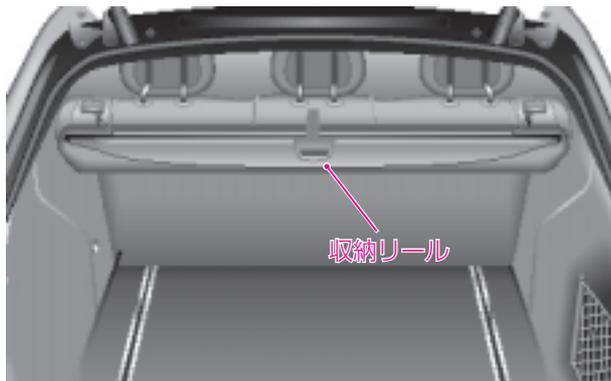
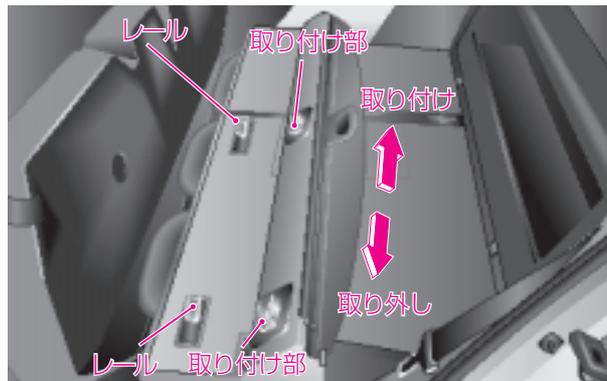
解錠：ノブを解錠側にスライドします。
施錠：ノブを施錠側にスライドします。

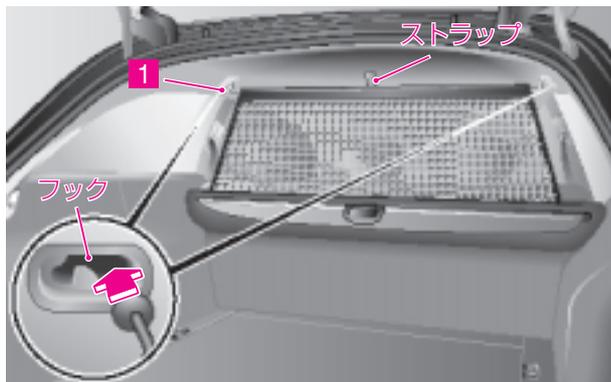
注　意！

- リモコンで施錠されているときに、ノブで解錠し、テールゲートを開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を止めるには、キーをエンジンスイッチに差すか、キーの か を押します。
- ノブでテールゲートを解錠 / 施錠しても、ドア、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。
- ノブが施錠側にスライドしてあっても、テールゲート内側のレバーを引くと、テールゲートは開きます。子供を乗せたときには特に注意してください。

テールゲートのチャイルドプルーフロック
テールゲートのチャイルドプルーフロックレバーを設定側にしてテールゲートを閉じると、車内のレバーを引いてもテールゲートを開くことができなくなります。

テールゲートランプ
テールゲートの内側にあります。
周囲が暗くルームランプが自動点灯モードのとき、テールゲートを開くとラゲッジルームランプやリアルームランプとともに点灯し、閉じると消灯します。

知　識
テールゲートを開いたときに点灯したテールゲートランプとラゲッジルームランプ、リアルームランプはテールゲートを開いたままにしておくと、約5分後に消灯します。

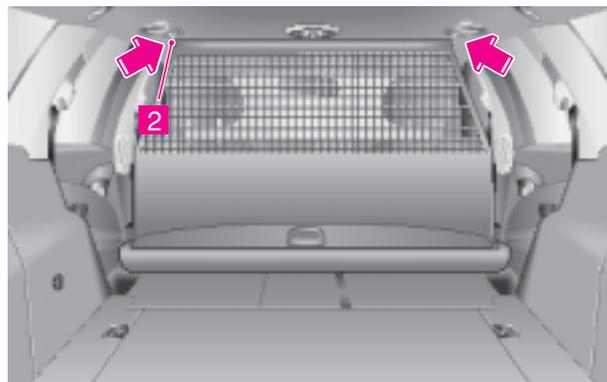
ラゲッジルーム

セーフティネット /
ラゲッジルームカバー収納リール
セーフティネットとラゲッジルームカバーは同じリールに収納されています。

リールの取り外し
リアシートを折りたたみます**(3-18)**。リールを左側(取り外しの矢印の方向)にスライドさせて取り外します。

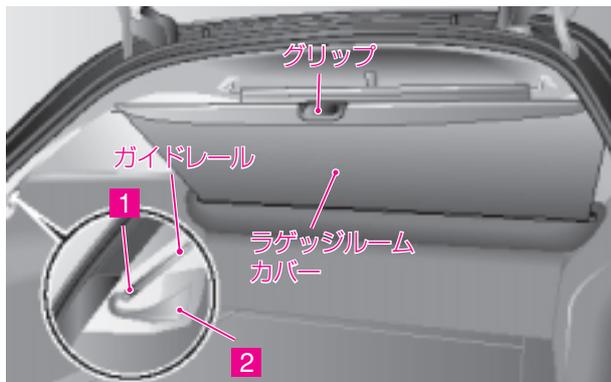
リールの取り付け
リアシートのレールにリールの取り付け部を合わせ、右側(取り付けの矢印の方向)にスライドさせて取り付けます。

リアシートを使用しているとき

リアシートを折りたたんだとき

セーフティネット
ラゲッジルームの荷物が前方に移動することを防ぎます。リアシートを折りたたんだ状態でも使用できます。

セーフティネットを使用する
ストラップを持ってセーフティネットを引き出し、バーの両端をフックにかけます。
- リアシートを使用しているときは**1**の位置のフックにかけます。
- リアシートを折りたたんだときは**2**の位置のフックにかけます。

セーフティネットを収納する
フックからバーの両端を外し、セーフティネットをゆっくり巻き取らせます。

⚠ 警　告
- **荷物を積むときは、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをしないよう、必ずセーフティネットを使用してください。**
- **セーフティネットを使用するときでも、荷物は必ず固定してください。**

注　意！
- セーフティネットを使用しているときに、リアシートを折りたたんだり、起こさないでください。セーフティネットを損傷するおそれがあります。
- セーフティネットを収納するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

ラゲッジルームカバー

テールゲートを開いたときにラゲッジルームカバーが自動的に開きます。テールゲートを閉じると、ラゲッジルームカバーが連動して閉じます。

ラゲッジルームカバーを使用する

1 テールゲートを最も開いた位置まで開きます。
2 ラゲッジルームカバーを引き出し、ラゲッジルームカバーのバーの両端を2の位置からガイドレールに入れ、ストッパー1の手前にかけます。
3 テールゲートを閉じ、数秒間待ちます。次にテールゲートを開くと、ラゲッジルームカバーはテールゲートの開閉に連動するようになります。

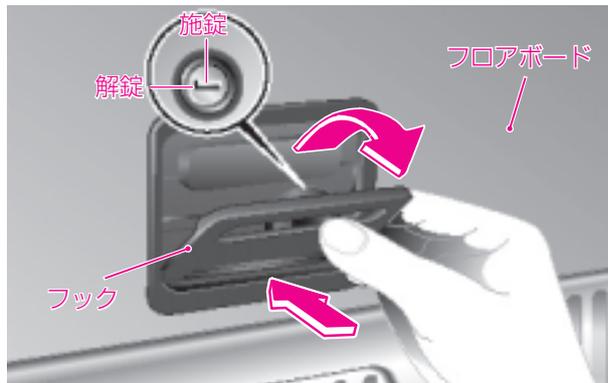
ラゲッジルームカバーを収納する

1 ラゲッジルームカバーがテールゲートと連動して最も開いている状態（図の状態）にします。
2 グリップを持って、ラゲッジルームカバーを手前に引き、左右ピラーのガイドレールに沿うようにラゲッジルームカバーを下げます。
3 ラゲッジルームカバーのバーの両端がストッパー1を越えるように引き、ラゲッジルームカバーのバーの両端を左右のガイドレールから外します。
4 グリップを持ちながら、リールにゆっくり収納します。

⚠ 警　告

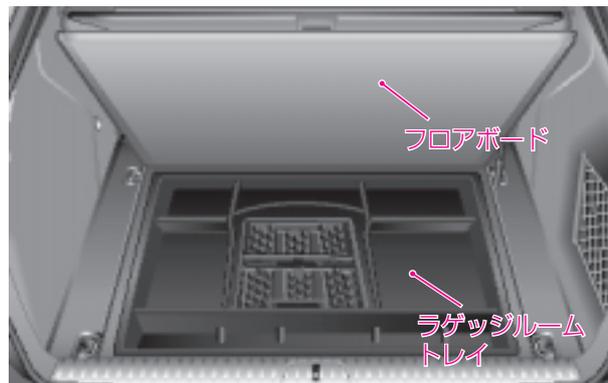
ラゲッジルームカバーの上に荷物などを置かないでください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

ラゲッジルームカバーを収納リールに巻き取らせるときは、グリップを持って、ゆっくりと巻き取らせてください。カバーなどを損傷するおそれがあります。

ラゲッジルームのフロアボード下の収納スペース
フロアボード下にはラゲッジルームトレイがあります。ラゲッジルームトレイには、フィックスキット＊が収納されています。ラゲッジルームトレイを取り外すと、車載工具、ジャッキ、輪止めなどが収納されています。

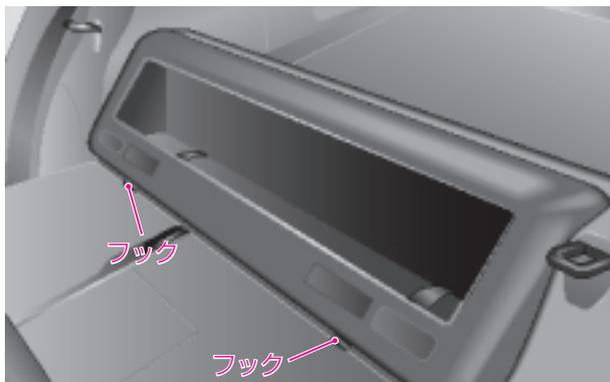
収納スペースを開く
フックを起こし、フロアボードを引き上げます。

フロアボードの解錠 / 施錠
フロアボードのフックの下にあるキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、フロアボードを解錠 / 施錠することができます。

解錠：反時計回りにまわします。
施錠：時計回りにまわします。

ラゲッジルームトレイ
フロアボード下のラゲッジルームトレイには、小物を収納することができます。

注　意！

- ラゲッジルームトレイには重量の軽い物(約20kg以下)だけを収納してください。ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- フロアボードを閉じることができないような大きな物をトレイに入れないでください。フロアボードやトレイ、収納物などを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

シートバックコンテナ
リアシートのバックレスト裏側にシートバックコンテナを装備しています。小物を収納することができます。

シートバックコンテナを使用する
リアシートのバックレストを前方に倒します(3-18)。

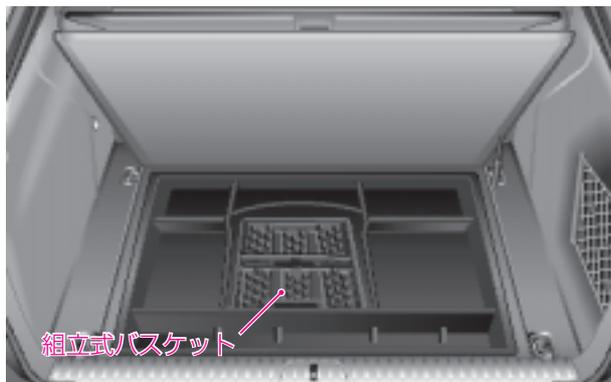
シートバックコンテナを取り外す
リアシートのバックレストを前方に倒し、シートバックコンテナを前方にずらして、フックを外します。

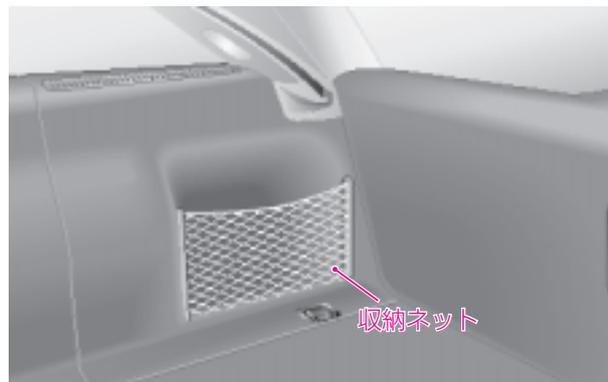
シートバックコンテナを取り付ける
リアシートのバックレストを前方に倒し、フックをリアシートとラゲッジルームのフロアの隙間の元の位置に挟み込むようにして取り付けます。

⚠ 警　告

走行するときは、シートバックコンテナのフックを図の位置に取り付け、必ずリアシートのバックレストを起こして固定してください。事故や急ブレーキのとき、収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

- シートバックコンテナには重量の軽い物(約20kg以下)だけを収納してください。ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- リアシートバックレストが固定できないような大きな物をシートバックコンテナに入れないでください。シートやシートバックコンテナ、収納物を損傷するおそれがあります。

組立式バスケット
ラゲッジルームトレイに組立式バスケットが収納されています。

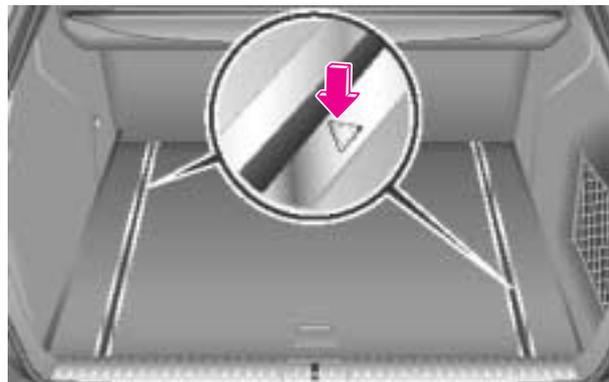
バスケットを組み立てる
バスケットの上部を持ち上げてから、側面のパネルをはめ込みます。

ラゲッジルームの収納ネット＊
ラゲッジルームに収納ネットを装備しています。

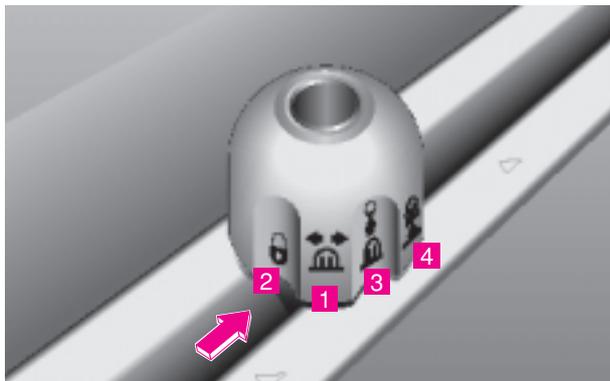
注　意！

収納ネットには、重い物や、固い物、ピンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

フィックスキット＊
アタッチメント固定用レールに以下の物を装着して、荷物を固定します。
- アタッチメント
- リング
- 伸縮式ベルト
- 伸縮式ポール

知　識
アタッチメント、リング、伸縮式ベルトは専用のケースに収納されています。

アタッチメント固定用レール＊
アタッチメント固定用レールには5cm間隔で△マークがあり、そのマークの位置にアタッチメントを固定することができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

アタッチメントを固定した状態

アタッチメント＊

リングや伸縮式ベルト、伸縮式ポールを固定するときに使用します。アタッチメント固定用レールの△マークの位置にアタッチメントを固定することができます。

アタッチメントをアタッチメント固定用レールに固定する

4が図の矢印の位置に合うようにして、アタッチメントをアタッチメント固定用レールにはめ込みます。

アタッチメントの中心を△マークに合わせ、2が図の矢印の位置に合うようにまわすと、アタッチメントが固定されます。

知　識

アタッチメントは△マーク以外のところでは固定できません。

注　意！

アタッチメントが確実に固定されていることを確認してください。

アタッチメントの移動

1が図の矢印の位置に合うようにまわします。ロックが解除され、固定用レール上を移動させることができます。固定するときは、アタッチメントの中心を△マークに合わせて2が矢印の位置に合うようにまわします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

アタッチメントにリングやベルト、ポールを固定する

3が図の矢印の位置に合うようにまわします。リングやベルト、ポールをアタッチメントの穴に差し込みます。2が矢印の位置に合うようにアタッチメントをまわすと、リングなどが固定されます。

アタッチメントからリングやベルト、ポールを取り外す

3が図の矢印の位置に合うようにまわします。
リングなどを取り外せるようになります。

アタッチメントを取り外す

4が図の矢印の位置に合うようにまわして、アタッチメントを取り外します。

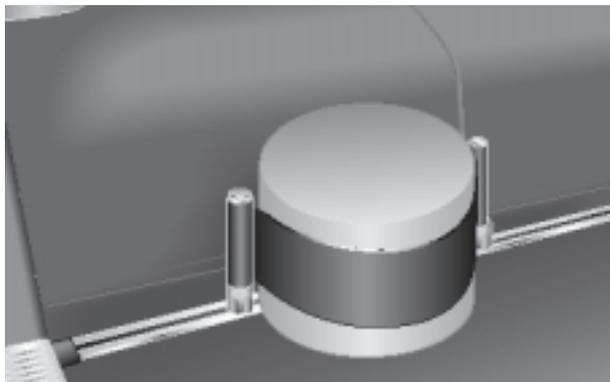
アタッチメントには、リングや伸縮式ベルト、伸縮式ポールを取り付けて、様々な大きさや形状の荷物を固定できます。

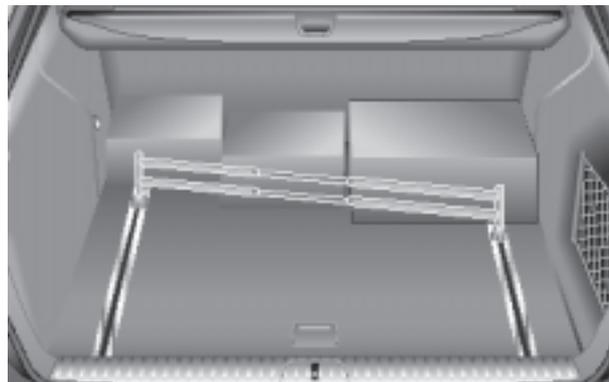
リング＊

ロープやネット、締め付けストラップで荷物を固定するときに使用します。

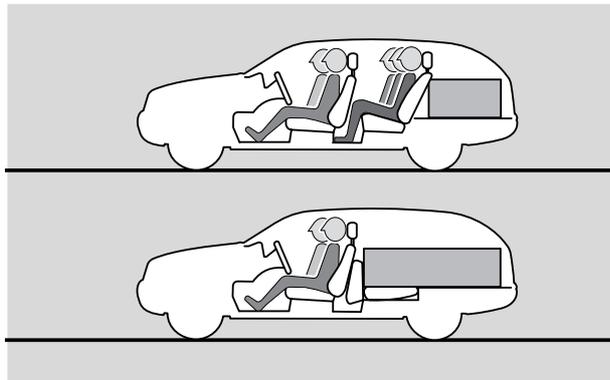
注　意！

締め付けストラップは、耐荷重張力700kg以上、幅25mm以下のものを使用してください。

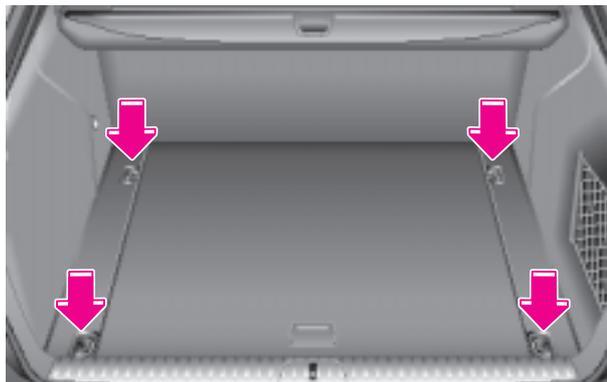
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

伸縮式ベルト＊
ラゲッジルーム側面に軽い荷物、様々な形の荷物を固定するときに使用します。

注　意！
- 荷物を積むときは、確実に固定されていることを確認してください。
- 伸縮式ベルトや伸縮式ポールで確実に固定できない荷物は、車載しないでください。

伸縮式ポール＊
ラゲッジルーム前方に荷物を固定するときに使用します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

フィックスキット非装備車

ラゲッジルームに荷物を積むとき

荷物を積んだときの車の走行安定性は、積み方によって大きく影響します。以下の点に注意してください。

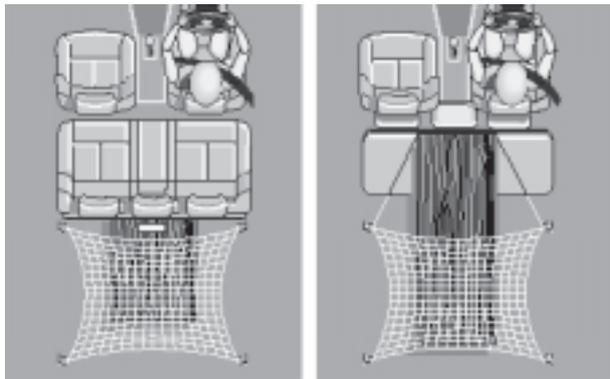
- 荷物はラゲッジルームに積み、リアバックレスト、または前方に倒したシートクッションに接するようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルーム前方の低い位置）に確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が激しく動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物は重量が均等になるように積み、一部に偏らないようにしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

荷物を固定するとき

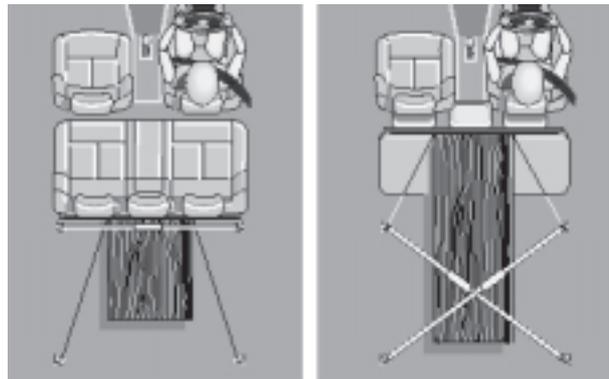
荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー・クライスラー社の推奨品の使用をおすすめします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、ラゲッジルームの4個(図矢印)の荷物固定用リング＊に通して確実に結んでください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

知　識

フィックスキット装備車は、リング(3-42)を装着してロープを使用してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ロープやネット、締め付けストラップなどで荷物を固定するとき

- 伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。重い荷物を固定することができず、事故や急ブレーキのとき、乗員がけがをするおそれがあります。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 締め付けストラップは、図のように荷物の上で交差するようにかけ、荷物の重量が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。締め付け金具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。
- 締め付けストラップは、耐荷重張力700kg以上、幅25mm以下のものを使用してください。

ボンネット

⚠ 警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近づけないでください。

右ハンドル車

ボンネットを開く

1　ダッシュボードの運転席側下部にあるボンネットロック解除レバーを手前に引きます。ボンネットのロックが解除されます。

2 ラジエターグリルから突き出したノブを手前に引きながら、もう一方の手でフロントグリルの下部を持ち上げてボンネットを押し上げます。

注　意！

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。
- ボンネットを開くときは、ノブを持ったり、グリルの間に手をかけて引き上げないでください。ノブを損傷したり、手にけがをするおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

ボンネットを引き下げ、矢印の位置に手を置いて、軽く反動をつけて閉じます。完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

注　意！

- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、グリルに手をかけないでください。手にけがをするおそれがあります。
- ボンネットを閉じるとき、矢印以外の部分を押さえて閉じるとボンネットが凹むおそれがあります。また、閉じるときは身体を挟まないように注意してください。

⚠警　告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開くと事故を起こすおそれがあります。

知　識

ボンネットが正しく閉じていないときに走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

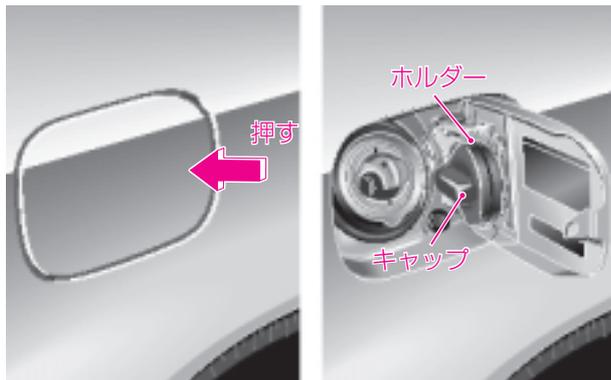
ボンネット左側

垂直位置まで開く

1　ボンネットを手で少し下げながら、ボンネット左側のヒンジにあるロックレバーを矢印の方向に押してロックを解除します。
2　同様に、ボンネット右側のヒンジにあるロックレバーを押してロックを解除します。
3　ボンネットを垂直の位置に起こします。

垂直位置から閉じる

ボンネット左側のロックレバーを押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

燃料給油口

車が解錠されているとき、矢印の位置を押すとフラップが開きます。
閉じるときはフラップを押します。

キャップを外す
キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜いてから外します。

キャップを取り付ける
キャップを時計回りにいっぱいにまわします。

⚠警　告

- **エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。**
- **周囲にガソリンがあるときやガソリンの匂いがするときは、決して火気を近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。**

注　意！

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止することがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。燃料が車の塗装面に垂れたときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 燃料給油口が開かない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 外したキャップはフラップの裏側にあるホルダーに固定できます。
- フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては(7-15)をご覧ください。

盗難防止警報システム

ドア、テールゲート、ボンネットなどが閉じていることを監視し、車がリモコン以外の方法で開けられたときや、ウインドウを割って中からドアを開けられたとき、けん引などにより車両が傾くのを感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

システムを待機状態にする

リモコン操作で車を施錠すると、ドアロックスイッチの表示灯が点滅し、約10秒後に待機状態になります。システムが待機状態のときは、ドアロックスイッチの表示灯が点滅を続けます。

待機状態を解除する

リモコン操作で解錠すると、待機状態は解除されます。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- リモコン以外の方法で車が解錠され、ドアが開けられたとき
- リモコン以外の方法で車が解錠され、テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプも点灯します。

バッテリーの接続が絶たれたときも、警報が作動します。

警報が作動したときの解除方法

キーの か を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

注　意！

- システムを待機状態にするときは、ボンネットが完全に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。
- システムが待機状態のとき車内からドアやテールゲートを開くと警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- リモコン操作で車を施錠しても、ドアロックスイッチの表示灯が点滅しない場合は、盗難防止警報システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

リモコンで施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、警報が作動します。

けん引防止警報機能＊

盗難防止警報システムが待機状態のとき、けん引などで車両が持ち上げられて傾くと、けん引防止警報機能が働き、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

警報が作動したときの解除方法

キーの［解錠］か［施錠］を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報機能を解除してから施錠してください。

けん引防止警報機能の解除

1 エンジンスイッチを0か1の位置にします。またはキーを抜きます。
2 けん引防止警報解除スイッチを押します。表示灯が約2秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止警報機能が解除されます。
3 リモコンで施錠します。

上記の操作で盗難防止警報システムのけん引防止警報機能が解除され、車両が傾いても警報が作動しなくなります。
ただし、盗難防止警報システムは作動します。

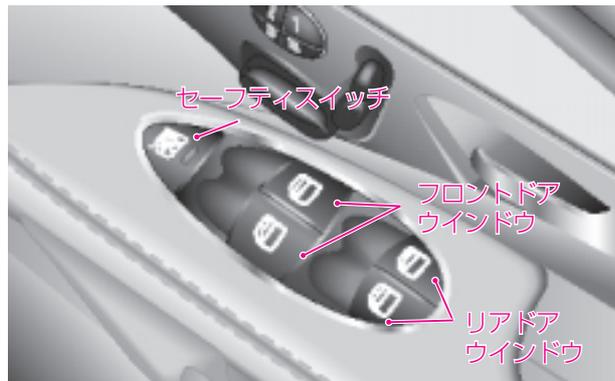
知　識

エンジンスイッチが2の位置のときにスイッチを押すと表示灯が点灯することがありますが、けん引防止警報機能は解除されません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パワーウインドウ

右ハンドル車

ドアウインドウの開閉

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。
運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、ドアウインドウを開閉できます。

開く　：スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。
スイッチを深く押すと、自動で開きます。

閉じる：スイッチを軽く引くと、引いている間だけ閉じます。
スイッチをいっぱいに引くと、自動で閉じます。

知　識

- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを軽く押すか引くと、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを**0**の位置にしてから約5分間は、ドアウインドウを開閉することができます。5分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席側のフロントドアウインドウは、一度挟み込み防止機能が働くと、約10秒間は挟み込みなどの抵抗を感知しません。

注　意！

- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。
- 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

セーフティスイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウ操作ができなくなります。子供がリアシートに乗るときなどに使用します。

セーフティスイッチを押すと、スイッチの表示灯が点灯し、リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。
解除するときは再度スイッチを押します。スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

セーフティスイッチの表示灯の点灯 / 消灯にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作することができます。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。このときは、スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。この操作を他のドアウインドウでも行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スライディングルーフ

エンジンスイッチが1か2の位置のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

1 の方向に軽く押します。押している間だけ開きます。
1 の方向に強く押すと、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

2 の方向に軽く押します。押している間だけ閉じます。
2 の方向に強く押すと、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップする

3 の方向に軽く押します。押している間だけチルトアップします。
3 の方向に強く押すと、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

4 の方向に軽く引きます。引いている間だけチルトダウンします。
4 の方向に強く引くと、自動でチルトダウンします。

知　識

- スライディングルーフが自動で開閉、またはチルトアップ / チルトダウンしているときに、スイッチを軽く押すと、その位置で停止します。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。スライディングルーフが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。
- エンジンスイッチを0の位置にしてから約5分間は、スライディングルーフを操作することができます。5分以内にフロントドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。

スライディングルーフが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリー交換などで、一時的に電源が断たれたときは、スライディングルーフが自動で開閉できなくなることがあります。このときは、スイッチを 3 の方向に押してチルトアップし、そのまま約2秒間押し続けてください。再びスライディングルーフが自動で開閉できるようになります。

注　意！

- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフのシール部に傷をつけないように注意してください。車内に水や雨などが漏れるおそれがあります。
- 降雨後や積雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

知　識

スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で止まります。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 電圧が低下したとき
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約12時間経過したとき

注　意！

- 自動チルトアップ機能は、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは働きません。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約30秒間は、自動チルトアップ機能は働きません。
- スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が働き、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。自動チルトアップ機能は解除されます。
- 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じるおそれがあります。

知　識

- レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は働きません。
- スライディングルーフが開いた状態で、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに "ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ﾙｰﾌ ﾄﾞｼﾞﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

サンシェード

グリップ部分を持って開閉します。
スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

注　意！

スライディングルーフが動いているときに、サンシェードとルーフ内張りの間に指や手を挟まれないように注意してください。

スイッチで開閉できないとき
バッテリーあがりを起こしたり、スライディングルーフが故障してスイッチで閉じることができないときは、手動で閉じることができます。

注　意！
手動で閉じるときは、スライディングルーフスイッチに触れないでください。万一、スライディングルーフが作動するとけがをすることがあります。

1　付属のクランクレンチを用意します。
2　図の矢印の部分を押して、カバーを取り外します。

3　エンジンスイッチからキーを抜きます。
4　クランクレンチを手動駆動部（六角ボルト）に止まるまで差し込んでクランクレンチをまわします。

スライディングルーフを閉じる
時計回り（右）にまわします。

チルトダウンする
反時計回り（左）にまわします。

スライディングルーフを手動で閉じた後は、スライディングルーフをリセットしてください。

スライディングルーフのリセット
1　エンジンスイッチを**2**の位置にします。
2　スイッチを❸の方向**(3-55)**に押してチルトアップし、そのまま約2秒間押し続けます。

注　意！

- クランクレンチは確実に奥に差し込み、操作時は駆動部に押しつけるようにしながらまわしてください。確実に差し込まれていないと、駆動部を損傷したり、けがをすることがあります。
- クランクレンチで容易に駆動部がまわせないときは、スライディングルーフのレール部分に異物がかみ込んでいることがあります。無理に動かさずに異物を取り除くか、指定サービス工場で点検を受けてください。スライディングルーフのリセットができないときなども、指定サービス工場で作業を行なってください。

ルームミラー

角度の調整
手で調整します。

⚠ 警　告

走行前に後方視界が十分に確保できるように、ルームミラーを調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

自動防眩機能
夜間、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

知　識

- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動的に防眩しないことがあります。
- セレクターレバーがRに入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動的に防眩が解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも自動的に防眩になります。

注　意！

- ミラーのガラスを損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないように注意してください。万一、液体が目に入ったときは、ただちに清潔な水で5分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に垂れたときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

ドアミラー

右ハンドル車

角度の調整

エンジンスイッチが1か2の位置のときに調整できます。

1 調整する側の選択ボタンを押します。
2 調整スイッチを操作してミラーの角度を調整します。

⚠ 警　告

走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

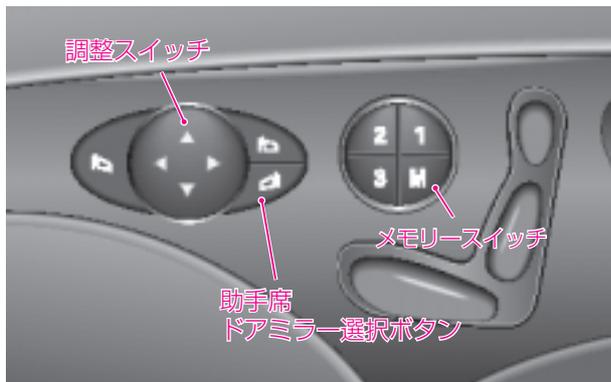
自動防眩機能

エンジンスイッチが1か2の位置のとき、夜間、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的に運転席側ドアミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

注　意！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶(3-12)させることができます。

右ハンドル車

後退時の助手席ドアミラーの角度

セレクターレバーをRに入れたときに、助手席ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。エンジンスイッチが2の位置のときに作動します。

知　識

運転席ドアミラー選択ボタンが押されているときやマルチファンクションディスプレイの"ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾍﾙﾌﾟ ﾐﾗｰﾁｮｳｾｲ"が"ｵﾌ"になっているときは、助手席ドアミラーは自動的に下向きになりません。

この機能の設定と解除については(3-108)をご覧ください。

後退時の助手席ドアミラー角度を記憶させる

後退時の助手席ドアミラー角度を調整し、記憶させることができます。記憶させるときは、エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏み、以下の操作をします。

1　セレクターレバーをRに入れます。
2　助手席ドアミラー選択ボタンを押します。
3　調整スイッチで、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。
4　メモリースイッチを押し、約3秒以内に調整スイッチをいずれかの方向に押します(このときドアミラーは動きません)。ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

この後セレクターレバーをRに入れると、助手席ドアミラーの角度がこのとき調整された位置になります。

助手席ドアミラーは次のいずれかのときに元の位置に戻ります。

- セレクターレバーをRから他の位置に入れて約10秒経過したとき
- 走行速度が約10km/h以上になったとき
- 運転席ドアミラー選択ボタンを押したとき
- マルチファンクションディスプレイの"ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾍﾙﾌﾟ ﾐﾗｰ ﾁｮｳｾｲ"を"ｵﾌ"にしたとき

右ハンドル車

ドアミラーの格納 / 展開

エンジンスイッチが1か2の位置のときに格納 / 展開できます。

スイッチを押すたびに、ドアミラーが格納 / 展開します。

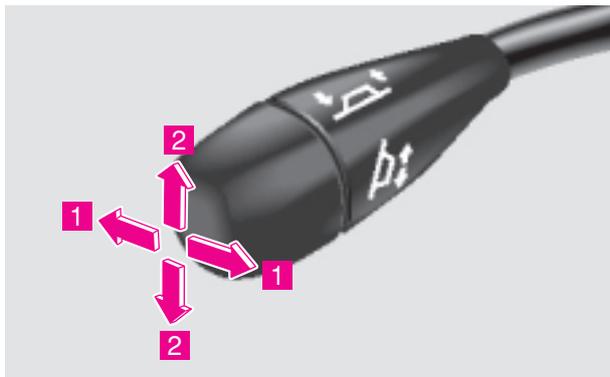
知　識

- エンジンを停止して停車しているときに歩行者などが当たり、ドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動し、速度が約50km/hに達すると、ドアミラーが走行時の位置に戻ります。完全に戻らないときは、スイッチで戻してください。

- 車種や仕様により、リモコンでの施錠時にドアミラーを格納することができます。詳しくは(3-108)をご覧ください。

注　意！

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを走行時の位置にしてください。
- ドアミラーの格納 / 展開操作をしているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周囲に子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときは、必ず純正のガラスクリーナを使用してください。ミラーが変色するおそれがあります。

ステアリング

ステアリングヒーター非装備車

ステアリング位置の調整

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または運転席ドアが開いているときにステアリングの位置を調整することができます。レバーはステアリングの左側下部にあります。

前後位置の調整：レバーを 1 の方向に操作します。
上下位置の調整：レバーを 2 の方向に操作します。

知　識

ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶(**3-12**)させることができます。

警　告

- **ステアリング位置の調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。**
- **運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。**
- **ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。**

注　意！

- ステアリングをいっぱいに切った状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングヒーター＊

操作レバーはステアリングの左側下方にあります。エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

使用する

レバーを1の方向にまわします。レバーの表示灯が点灯します。

解除する

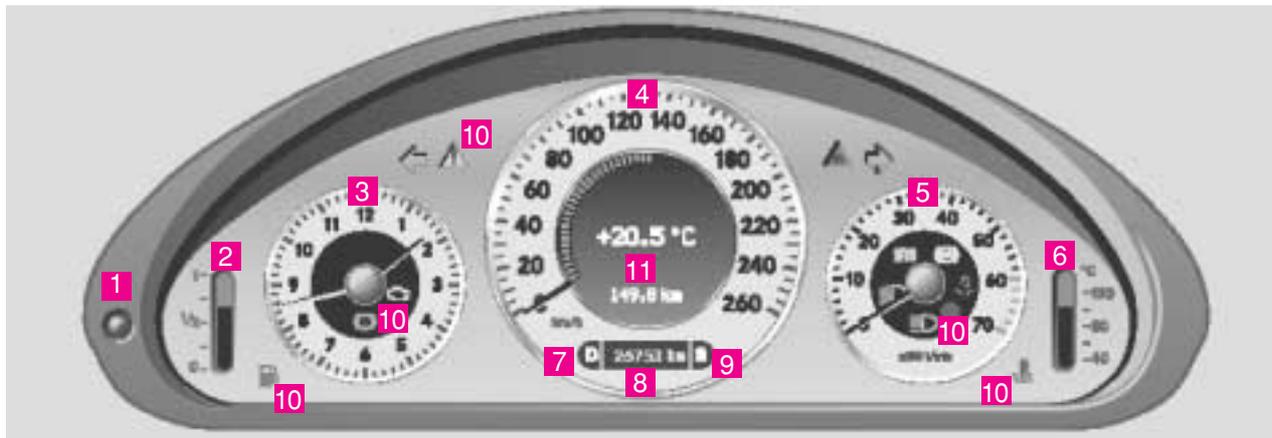
レバーを0の方向にまわします。レバーの表示灯が消灯します。

知　識

- ステアリングのウッド部分は温まりません。
- ステアリングヒーターの温度設定は、車内の温度などによって変化します。
- ステアリングヒーターは自動的に解除されません。
- ステアリングヒーターを使用した状態でエンジンスイッチからキーを抜くと、次にエンジンスイッチを1か2の位置にしたとき、ステアリングヒーターはオフになります。

注　意！

ステアリングヒーターに異常を感じた場合は、使用を止め、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

メーターパネル

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC / E 500の例

メーターパネルのディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席のドアを開いたとき(約30秒後に消灯)
- リセットボタンを押したとき(約30秒後に消灯)
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- 車外ランプを点灯したとき
- ステアリングのスイッチを押したとき(約30秒後に消灯)

1 メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン

周囲が暗いときに明るさを調整できます。ボタンを時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定をリセットするときに使用します。

2 燃料計

燃料の残量をバーグラフで表示します。
燃料タンク容量は約80リットルです。

注　意！

給油のときはエンジンを停止してください。

3 時計

時刻は、マルチファンクションコントローラーの時刻と連動させたり、個別に調整することができます。

時刻は各種設定の "ジカン / ヒヅケ" 画面(3-93)で調整します。

4 スピードメーター

車の走行速度を表示します。

5 タコメーター

1分間当たりのエンジン回転数を表示します。

6 水温計

冷却水の温度をバーグラフで表示します。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約130℃までオーバーヒートを起こしません。
- 暑い日の渋滞時や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、オーバーヒート警告が表示されない限り、問題ありません。
- 万一、オーバーヒートが起きたときは、警告が表示されます。

7 シフト位置表示

シフト位置を表示します(4-5)。

8 オドメーター

これまで走行した累積距離を表示します。

9 走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します(4-6)。

10 表示灯と警告灯

ヘッドランプ表示灯
ヘッドランプを点灯させたとき点灯します。

ハイビーム表示灯
ヘッドランプを上向きで点灯させたとき点灯します。

シートベルト警告灯
エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検してください。
詳しくは**(2-5)**をご覧ください。

方向指示表示灯
方向指示灯、非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

ABS / ESP表示灯(4-39)
エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。走行中は以下のようなときに作動します。
- ESPの機能を解除したときに点灯します。
- ABSまたはESPが作動したときに点滅します。

エンジンスイッチを**2**の位置にしても点灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

SRS

エアバッグシステム警告灯(2-10)
エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。
消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システム＊の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エンジンスイッチが**1**の位置のときは数秒後に消灯しますが、異常ではありません。

＊車種や仕様により装備が異なります

エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。走行中に点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限されアクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車し指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れの場合にエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3～4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

ブレーキ警告灯 (4-30)

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。
また以下のようなときに点灯します。

- SBC**(4-34)**に異常があるとき
- ブレーキ液のレベルが低下しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき

注　意！

- SBCの異常の場合は、必ずマルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
- ブレーキ液が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。
燃料の残量が少なくなると点灯します。
警告灯が点灯したときの残量は約9リットルです。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

ABS警告灯（4-32）

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。消灯しなかったり、走行中に点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。

注　意！

- ABS警告灯が点灯したときはESP、BASも作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンスイッチを2の位置にしても警告灯が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水量・冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。
エンジンがかかっているときに点灯したときは、冷却水量が減少しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水温度が下がってから、冷却水量を点検してください。

走行中に点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約125℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。詳しくは、オーバーヒートしたとき(6-24)をご覧ください。

以下の表示灯は、他の表示灯と同様に点灯しますが、日本仕様車には該当しない装備なので表示灯としては機能しません。

11 マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や警告メッセージなどを表示します。
運転席ドアを開くと表示され、約30秒後に消灯します。
エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると表示されたままになります。

知　識

エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときにマルチファンクションディスプレイを表示させたい場合は、リセットボタンかステアリングのスイッチを押してください。約30秒間表示させることができます。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。

※マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージの表記などは、仕様・装備により異なることがあります。また、予告なく変更される場合があります。

以下のように主要な機能が7つあります。

A **車両情報**(項目を選んで表示させます)

B **オーディオ**(オーディオの作動状態を表示します)

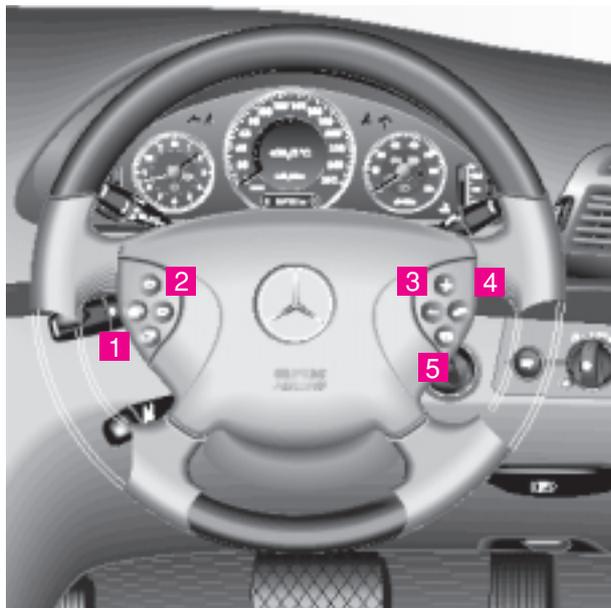
C **ナビゲーション・進行方向方位表示**

D **故障表示**(故障があるときに表示されます)

E **各種設定**(設定項目を表示させ、設定内容を変更することができます)

F **トリップコンピューター**(走行距離や平均速度などを表示させます)

G **電話**

故障 / 警告メッセージについては、(9-15)をご覧ください。

注　意！

走行中にステアリングスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

ステアリングスイッチ

マルチファンクションディスプレイの表示を切り替えたり設定を変更するときは、ステアリングのスイッチを使用します。

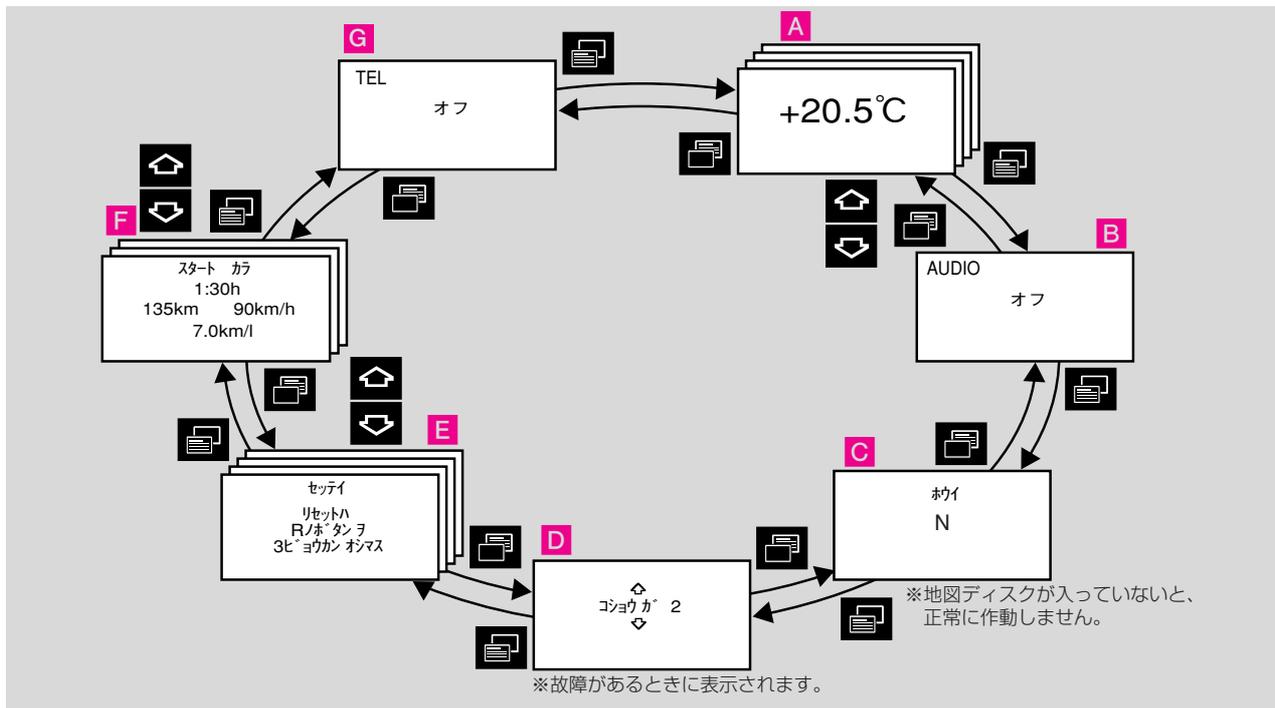
1 、表示切り替えスイッチ
メイン画面を選択します。

2 、スクロールスイッチ
選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

3 、設定スイッチ / 音量スイッチ
サブ画面表示中に、設定項目を選択したり、オン / オフを選択します。
各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。

4 通話開始スイッチ(電話)

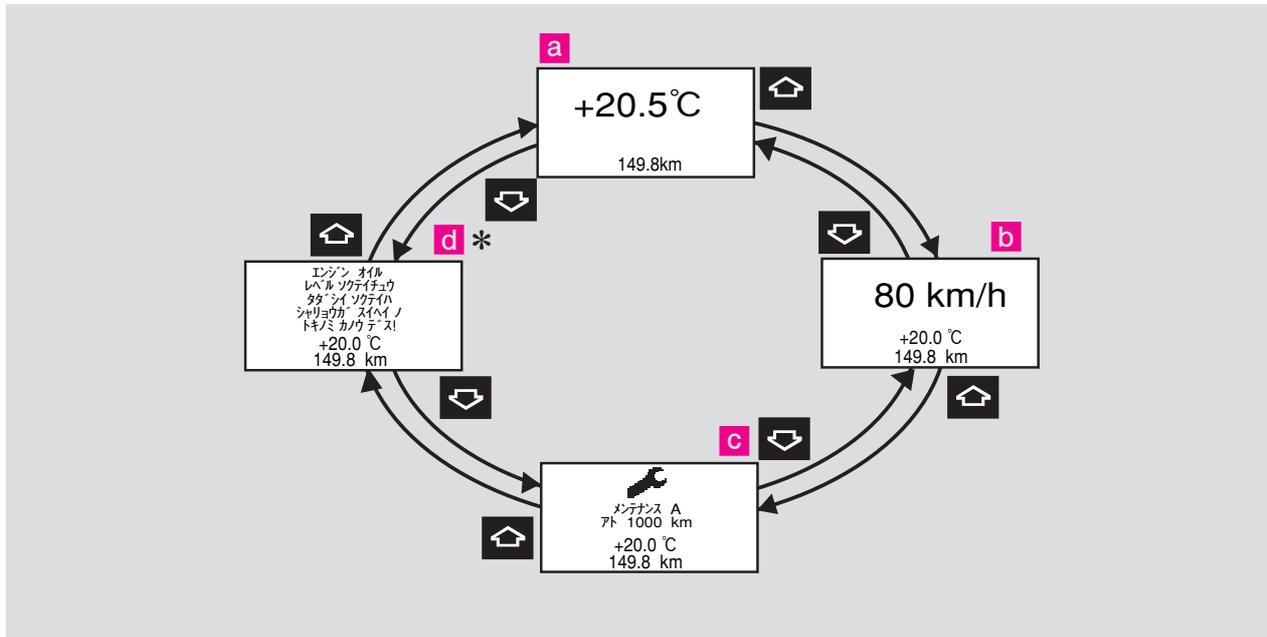
5 通話終了スイッチ(電話)

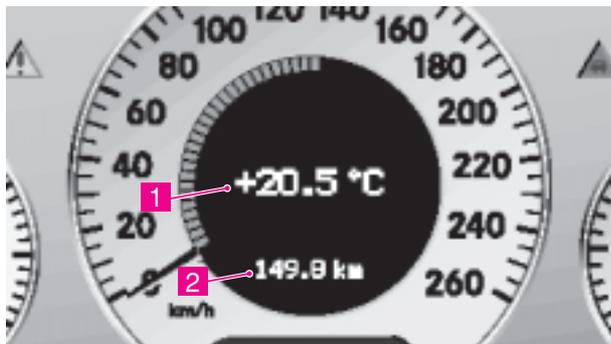
電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

メイン画面一覧

または を押すと上記のように画面が切り替わります。

A 車両情報(3-75)
B オーディオ(3-83)
C ナビゲーション・進行方向方位表示(3-84)
D 故障表示(3-85)
E 各種設定(3-86)
F トリップコンピューター(3-112)
G 電話(3-114)

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

A 車両情報

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

a **車両情報メイン画面**
(外気温度 / 走行速度表示、トリップメーター)

1 **外気温度 / 走行速度表示**
外気温度、または走行中の速度を表示します。
表示の切り替えは各種設定のメータークラスタの車両情報メイン画面の表示設定画面(**3-92**)で行ないます。

⚠ 警　告
温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意！
外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識
温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

2 **トリップメーター**
リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする(0に戻す)
リセットボタンを、表示が0.0になるまで押し続けます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

b 走行速度 / 外気温度表示画面

3 **走行速度 / 外気温度表示**
走行中の速度、または外気温度を表示します。
表示の切り替えは各種設定のメータークラスタの車両情報メイン画面の表示設定画面(3-92)で行ないます。

表示させる

1 [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
2 [ボタン]または[ボタン]を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

4 **ディスプレイ下段の表示**
外気温度、または走行中の速度を表示します。
表示の切り替えは各種設定のメータークラスタのディスプレイ下段の表示設定画面(3-91)で行ないます。

知　識
ディスプレイ下段の表示は、車両情報メイン画面の表示設定画面(3-92)の設定により、表示されないことがあります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

C メンテナンスインジケーター画面
走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

手動で確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

1 [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
2 [▲]または[▼]を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

自動表示機能

次回のメーカー指定点検整備実施日の約1ヵ月前になると、エンジンスイッチを2の位置にしたときや走行中に、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。
#にはAからHまでのアルファベットが入ります。

- **点検実施前の表示例**
  "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ"
  "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"
- **点検実施時期になったときの表示例**
  "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"
- **実施時期を過ぎたときの表示例**
  実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示されます。
  "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"
  "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

注 意！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を期限までに行なわなかった場合は、保証の対象外になることがあります。

知　識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ" の後に表示されるAからHのアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。
- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A＋" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B＋" など、AからHのアルファベットの後に[＋]の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。
- ブレーキパッドは次回のメンテナンス以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。
  ◇今回のメンテナンスで交換する
  ◇後日に別途交換する
- メンテナンスインジケーター画面が表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わってきます。エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次の実施時期までの距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注　意！

メンテナンスインジケーター画面の表示などに異常を感じるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

d エンジンオイル量点検画面＊
エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注　意！

運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

※E 280 / E 350 / E 350 4MATICは、エンジンオイルレベルゲージ(7-6)でエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

1 安全で水平な場所に停車します。
2 エンジンを始動し、エンジンオイルを暖めます。
3 エンジンを停止して、約5分待ちます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ!" と表示されたときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。

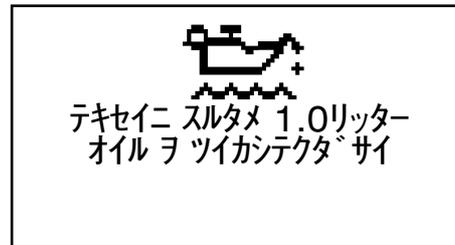
5 [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。
6 [ボタン]または[ボタン]を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。
"ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲﾁｭｳ ﾀﾀﾞｼｲ ｿｸﾃｲﾊ ｼｬﾘｮｳｶﾞ ｽｲﾍｲ ﾉ ﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳ ﾃﾞｽ!" と表示されます。

知　識

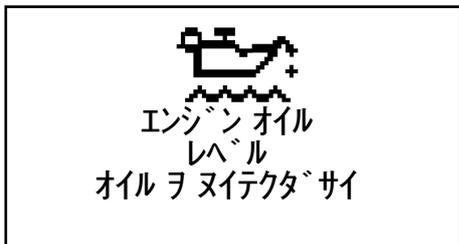
エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

点検結果に応じ、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイルを約1.0リットル補給してください。

知　識

- エンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。
- エンジンオイルの補給については**(7-7)**をご覧ください。

このときは、エンジンオイルが多すぎます。
運転を中止し、エンジンオイルの量を適正にしてください。

注　意！

エンジンオイルが多すぎると、エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

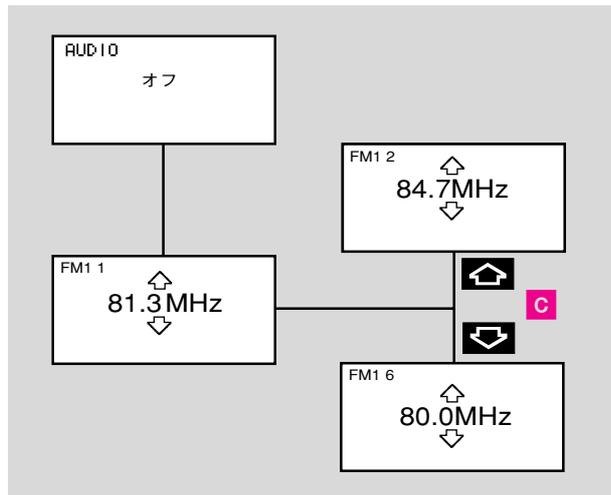
このときは、エンジンオイルレベルが安定するまで、しばらく待ってから点検をやり直してください。

注　意！

エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障／警告メッセージが表示されたときは(**9-22、23**)をご覧ください。

知　識

エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ!" と表示されます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

B オーディオ

オーディオ(ラジオ、CDプレーヤーなど)の使用時にそれぞれの情報を表示します。
オーディオのメイン画面表示中に、⇧または⇩を押すと、ラジオの選局やCDの選曲などができます。

音量調節

＋または－を押すと、音量を調節できます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

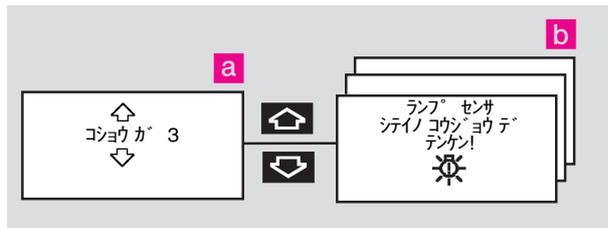
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

C ナビゲーション・進行方向方位表示

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

D 故障表示

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。
故障があるときに表示されます。

a 故障件数画面(この例では3件故障があります)
b 故障メッセージ画面の例

自動表示機能

走行中に故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。
画面を切り替えるときは または を押します。

故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

1. または を押して、故障件数画面 a を表示させます。
   故障件数が数字で表示されます。
2. または を押して、故障メッセージ画面 b を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面 a に戻ります。

リセット

エンジンスイッチを0の位置にすると、重要度の高いメッセージを除き、故障メッセージの表示が消えます。ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にしたとき、再びメッセージが表示されます。

注　意！

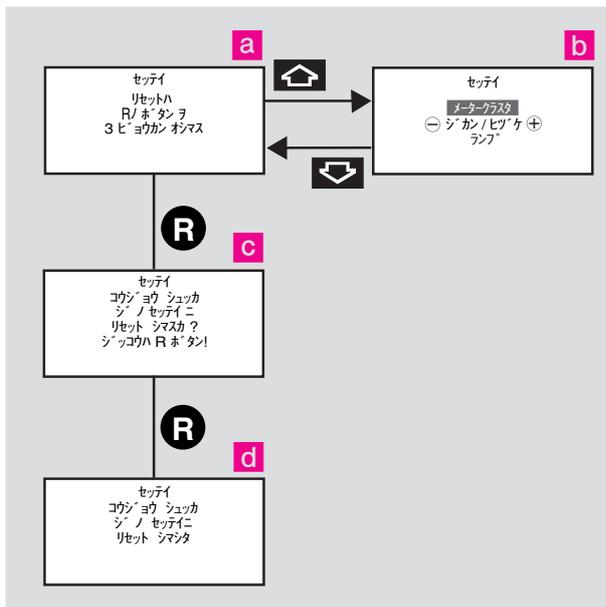
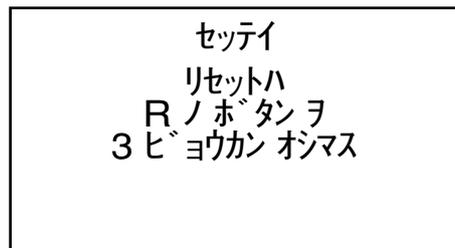
- 表示される故障や不具合は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や不具合の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては、(9-15～)をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

E 各種設定

知　識

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

a 各種設定メイン画面

メイン画面を表示させる

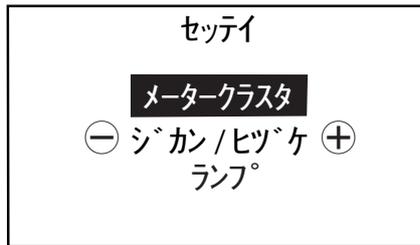
またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます。

b 設定グループ選択画面

セッテイ

メータークラスタ

⊖ ジカン / ヒヅケ ⊕

ランプ

設定グループ選択画面を表示させる

各種設定メイン画面表示中に を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

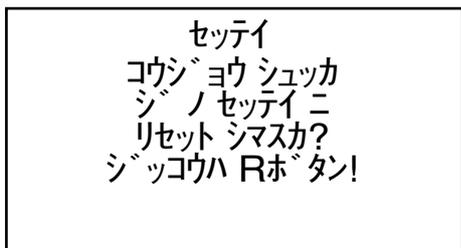
1 ＋または－を押して、設定グループを選択します。
2 選択したグループ名を確認し、 を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

各種項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更することができます。

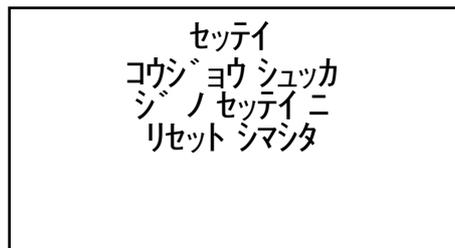
1 または を押すと、次の設定画面が表示されます。
2 または を押すと、次のメイン画面が表示されます。

c 各種設定項目の初期化画面

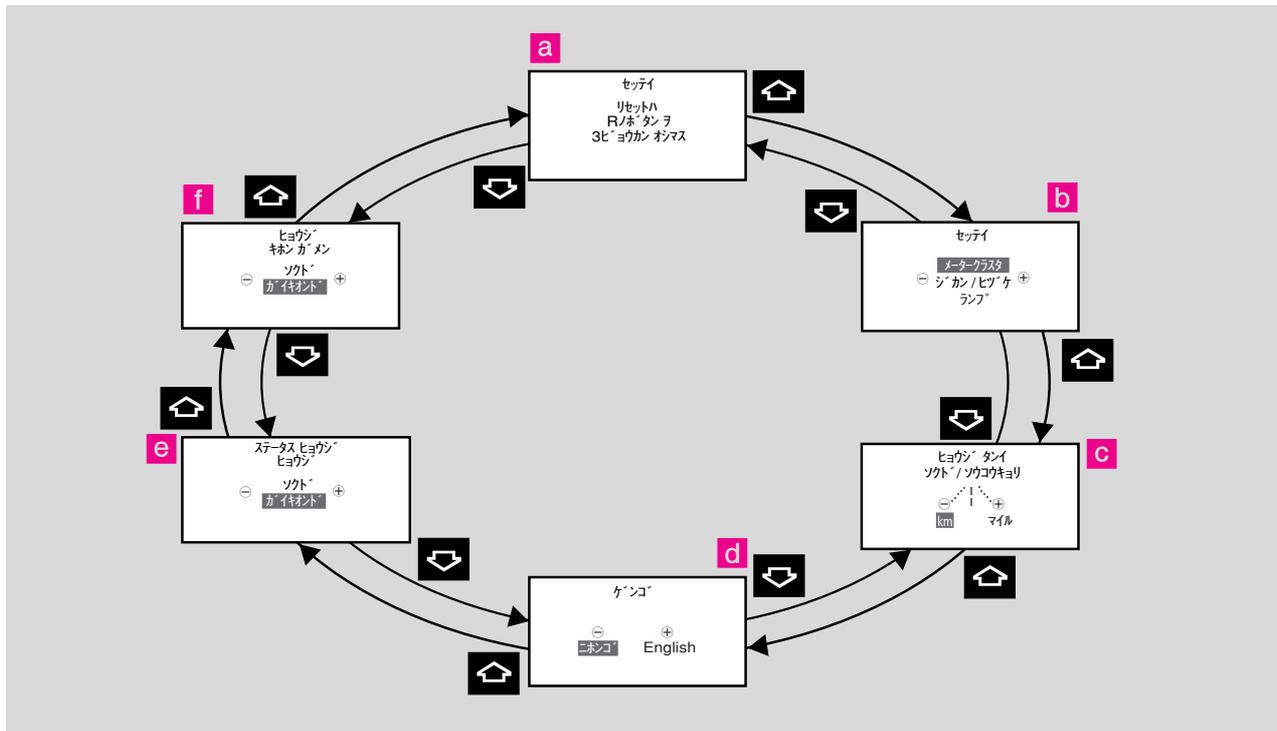
セッテイ
コウシ゛ョウ シュッカ
シ゛ ノ セッテイ ニ
リセット シマスカ?
シ゛ッコウハ Rホ゛タン!

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

1 または を押して、各種設定メイン画面を表示させます。
2 リセットボタンを約3秒間押し続けます。
上記の初期化画面が表示されます。

d 各種設定項目の初期化完了画面

セッテイ
コウシ゛ョウ シュッカ
シ゛ ノ セッテイ ニ
リセット シマシタ

3 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、もう1度リセットボタンを押します。
初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

知　識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 走行中にリセット操作をしても、安全のため、初期化されない項目もあります。

メータークラスタ

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させます(3-86)。
2 各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1 ＋ または － を押して、メータークラスタを選択します。
2 ⌂ を押します。
選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c スピードメーター表示単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの走行速度と走行距離の表示単位の設定をすることができます。km(km/h)またはマイル(mph)のいずれかを選択します。

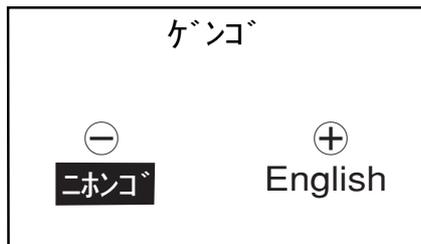
＋ または － を押して、反転表示を移動します。

注　意！

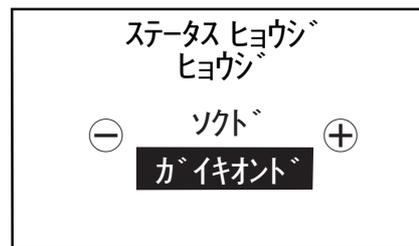
ディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm(km/h)表示を選択してください。

知　識

1マイル(mph)は約1.6km/hです。マイルを選択するとトリップメーターなどもマイル表示になります。

d ディスプレイ表示言語設定画面

ディスプレイに表示する言語を設定することができます。
ﾆﾎﾝｺﾞ(日本語)またはEnglish(英語)のいずれかを選択します。

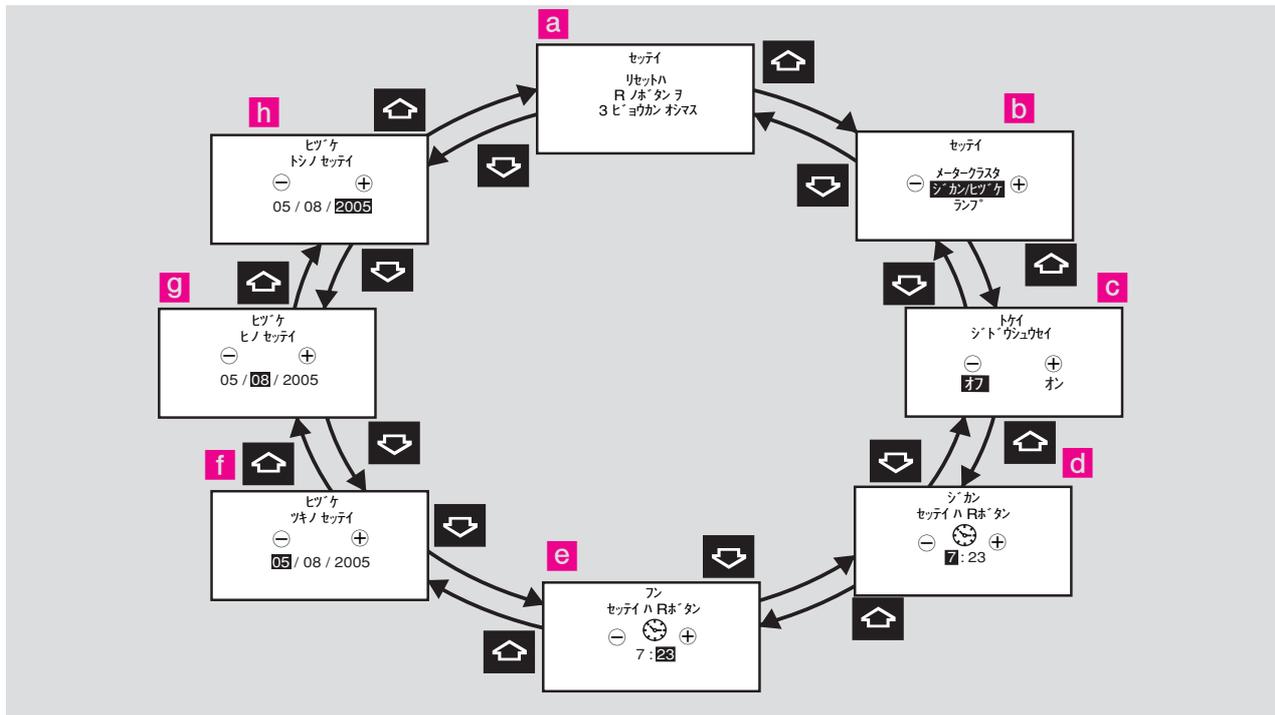
＋または－を押して、反転表示を移動します。

e ディスプレイ下段の表示設定画面

ディスプレイ下段に表示する内容を設定することができます。
ｿｸﾄﾞ(走行速度)、ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ(外気温度)のいずれかを選択します。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

f 車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面に表示する内容を設定することができます。
ｿｸﾄﾞ(走行速度)、ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ(外気温度)のいずれかを選択します。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ジカン / ヒヅケ

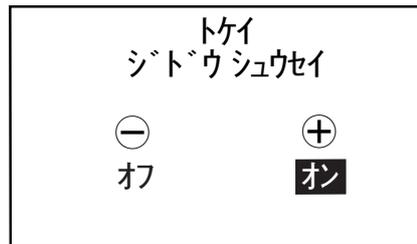
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1　各種設定メイン画面を表示させせます(3-86)。
2　各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させせます。

設定グループを選択する

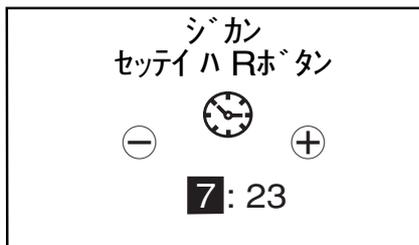
1　＋ または － を押して、ジカン / ヒヅケを選択します。
2　⌂ を押します。
選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c 時刻の設定方法設定画面

メーターパネルの時計とマルチファンクションコントローラーの時刻を連動させる設定をすることができます。
＋ または － を押して、反転表示を移動します。

オン
メーターパネルの時計がマルチファンクションコントローラーの時刻に連動します。

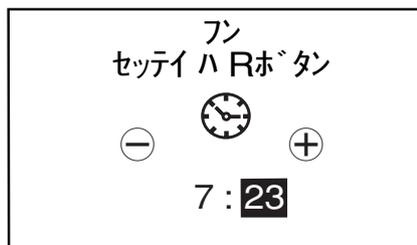
オフ
メーターパネルの時刻などを手動で設定します(画面 d から h)。

知　識

オンを選択した場合、画面 d ～ h は表示されません。

d 時刻の設定画面(時)

メーターパネルの時計の「時間」を設定します。

＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。
続けて「分」を設定するときは、⌂を押します。
リセットボタンを押すと、時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

e 時刻の設定画面(分)

メーターパネルの時計の「分」を設定します。

＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。
続けて「月」を設定するときは、⌂を押します。
リセットボタンを押すと、時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

知　識

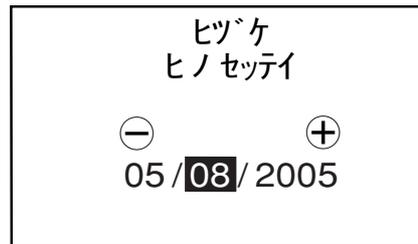
- リセットボタンで時刻を設定すると、時計の針が早く回転したり、反時計回りに動くことがあります。
- マルチファンクションディスプレイに表示される時刻は、メーターパネルの時計の時刻です。
- 各種設定項目を初期化しても、時刻は工場出荷時の設定になりません。

f 日付の設定画面（月）

ﾋﾂﾞｹ
ﾂｷ ﾉ ｾｯﾃｲ

05 / 08 / 2005

日付の「月」を設定します。

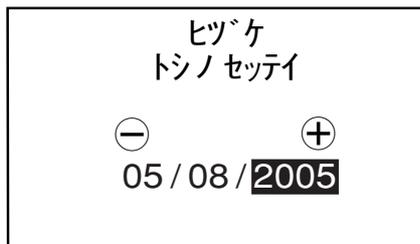
＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。
続けて「日」を設定するときは、を押します。

g 日付の設定画面（日）

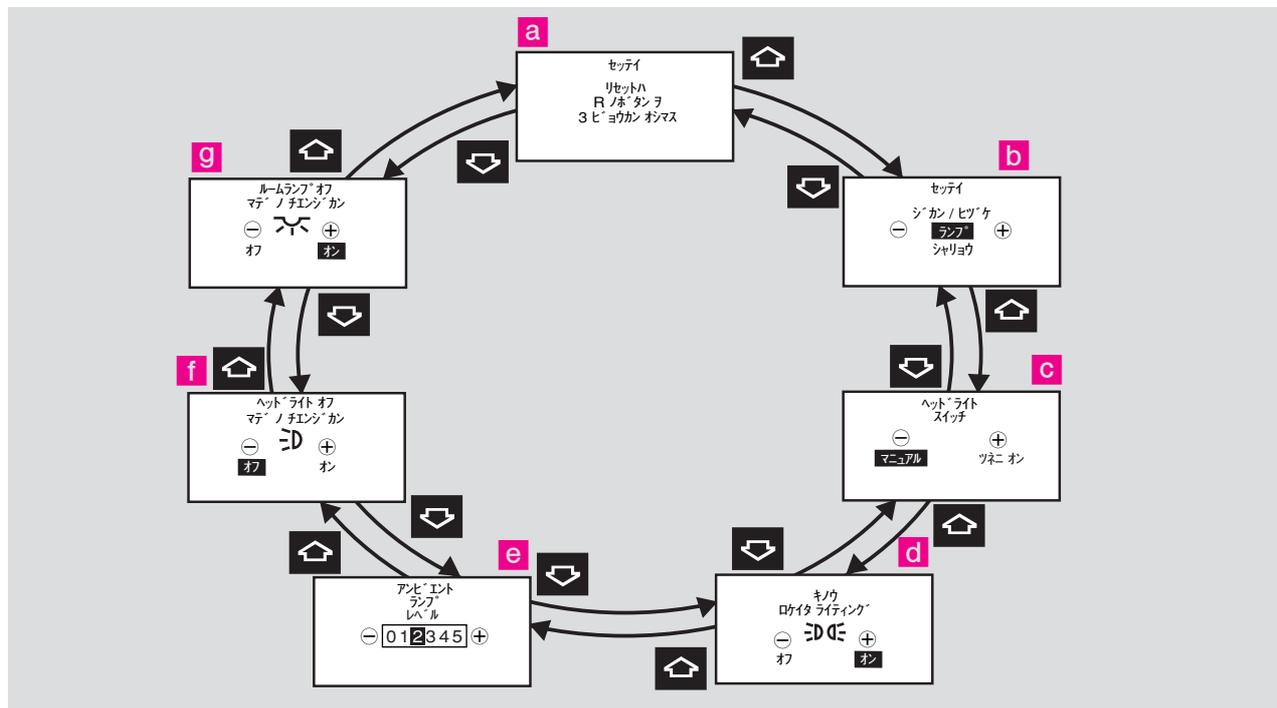
日付の「日」を設定します。

＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。
続けて「年」を設定するときは、を押します。

h 日付の設定画面(年)

ヒヅケ
トシノ セッテイ

⊖ ⊕
05 / 08 / 2005

日付の「年」を設定します。

＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。
時刻の設定が終了します。
または、を押して、他の画面を選択してください。

ランプ

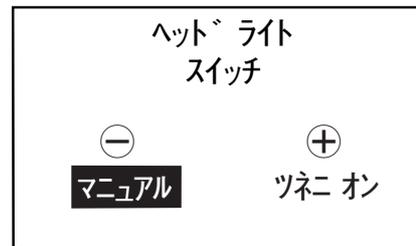
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1　各種設定メイン画面を表示させます(3-86)。
2　各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1　＋ または － を押して、ランプを選択します。
2　⌂ を押します。
　　選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定をすることができます。

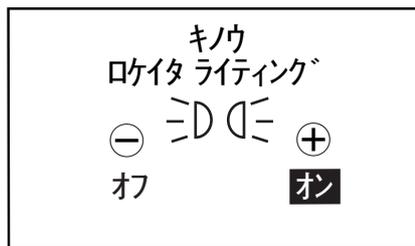
＋ または － を押して、反転表示を移動します。

マニュアル
ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。
日本ではこのモードを選択してください。

ツネニ オン
エンジンを始動すると、車外ランプが常に点灯します。

知　識

- 常時点灯モード(ﾂﾈﾆ ｵﾝ)は、走行中の常時点灯が義務づけられている諸国に対応しています。日本では"ﾏﾆｭｱﾙ" に設定して使用してください。
- 常時点灯モード(ﾂﾈﾆ ｵﾝ)で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ(ロービーム)、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

d ロケイターライティング機能設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、ランプが点灯する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ｵﾝ

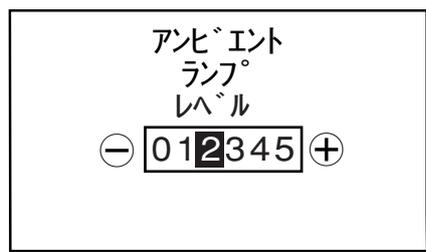
周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

ｵﾌ

ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは(3-5)をご覧ください。

e フロントアンビエントランプの照度設定画面

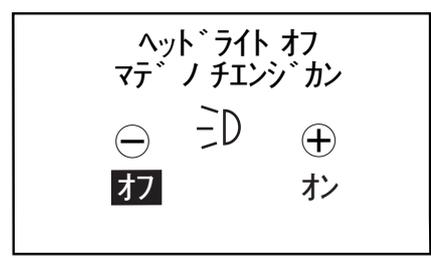
アンビ゛エント
ランプ゜
レベ゛ル
⊖ 012345 ⊕

フロントアンビエントランプの照度を設定することができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

1,2,3,4,5
5がもっとも明るく、1がもっとも暗い設定になります。

0
フロントアンビエントランプは点灯しません。

f 車外ランプ消灯遅延時間設定画面

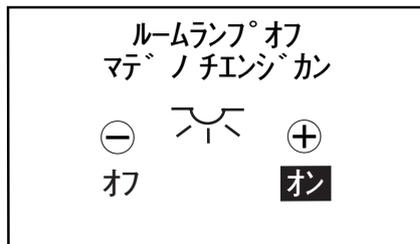
ヘット゛ライト オフ
マテ゛ ノ チエンシ゛カン
⊖ ⊕
オフ オン

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、ヘッドランプなどが点灯する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

オン
エンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。

オフ
車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

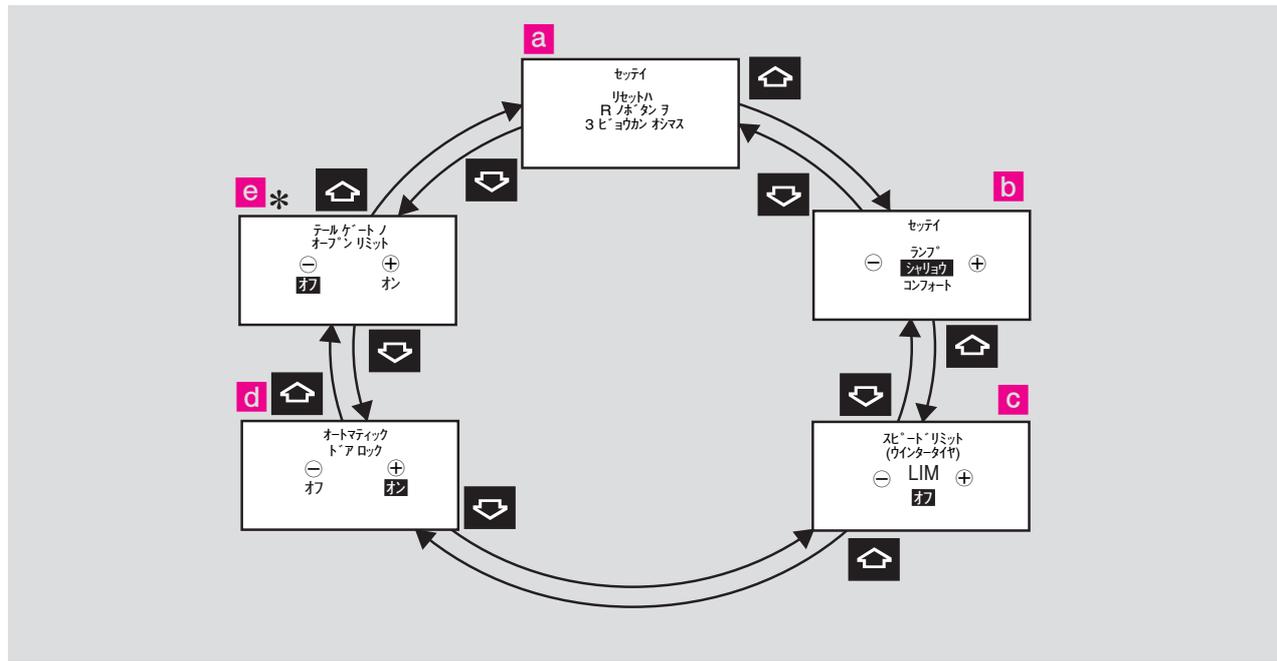
詳しくは(4-22)をご覧ください。

g ルームランプ消灯遅延時間設定画面

ルームランプが自動点灯モードで、周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定をすることができます。

＋ または － を押して、反転表示を移動します。

オン
キーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。

オフ
ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは(5-25)をご覧ください。

シャリョウ

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

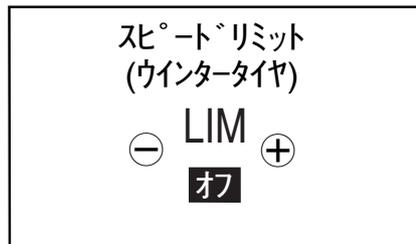
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させます(3-86)。
2 各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1 ＋ または － を押して、シャリョウを選択します。
2 ⌂ を押します。
選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c スノータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。
日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。
設定できる速度は160km/hから240km/hの範囲です。10km/hごとに設定することができます。

＋ または － を押すと、速度の設定や解除ができます。

160km/h、170km/h、180km/h、190km/h、200km/h、210km/h、220km/h、230km/h、240km/h
最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

オフ
スノータイヤスピードリミッターは作動しません。

d 車速感応ドアロック設定画面

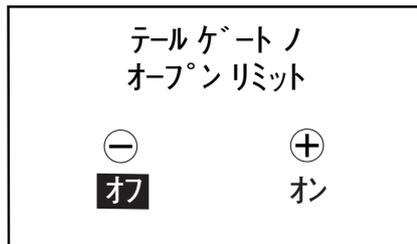
走行速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定を切り替えることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

オン
車速感応ドアロック機能が作動します。

オフ
車速感応ドアロック機能は作動しません。

詳しくは(**3-26**)をご覧ください。

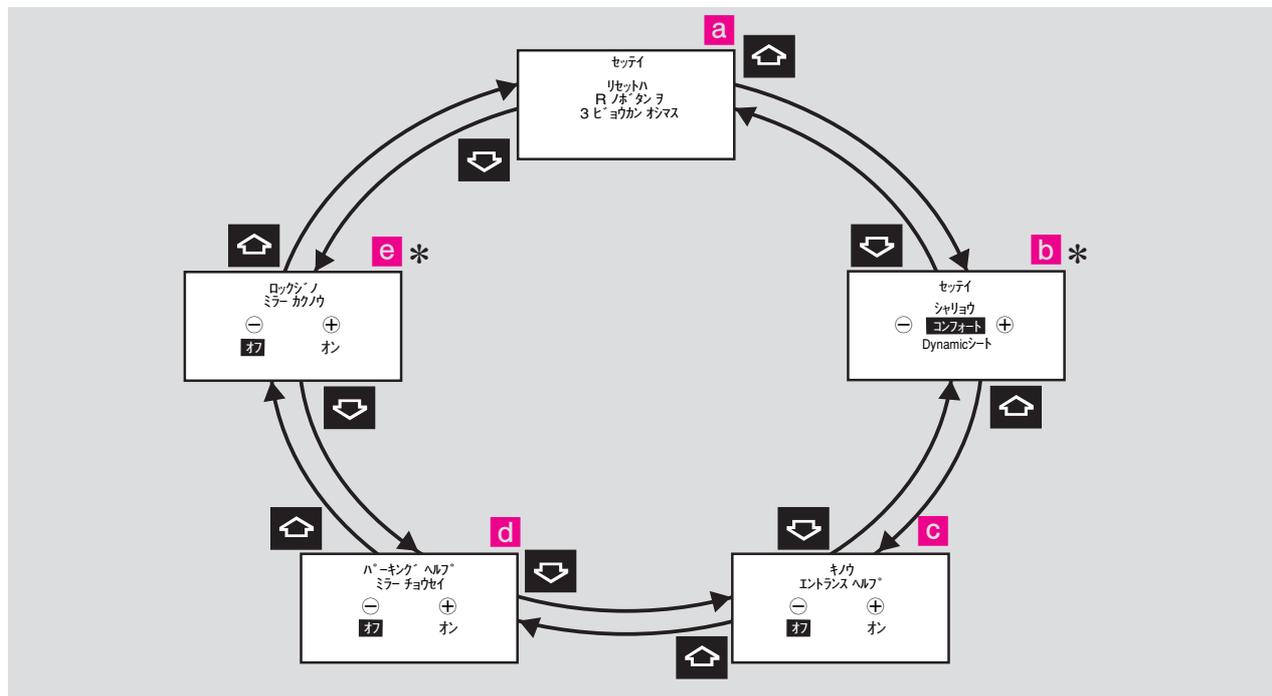
e テールゲートを開くときの高さ設定画面＊

テールゲートを自動で開くときに開く高さの設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

オン
テールゲートの開く高さを、低い位置に設定します。

オフ
テールゲートは最も高い位置まで開きます。

詳しくは(**3-28、30**)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

コンフォート

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

設定グループ選択画面を表示させる

1　各種設定メイン画面を表示させます(3-86)。
2　各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1　＋ または － を押して、コンフォートを選択します。
2　⌂ を押します。
選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

c イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定をすることができます。

＋ または － を押して、反転表示を移動します。

オン
ステアリングが上方に移動します。

オフ
イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは(3-24)をご覧ください。

d 後退時の助手席ドアミラー設定画面

車の後退時に、助手席側のドアミラーをあらかじめ設定された角度に調整する機能の設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ｵﾝ
後退時に助手席ドアミラーが設定された角度になります。

ｵﾌ
後退時に助手席ドアミラーの角度は変わりません。

詳しくは**(3-62)**をご覧ください。

e 施錠時のドアミラー格納設定画面＊

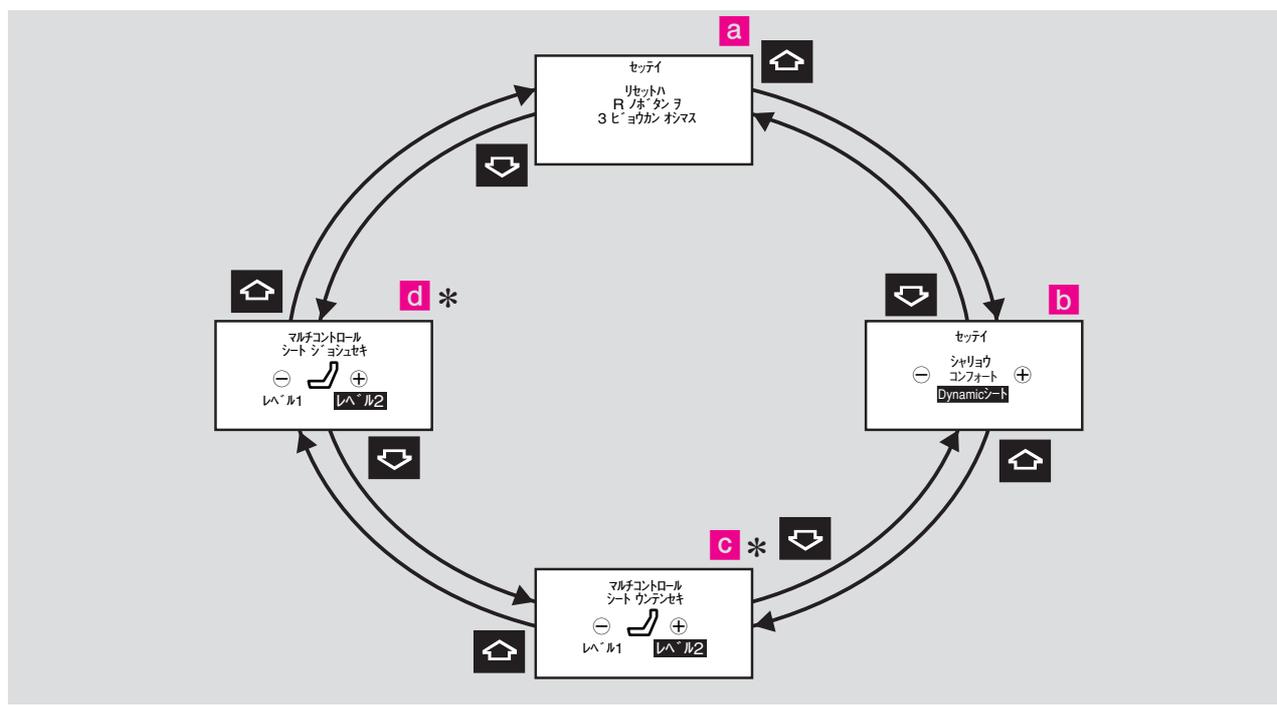
リモコン操作での施錠時にドアミラーを併せて格納する設定をすることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

ｵﾝ
リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。

ｵﾌ
リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは**(3-5)**をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

Dynamicシート＊

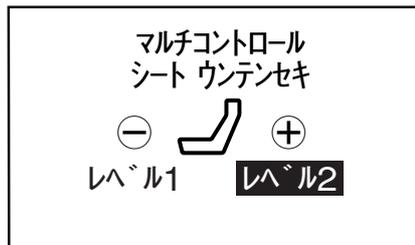
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

1　各種設定メイン画面を表示させます(3-86)。
2　各種設定メイン画面 a 表示中に ⌂ を押して、設定グループ選択画面 b を表示させます。

設定グループを選択する

1　＋ または － を押して、Dynamicシートを選択します。
2　⌂ を押します。
選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

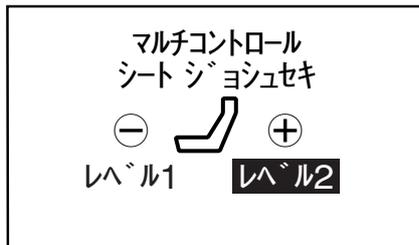
c　ドライビングダイナミックシートのサポート画面(運転席)＊

ドライビングダイナミックシート装備車は、カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支えることができます。

＋ または － を押して、反転表示を移動します。

レベル1
サポートが弱くなります。

レベル2
サポートが強くなります。
詳しくは(3-14)をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

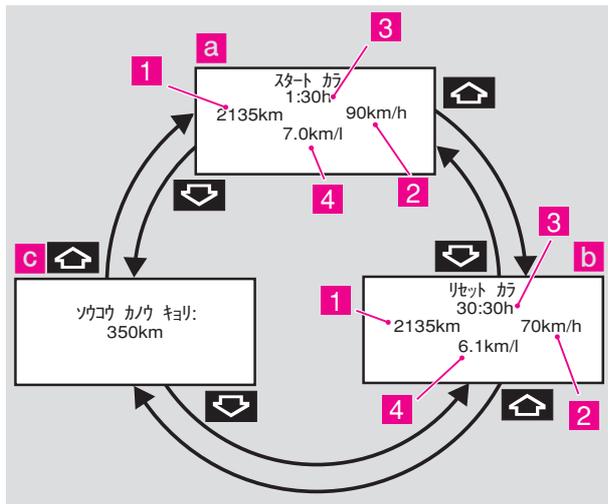
d ドライビングダイナミックシートのサポート画面(助手席)＊

ドライビングダイナミックシート装備車は、カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支えることができます。

＋または－を押して、反転表示を移動します。

レヘ゛ル1
サポートが弱くなります。

レヘ゛ル2
サポートが強くなります。
詳しくは(3-14)をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

F トリップコンピューター

ショートトリップメーターaとロングトリップメーターbは、エンジンを始動したとき、またはトリップメーターをリセットしたときを起点として以下の情報を表示します。

1 走行距離(km)
2 平均速度(km/h)
3 経過時間(h)
4 平均燃費(km/l)

a ショートトリップメーター画面

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します（"ｽﾀｰﾄ ｶﾗ"）。ショートトリップメーターは、エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはキーを抜き取ってから約4時間経過すると、自動的にリセットされます。

ショートトリップメーターを表示する

または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させせます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

リセットボタン(3-66)を押して、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ショートトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

b ロングトリップメーター画面

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します("ﾘｾｯﾄ ｶﾗ")。

ロングトリップメーターを表示する

1 ［アイコン］または［アイコン］を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。
2 ［アイコン］を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

リセットボタン(3-66)を押して、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

c 走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。
エンジンスイッチが2の位置のときに表示されます。

1 ［アイコン］または［アイコン］を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。
2 ［アイコン］を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注　意！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認し、早めに給油してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

G 電話

通話する(電話を受信する)

電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ を押します。

電話を受信することができます。

通話を終える(電話を切断する)

ステアリングの通話終了スイッチ を押します。

電話を切断することができます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話を発信することができます。

1 電話画面表示中に、 または を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。
2 ステアリングの通話開始スイッチ を押します。

電話を発信することができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

4. 運転するとき

エンジンスイッチ

0：キーを差し込む / 抜く位置
1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
2：走行するときの位置
すべての電気装備が使用できます。
3：エンジンを始動する位置
エンジンスイッチをいったん3の位置までまわして手を放せば、自動的にスターターがまわり、エンジンが始動します。

⚠ 警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進や火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれもあります。

ステアリングロック

エンジンスイッチからキーを抜くとステアリングがロックされ、キーを差し込むとステアリングのロックが解除されます。

注　意！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときはキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。
- キーの発信部が汚れていたり覆われていると、エンジンを始動できなくなります。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動する

1 パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。
2 セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
3 確実にブレーキペダルを踏みます。
4 アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチにキーを差し込み、3の位置までまわして手を放します。

注　意！

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知　識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

エンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 始動できないときは、いったんエンジンスイッチを0の位置まで戻してから再始動してください。
- セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。

エンジンを停止する

1 完全に停車します。
2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。
3 エンジンスイッチを0の位置にします。
4 ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意！

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示
エンジンスイッチを**2**の位置にすると、シフト位置が表示されます。

シフト位置の選択
セレクターレバーを動かして、シフト位置を選択します。

P パーキング
駐車およびエンジン始動 / 停止の位置

R リバース
後退するときの位置

N ニュートラル
動力が伝わらない位置
押したり、けん引されることで車を移動できます。

D ドライブ
走行するときの位置
1～5速の範囲で自動的に変速します。

7G-TRONIC装備車は1～7速の範囲で自動的に変速します。

知　識
エンジンスイッチが**2**の位置で、なおかつブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーをPから動かすことはできません。

走行モード

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

選択された走行モードはメーターパネル内に表示されます。

⚠ 警　告

選択した走行モードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC / E 500

走行モードの選択
(E 280 / E 350 / E 350 4MATIC / E 500)

走行モード選択スイッチを押すごとに、Sモード→Cモード→Sモードと切り替わります。

※スイッチの文字は、予告なく変更されることがあります。

E 55 AMG

走行モードの選択
(E 55 AMG)

走行モード選択スイッチを押すごとに、Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

走行モードの特性

Sモード(通常走行)

1速から発進します。十分な加速を得たいときに使用します。

セレクターレバーを R に入れたときはCモードより力強く後退します。

Cモード

2速から発進します。Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。

セレクターレバーを R に入れたときはSモードよりゆるやかに後退します。

Mモード(マニュアルギアシフト)＊

マニュアルでギアシフトすることができます。
詳しくは(4-10)をご覧ください。

知　識

Cモードのときも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むか、ティップシフト位置を 1 にしたときは1速から発進します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ティップシフト

走行モードがSモードかCモードのときに、ギアのレンジを選択することができます。

⚠ 警　告

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

セレクターレバーによるギアレンジ選択

セレクターレバーが D のときに、セレクターレバーを⊖側へ動かします。そのときの加速や減速に最も適したレンジが選択され、シフトインジケーターに数字が表示されます。

高いギアレンジを選択するときは、セレクターレバーを⊕側へ動かします。

低いギアレンジを選択するときは、セレクターレバーを⊖側へ動かします。

ティップシフトを解除する

セレクターレバーを⊕側へ押し続けると、ティップシフトが解除され、 D に入ります。

ステアリングボタンによるギアレンジ選択＊（E 55 AMG）

セレクターレバーが D のときに、ステアリングの左側にあるボタンを押します。そのときの加速や減速に最も適したレンジが選択され、シフトインジケーターに数字が表示されます。
高いギアレンジを選択するときは、右側のボタンを押します。
低いギアレンジを選択するときは、左側のボタンを押すます。

ティップシフトを解除する

右側のボタンを押し続けると、ティップシフトが解除され、D に入ります。

ギアレンジ

D	1速～5速（7G-TRONIC装備車は1速～7速）の範囲で自動的に変速します。
6＊	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5＊	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。穏やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速ギアに固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

知　識

- シフトインジケーターの表示する数字は選択したレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。
- シフトインジケーターの表示が D のときにセレクターレバーを⊕側に押したり、ステアリングのギアレンジ選択ボタン（高いギアレンジを選択）を押すと、車速やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- 加速時にエンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるようなときは、自動的にシフトアップが行なわれます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフト＊

セレクターレバーまたはステアリングのボタンを操作して、マニュアルでギアシフトすることができます。

⚠ 警　告

滑りやすい路面状況では、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。ギアをシフトするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させせると、駆動系を損傷するおそれがあります。

注　意！

- エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。
- セレクターレバーを R に入れるときは、車を完全に停止させてから操作してください。

知　識

ESPの機能を解除しないで走行することをおすすめします。

マニュアルギアシフトを選択する

走行モード選択スイッチを押して、Mモードを選択します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

メーターパネル内の走行モード表示にMが表示され、オートマチックギアシフトはオフになります。

オートマチックギアシフトに戻す

オートマチックギアシフトに戻すときは、走行モード選択スイッチを押して、SモードかCモードを選択します。

知　識

Mモードを選択した状態でエンジンを停止すると、エンジン再始動時にはオートマチックギアシフトに切り替わります。このときは、Mモードを選択する前の走行時のモード(SモードかCモード)になります。

セレクターレバーによるギアシフト操作

セレクターレバーを D に入れます。

シフトアップする

セレクターレバーを⊕の方向に押します。
押すたびに、１段上のギアにシフトします。

シフトダウンする

セレクターレバーを⊖の方向に押します。
押すたびに、１段下のギアにシフトします。

ステアリングボタンによるギアシフト操作

セレクターレバーを D に入れます。

シフトアップする

ステアリング右側のボタンを押します。押すたびに、１段上のギアにシフトします。

シフトダウンする

ステアリング左側のボタンを押します。押すたびに、１段下のギアにシフトします。

知　識

ステアリングの左側には⊖マーク、右側には⊕マークがあります。

シフトアップマーク

シフトアップ表示（E 55 AMG）

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、シフトアップマークが表示されます。

すみやかにシフトアップ操作を行なってください。

注　意！

- 運転者がシフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンします。
- 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

知　識

- Mモードではシフトインジケーターに表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトダウンに応じてシフトインジケーターに表示される数字も変わります。
- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているときに、セレクターレバーを D か R に入れてブレーキペダルから足を放すと、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がります。これをキックダウンといいます。これを利用すると、車を素早く加速させることができます。

発進

1　エンジンを始動します。
2　ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。
3　ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置 D に入れます。

⚠ 警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

4　パーキングブレーキを解除します。
5　ブレーキを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

通常走行
通常はセレクターレバーを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

⚠ 警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

素早く加速したいとき
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

上り坂の走行
坂の勾配に応じてティップシフトで低いギアのレンジを選択しておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂の走行
下り坂を通常走行の位置 D で走行すると、エンジンブレーキが効かず、速度が出すぎることがあります。このようなときは、坂の勾配に応じてティップシフトで低いギアのレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせながら走行します。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

⚠ 警　告

- **長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。**
- **シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**

滑りやすい路面での走行

走行モード(4-6、7)をCモードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

⚠警　告

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

シフトダウン操作を行なうとエンジンの許容回転数(レッドゾーン)を超えるときは、セレクターレバーを動かしてもシフトダウンされません。

停車

セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車をアクセルペダルを踏み込んで停止状態を保たないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象(4-14)で車が動かないようにしてください。
- 車が完全に停止しないうちにセレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

1 ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。
2 セレクターレバーを P に入れます。
3 エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。
4 ブレーキペダルからゆっくり足を放します。

⚠警　告

車から離れるときはセレクターレバーを P に入れ、必ずパーキングブレーキを効かせてください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注　意！

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやスライディングルーフを閉じ、ドアを施錠してください。

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。この場合、以下の方法でギアを2速とリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

1 安全な場所に停車し、セレクターレバーを P に入れます。
2 エンジンを停止し、約10秒間待ちます。
3 エンジンを始動します。
4 前進時は D に、後退時は R にセレクターレバーを操作します。
D に入れると2速ギア、 R に入れるとリバースに固定されます。

注　意！

- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。
この作業はできるだけ指定サービス工場に依頼してください。

1 センターコンソールの小物入れのカバーを開きます。
2 小物入れ内部のトレイを取り外します。
3 図のように、小物入れのカバーを約45度の角度に保ち、前面(やや右側)にある穴にペンなどを差し込みます。
4 ペンなどで、パーキングロックの解除ボタンを押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

注　意！

セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

ペンなどが差し込みにくい場合は、アームレストを引き上げると差し込みやすくなります。

ランプ

右ハンドル車

ランプスイッチをまわして、各位置に合わせます。

0	すべてのランプが消灯
AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯(4-20)。
	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

キーを抜くか、エンジンスイッチが0の位置のとき、パーキングランプを点灯することができます。

P	右側のパーキングランプが点灯
P	左側のパーキングランプが点灯

フォグランプ

ランプスイッチの位置が またはのとき、ランプスイッチを引くと、フロント、リアのフォグランプが点灯します。ランプスイッチを押すと、フォグランプが消灯します。

1段目 ：フロントフォグランプ点灯（スイッチ横の 表示灯が点灯）

2段目 ：フロントフォグランプ+リアフォグランプ点灯（スイッチ横の 表示灯と 表示灯が点灯）

注　意！

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- パーキングランプは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。
- パーキングランプ以外のランプを点灯したまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

ランプの自動点灯機能

ランプは自動的に点灯 / 消灯させることができます。

ランプスイッチを AUTO の位置に合わせます。周囲が暗いとき、エンジンスイッチを1の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動点灯します。エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサー(4-25)と同じ位置にあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。
- トンネルなどの暗い場所や夜間の走行、悪天候のときなどに、ランプは自動的に点灯することがあります。

注　意！

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- ランプスイッチを AUTO の位置に合わせても、状況により、自動的に点灯しないことがあります。このときは、マニュアルでランプを点灯してください。
- ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。
- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴りマルチファンクションディスプレイに "ｷｰ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときは、必ずキーを抜いてください。キーを抜かないと、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプなどが点灯したままになり、バッテリーがあがるおそれがあります。
- 対向車のライトにより、センサーが正常に作動しなくなり、自動点灯中のランプが消灯することがあります。

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

下向き　：コンビネーションスイッチを1の位置にすると、ヘッドランプが下向きになります。メーターパネル内のヘッドランプ表示灯が点灯します。

上向き　：コンビネーションスイッチを2の位置にすると、ヘッドランプが上向きになります。ヘッドランプ表示灯に加えて、ハイビーム表示灯が点灯します。

パッシング：コンビネーションスイッチを3の方向に引いている間、ヘッドランプが上向きになり、ヘッドランプ表示灯に加えて、ハイビーム表示灯が点灯します。
コンビネーションスイッチから手を放すと1の位置に戻ります。

注　意！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアまたはテールゲートを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。
この機能の設定と解除については(3-101)をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

エンジンを停止後、エンジンスイッチを2の位置にすると解除されます。

知　識

- エンジンスイッチを0位置にしてからドアやテールゲートを閉じたままにするか、ドアやトランクを開いてそのままにして約60秒後に、ランプは消灯します。
- この機能は、エンジンスイッチを0の位置にしてから約10分以上経過すると働かなくなります。約10分以内なら、ドアまたはテールゲートを開くたびにランプが点灯します。

アクティブライトシステム

周囲が暗いとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

知　識

- ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。
- 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

方向指示

エンジンスイッチが1か2の位置のときに点滅させることができます。
コンビネーションスイッチを上または下へ操作すると右または左の方向指示灯が点滅します。
メーターパネルの方向指示表示灯 ⇦⇨ も点滅します。

ステアリングを戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。
短時間だけ方向指示灯を使用するときは、コンビネーションスイッチを手ごたえが感じられる位置にして手を放すと、方向指示灯が3回点滅します。

知　識

方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が優先されます。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

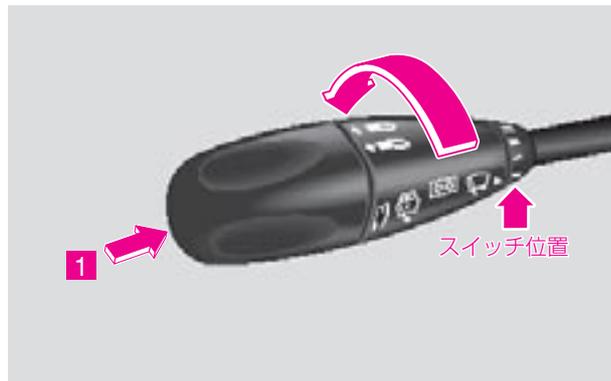
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯⇦⇨も同時に点滅します。
解除するときは再度スイッチを押します。

注　意！

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。コンビネーションスイッチを中立の位置に戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー

エンジンスイッチが1か2の位置のときにコンビネーションスイッチをまわして、スイッチをⅠ～Ⅲの位置に合わせます。

O ： 停止
Ⅰ ： AUTOモード
フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
Ⅱ ： 低速モード
Ⅲ ： 高速モード

知　識

コンビネーションスイッチがⅡ、Ⅲの位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

注　意！

レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

知　識

AUTOモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ドアを閉じて、セレクターレバーをDかRにすると、ワイパーは作動を再開します。

ワイパーのティップ機能

コンビネーションスイッチを矢印1の方向に軽く押すと、ワイパーが1回だけ作動します(ウォッシャー液は噴射しません)。この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウォッシャーを噴射する

エンジンスイッチが1か2の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印1の方向に押し続けると、その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知　識

- フロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーをRに入れると、リアワイパーも作動します(4-27)。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- ヘッドランプが点灯しているときにフロントウインドウのウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注　意！

- 停車時にワイパーやウォッシャーを作動させるときは、周囲の歩行者に水しぶきがかからないように注意してください。
- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを0(停止)の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチの位置を0に戻してください。コンビネーションスイッチがII～IIIの位置のままエンジンスイッチを1の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- フロントウインドウが濡れていないときも、コンビネーションスイッチをIの位置にすると、ワイパーが1回作動します。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

リアワイパー

エンジンスイッチが1か2の位置のときにリアワイパーとリアウインドウウォッシャーを操作できます。

リアワイパーの操作

スイッチの上側を押すとリアワイパーが間欠モードで作動し、スイッチの表示灯が点灯します。停止するときは、再度スイッチの上側を押します。

ウォッシャーの操作

スイッチの下側を押すとウォッシャー液が噴射され、リアワイパーが数回作動します。

注　意！

- ウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

知　識

フロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーをRに入れると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーがIの位置のとき：
  ◇間欠で作動します。
- フロントワイパーがIIまたはIIIの位置のとき：
  ◇低速で作動します。

リアワイパースイッチの上側が押されているときは、フロントワイパーの作動に関係なく、リアワイパーは間欠モードで作動します。

ヘッドランプウォッシャー

右ハンドル車

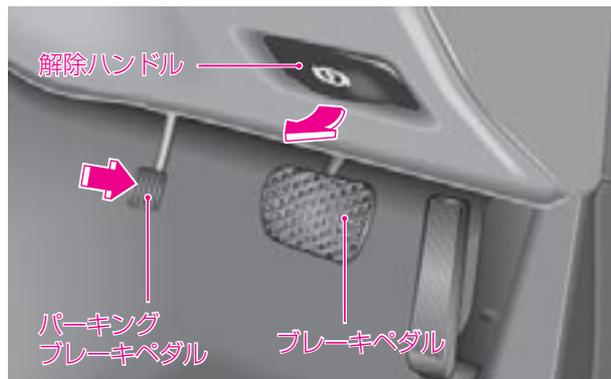
エンジンスイッチが2の位置のときに作動します。スイッチを押すとノズルからウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

注　意！

- ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

知　識

- ヘッドランプが点灯しているときにフロントウインドウのウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

パーキングブレーキ

右ハンドル車

パーキングブレーキを効かせるときは右足でブレーキペダルを踏み、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。
解除するときは解除ハンドルを引きます。

⚠ 警　告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意！

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。

知　識

パーキングブレーキを解除せずに走り出すと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

⚠警　告

- **長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。**
- **ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。**

注　意！

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを破損するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

知　識

バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続しても、エンジン始動後に、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ABS警告灯が点灯することがあります。このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、警告表示と警告灯が消灯します。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したときは、ブレーキ液量が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキオイルまたはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-18、19)**をご覧ください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

⚠ 警　告

- **ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

注　意！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  ◇雪の積もった路面や凍結した路面
  ◇砂利道などの荒れた路面
  ◇石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  ◇スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ABSが作動するとブレーキペダルが振動します。制動力を得るためには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

知　識

- ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。約3km/h以下の速度では作動しません。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。
  ◇ESP
  ◇BAS
- ABSに異常があると、マルチファンクションディスプレイに、ESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときや点灯後消灯しないとき、走行中に点灯したときは、ABSに異常があります。
通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。
いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-15)**をご覧ください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。
BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。
BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 警　告

- **BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

知　識

- BASに異常があるときは、ABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

SBC®

SBC(センソトロニック・ブレーキ・コントロール)は、運転者のブレーキペダル操作をセンサーで感知し、あらかじめ蓄圧されたブレーキ液を各車輪ごとに供給することにより、ブレーキ応答性を高め、運転状況に応じて最適な制動力を発揮させるためのブレーキ制御システムです。

⚠ 警　告

- **SBCはブレーキ操作を補助するシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。SBCが作動しても、制動距離の短縮や制動力の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **SBC作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

SBCは以下のときに待機状態になります。
- リモコン操作で解錠したとき
- 運転席ドアまたは助手席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチを**1**の位置にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキを解除したとき

SBCは以下のときに解除されます。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、キーを抜いてから約2分後
- リモコン操作で車を施錠してから約20秒後

SBCの特徴

SBCの操作は、通常のブレーキと同じですが、以下のような特徴があります。
- ブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離しているため、ABSが作動しても、ペダルに脈動は伝わりません。
- エンジン始動後、最初にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みしろが大きくなったり、踏み応えが弱くなることがあります。これはSBCの作動によるもので、ブレーキペダルから足を放すと、通常の踏みしろに戻ります。
- ブレーキペダルに脈動が感じられたり、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。この音はSBCポンプから発生しているもので、異常ではありません。
- 通常、SBCはブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離していますが、SBCに故障が発生すると、エマージェンシーモードとして、ブレーキペダルとブレーキ液圧回路を接続して、前輪ブレーキのみを作動させます。

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-18、19、20)**をご覧ください。

⚠ 警　告

【エマージェンシーモード】
バッテリーの電圧低下などでシステムに十分な電力が供給されなかったり電気システムなどが故障したことによりSBCが作動しないときに、ブレーキペダルを踏んで発生した油圧で直接前輪ブレーキのみを作動させるモードです。マルチファンクションディスプレイにSBCなどの故障警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

【ブレーキペダルの踏み込み】
エマージェンシーモードでは、ブレーキペダルを通常時より深く（奥に）強く踏み込んでください。また、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。

注　意！

SBCの点検・修理やブレーキパッドの交換などは、必ず指定サービス工場で行なってください。SBCにはブレーキ液を自動的に蓄圧する機能があるため、システムを解除してから作業しないと、ブレーキ液が漏れたり、ブレーキが自動的に作動してけがをしたり、車を損傷させるおそれがあります。

SBC® ホールド

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面において、車が停止した状態を維持できます。

⚠ 警　告

- **積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、車が停止した状態を維持できません。SBCホールドを使用しないでください。**
- **SBCホールド使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**
- **エンジンを停止するとき、駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。**
- **SBCホールドはパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。**
- **SBCホールドが作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がスイッチなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。**
- **SBCホールドは、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。**

SBCホールドを作動させる

セレクターレバーが D 、 N 、 R のいずれかに入っているときで、エンジンがかかっていて車が停止しているとき、ブレーキペダルをさらに踏み込みます。

SBCホールドが作動すると、マルチファンクションディスプレイに "SBC H " と表示されます。ブレーキペダルから足を放しても、車は停止したままになります。

注　意！

ブレーキペダルを踏んでもSBCホールドが作動しないときは、再度ブレーキペダルを踏み込んでください。

注　意！

SBCホールドは次のいずれかのときは作動させることができません。

- パーキングブレーキが効いているとき
- セレクターレバーが P に入っているとき
- 運転席ドアが開いているとき
- ボンネットのロックが解除されているとき
- エンジンが停止しているとき

SBCホールドを解除する

次のいずれかの操作で解除されます。

- セレクターレバーが D 、 R のときにアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏む
- セレクターレバーを P に入れる

SBCホールドを解除すると、マルチファンクションディスプレイの "SBC H " の表示が消えます。

注　意！

- SBCホールドを解除したときは、車の動きに十分注意してください。
- セレクターレバーを P に入れてSBCホールドを解除した場合は、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、車を確実に停止させてください。

知　識

- セレクターレバーが N のときにアクセルペダルを踏んでも、SBCホールドは解除されません。
- SBCホールドが作動して車が停止しているときにパーキングブレーキを効かせても、SBCホールドは解除されません。

⚠警　告

以下のときは、SBCホールドが解除され、車が動き出すおそれがあります。
- **アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを一度踏んでから足を放したとき**
- **エンジンを停止したとき**
- **システムまたは電力供給に異常(バッテリーあがりなど)があるとき**
- **バッテリーの接続が外されたとき**
- **エンジンルームの電気系システムやヒューズなどが変更されたとき**

注　意！

- SBCホールドが作動している状態で車から降りないでください。
- SBCホールドが作動しているときにブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、警告が行なわれます。
  ◇ボンネットのロックを解除すると、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されるとともに、ホーンが鳴ります。
  ◇エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にすると、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態で運転席ドアを開くか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。
  ◇運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態でエンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。
- 警告メッセージが表示されたり、ホーンが鳴ったときは、ただちにセレクターレバーを**P**に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせてください。ブレーキペダルを深く踏むことでも、警告メッセージは消えてホーンも鳴り止みますが、セレクターレバーの位置によっては車が動き出すおそれがあります。
- SBCホールドを作動させると、ブレーキペダルを踏んでいなくても車にはブレーキがかかっています。けん引などで車を動かすときは、SBCホールドを解除してください。

ESP® / 4ESP®

ESP(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

4MATIC車には4ESPが装備されています。4ESPは4輪駆動システムのために専用に開発されたESPです。

⚠ 警　告

- **ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。**
- **ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

ABS / ESP表示灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(9-15)をご覧ください。

知　識

ABS警告灯 (ABS) が点灯しているときは、ESPも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警　告

ABS / ESP表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。
また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- **急ハンドル**
- **急ブレーキ**
- **急発進、急加速**
- **急激なエンジンブレーキ**

知　識

エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示され、ABS警告灯が点灯することがあります。このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを0の位置に戻し、エンジンを再始動してください。

ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

雪道や砂、砂利道などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPの機能を解除する

ESPオフスイッチを押すと、ESPの機能が解除されます。メーターパネルのABS / ESP表示灯が点灯したことを確認してください。

ESPを待機状態にする

ESPオフスイッチを再度押すと、ESPが待機状態になります。メーターパネルのABS / ESP表示灯が消灯したことを確認してください。

⚠ 警　告

ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- **急ハンドル**
- **急ブレーキ**
- **急発進、急加速**
- **急激なエンジンブレーキ**

知　識

エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。

注　意！

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを2の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にABS / ESP表示灯が点滅したままになります）。
- ABSに不具合が生じたときは、ESPも機能を停止します。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続しても、エンジン始動後にマルチファンクションディスプレイにESPに関する警告が表示されることがあります。このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、警告表示が消え、機能が回復します。

4MATIC＊

4MATICは、滑りやすい路面での発進時や加速時の車両安定性を向上させ、操縦性を確保しようとする4輪駆動システムです。

警　告

- **4MATICは操縦性や車両安定性を高める装備で、決して無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。たとえ4MATICでも、操縦性や車両安定性の確保には限界があります。**
- **作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**

注　意！

4MATIC車であっても雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着し、速度を控えめにし、車間距離を十分取って運転してください。スノーチェーンは後輪に装着してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

AIRマティックDCサスペンション＊

AIRマティックDC(デュアルコントロール)サスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。
また、サスペンションモード選択スイッチで3種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を上げることもできます。

⚠ 警　告

サスペンションモード選択や車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

注　意！

- 安全のため、スイッチの操作は停車中に行なってください。
- 連続して車高を上げたり下げたりしないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

サスペンションモード選択スイッチ
エンジンがかかっているとき、サスペンションモード選択スイッチを押すたびに、サスペンションモードがコンフォート→スポーツ1→スポーツ2→コンフォートと切り替わります。
スポーツ1またはスポーツ2を選択すると、標準より約15mm低い車高になります。

コンフォート： 通常走行用のモードです。
スイッチの表示灯は消灯しています。
他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIRﾏﾃｨｯｸDC ｺﾝﾌｫｰﾄ" と約5秒間表示されます。

スポーツ1： スポーティな走行用のモードです。
スイッチの表示灯が1つ点灯し、マルチファンクションディスプレイに"AIRﾏﾃｨｯｸDC ｽﾎﾟｰﾂ1" と約5秒間表示されます。

スポーツ2： よりスポーティな走行用のモードです。
スイッチの表示灯が2つ点灯し、マルチファンクションディスプレイに"AIRﾏﾃｨｯｸDC ｽﾎﾟｰﾂ2" と約5秒間表示されます。

知　識

- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されています。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると、サスペンションモード選択スイッチの表示灯が2つ点灯します。エンジン始動後は、記憶されているモードに対応して、表示灯が点灯します。

車高調整スイッチ

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高調整スイッチで車高を上げます。エンジンがかかっているときに作動します。

車高を上げる　：車高調整スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
マルチファンクションディスプレイに“ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ”と表示され、標準より高い車高になります。

車高を元に戻す：再度、車高調整スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。
標準の車高に戻ります。

知　識

- 車高調整スイッチで車高を標準より上げたときは、走行速度が約120km/h以上の速度になるか、走行速度が約80〜120km/hでの走行が約5分間続くと、マルチファンクションディスプレイに“ﾚﾍﾞﾙ ｾﾝﾀｸ ｼｮｳｷｮ”と表示され、標準の車高に戻ります。
- サスペンションモードがコンフォートの場合、約140km/h以上の速度になると標準より約15mm低い車高になります。その後、約70km/h以下の速度になると標準の車高に戻ります。
- 上記の速度域で走行しなかったときは、エンジンスイッチからキーを抜いても、標準より高い車高のままになります。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると、車高調整スイッチの表示灯が点灯します。エンジン始動後は、記憶されている車高に対応して、表示灯が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-17)**をご覧ください。

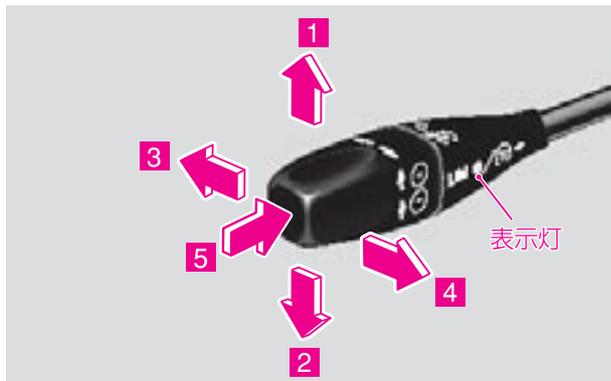
クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。
設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 警　告

- **車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**
- **以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。**
  ◇急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  ◇加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  ◇降雨時や雪道、凍結路などの滑りやすい路面

注　意！

- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルで加速してください。
- 急な下り坂などエンジンブレーキだけでクルーズコントロールが設定した速度を維持できないときは、自動的にSBCが作動しブレーキが効きます。
  それでも設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（**9-16**）をご覧ください。

クルーズコントロールの使いかた

可変スピードリミッター（4-51）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯が消灯しているときに、クルーズコントロールの操作ができます。

レバーの表示灯が点灯しているときは、可変スピードリミッターの操作ができる状態です。レバーを5の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

1　レバーの表示灯が消灯していることを確認して、希望の速度まで加速、または減速します。

2　希望の速度に達したとき、レバーを1か2の方向に押します。

クルーズコントロールが設定されます。アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

また、クルーズコントロールインジケーターの設定速度より上の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

知　識

- クルーズコントロールインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときは、クルーズコントロールを設定することができません。

設定速度を上げる

レバーを1の方向に押し続けると加速します。
希望の速度になったら手を放します。
手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

レバーを2の方向に押し続けると減速します。
希望の速度になったら手を放します。
手を放したときの速度に設定されます。

知　識

- レバーを1か2の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを2の方向に押して減速しているときには、自動的にシフトダウンをしたりブレーキを効かせることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

- レバーを3の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを5の方向に押したとき（4-47）。
  レバーの表示灯が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールの設定が解除されると、スピードメーターのクルーズコントロールインジケーターがすべて消灯します。

知　識

- クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。
- 以下のときは、クルーズコントロールは自動的に解除されます。
  ◇セレクターレバーをNに入れたとき
  ◇ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき
  ◇ESPが作動したとき
  このとき警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と数秒間表示されます。
  また、パーキングブレーキを効かせたときも、クルーズコントロールは自動的に解除されます。

⚠ 警　告

クルーズコントロールはセレクターレバーをNに入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーをNに入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

解除前に設定していた速度に再度設定する

約30km/h以上の速度で走行しているときに、レバーを4の方向に引くと、解除前に設定していた速度に再度設定されます。

また、クルーズコントロールインジケーターの設定速度より上の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

⚠ 警　告

解除前に設定していた速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

知　識

- 約30km/h以下の速度で走行しているときや、設定速度が記憶されていない状態でレバーを4の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間表示されます。
- エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

可変スピードリミッター

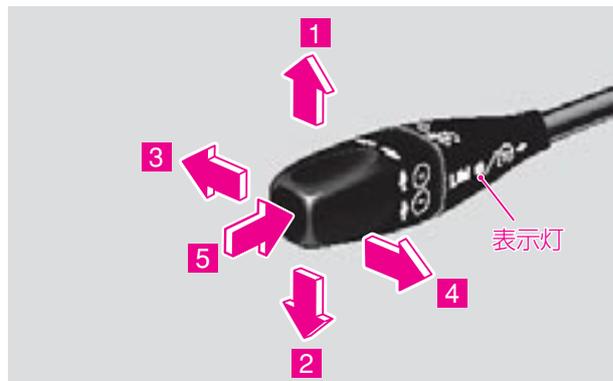
可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。設定できる制限速度は30km/hから210km/h、または250km/hの間です。ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※設定できる制限速度の上限は、車種や仕様により異なります。

⚠警　告

- **走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。**
- **運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。**
  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- **可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。**
- **可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。**

注　意！

- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 急な下り坂などで惰性がつき、可変スピードリミッターが制限速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!"と警告メッセージが表示され、可変スピードリミッターインジケーターが点滅します。このときはブレーキペダルを踏んで減速してください。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（9-16）をご覧ください。

可変スピードリミッターの使いかた

クルーズコントロール（**4-46**）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯が点灯しているときに、可変スピードリミッターの操作ができます。

レバーの表示灯が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを **5** の方向に押すと表示灯が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

停車中に可変スピードリミッターを設定する

レバーの表示灯が点灯していることを確認してください。

- レバーを **1** か **2** の方向に押すと、制限速度が30km/hに設定されます。
- レバーを **4** の方向に引くと、記憶されている制限速度に再度設定されます。

可変スピードリミッターが設定され、可変スピードリミッターインジケーターの設定速度より下の部分が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

走行中に可変スピードリミッターを設定する

約30km/h以上の速度で走行しているときに、レバーを操作します。

- レバーを1または2の方向に押すと、現在の走行速度に設定されます。
- レバーを4の方向に引くと、記憶されている速度に再度設定されます。

可変スピードリミッターが設定され、可変スピードリミッターインジケーターの設定速度より下の部分が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

知　識

- 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- 車種や仕様により、走行速度が記憶されている設定速度より約30km/h以上高いときは、記憶されている速度に再度設定することができません。このときはマルチファンクションディスプレイに表示された設定速度、または "---km/h" が数回点滅します。
- 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 設定速度が記憶されていない状態でレバーを4の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数回点滅します。

注　意！

記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

設定速度を変更する

レバーを操作し、設定速度を変更します。

- レバーを1の方向に押すと、設定速度が10km/h単位で上がります
- レバーを4の方向に引くと、設定速度が1km/h単位で上がります
- レバーを2の方向に押すと、設定速度が10km/h単位で下がります

希望する速度になったらレバーから手を放します。

注　意！

制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターの設定を解除する

- レバーを3の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- レバーを5の方向に押したとき
  レバーの表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

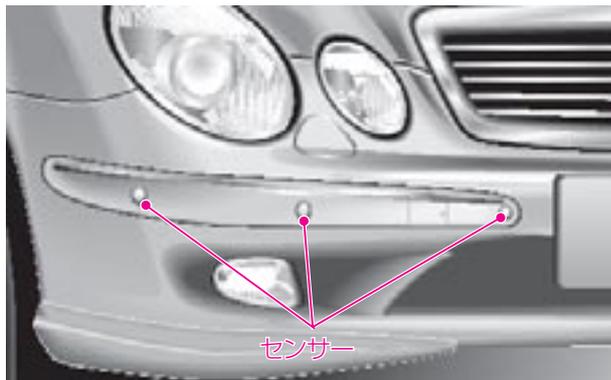
知　識

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

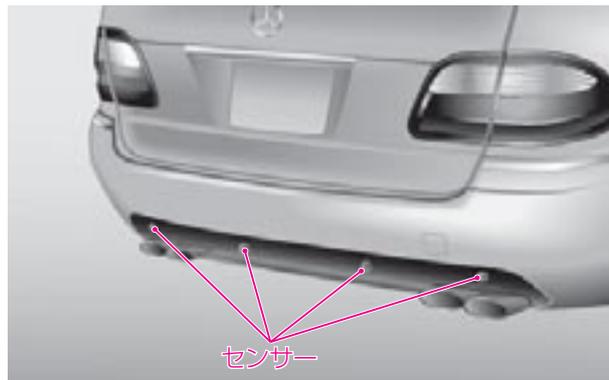
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき。設定速度より20km/h以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき

パークトロニック＊

フロント

リア

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

注　意！

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーが車の周辺の障害物などを感知します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

センサーの感知範囲

フロントバンパー側：センターで約100cm～20cm
　　　　　　　　　　コーナーで約60cm～15cm
リアバンパー側　　：センターで約120cm～20cm
　　　　　　　　　　コーナーで約80cm～15cm

注　意！

- 車の中央付近でバンパーから約20cm以内、コーナー付近でバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは正しく作動しないことがあります。このときはインジケーターの赤色表示灯が点灯します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃(7-22、23)をしてください。
- システムが故障するとパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯し、警告音が鳴って機能が解除されます。指定サービス工場で点検を受けてください。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故を起こすおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離(約30cm)内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。
- 電波を発するものが近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。
- 大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

フロントのインジケーター

リアのインジケーター

インジケーター
フロントのインジケーターはダッシュボード送風口の上にあります。リアのインジケーターはリアシート中央上部後方にあります。
フロント、リアともにインジケーター右側の表示灯は車の右側を、インジケーター左側の表示灯は車の左側をモニターします。
インジケーターは、バンパーと障害物などとのおよその距離を、表示灯の点灯数で示します。

- パークトロニックが作動すると、黄色のパークトロニック作動表示灯が点灯します。
- センサー感知範囲に障害物が入ると、外側の黄色の表示灯が1個点灯します。障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色の表示灯の数が増えていきます。
- 障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色の表示灯に加えて赤色の表示灯が1個点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。
  最短感知距離(約20〜15cm)になると、上記の表示灯に加えて2個目の赤色の表示灯が点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

知　識

パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じた数のインジケーターの表示灯が点灯します。

注　意！

- 障害物がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。
- インジケーターの赤色表示灯だけが点灯して警告音が鳴ったときは、システムに異常があり、機能が解除されます。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックの作動

エンジンスイッチが**2**の位置で走行速度が約18km/h以下のとき、トランスミッションのシフト位置に応じて以下のように作動します。ただし、パーキングブレーキが効いているときは作動しません。

- **シフトレバーの位置が D のとき**
  フロントのセンサーが働きます。

- **シフトレバーの位置が R または N のとき**
  フロントとリアのセンサーが働きます。

- **シフトレバーの位置が P のとき**
  パークトロニックは作動しません。

知　識

パークトロニックは、走行速度が約18km/h以下のときに作動します。走行速度が約18km/h以上になると作動を停止します。

パークトロニックオフスイッチ
パークトロニックを作動させないようにするときは、パークトロニックオフスイッチを押します。スイッチの表示灯が点灯します。
再び作動できるようにするときは、スイッチを再度押します。スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にエンジンスイッチを2の位置にすると、パークトロニックは自動的に作動状態になります。

5. 快適・室内装備

エアコンディショナー (E280 / E350 / E350 4MATIC)

エアコンディショナー(クライメートコントロール)は、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

注　意！

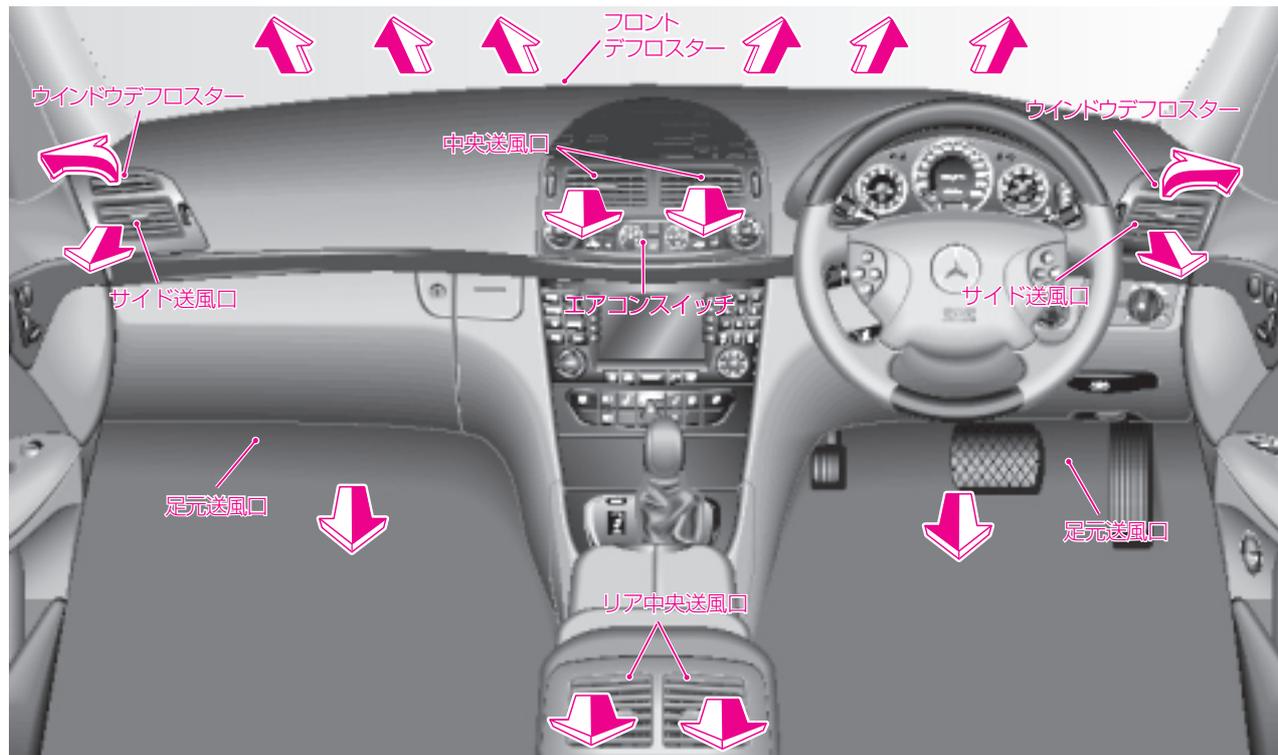
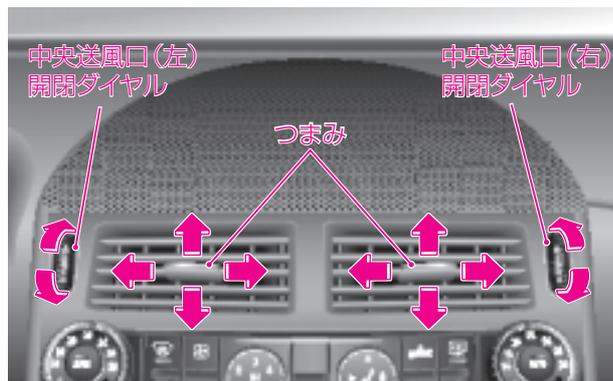
- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。
- ドアウインドウやスライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーをオフにすると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場にご相談ください。

各送風口

フロント
デフロスター
ウインドウデフロスター
中央送風口
ウインドウデフロスター
サイド送風口
エアコンスイッチ
サイド送風口
足元送風口
足元送風口
リア中央送風口

中央送風口

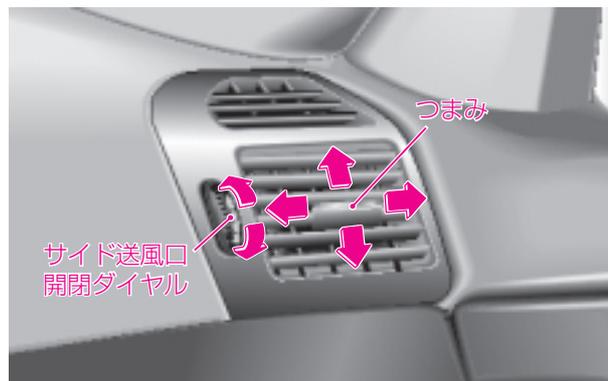
サイド送風口

中央 / サイド送風口の開閉

開く ： 開閉ダイヤルを上方にまわすと徐々に送風口が開き、風量が上がります。

閉じる： 開閉ダイヤルを下方にまわすと徐々に送風口が閉じ、風量が下がります。止まるまでまわすと送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

各送風口の風向調節

つまみを動かして調節します。

スイッチの名称

1 AUTOスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-6
2 送風温度調整(左側)ダイヤル ・・・・・・・・・5-7
3 デフロスタースイッチ ・・・・・・・・・・・・5-11
4 送風量調整スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・5-7
5 送風量インジケーター ・・・・・・・・・・・・・5-7
6 送風口インジケーター ・・・・・・・・・・・・・5-8
7 送風口選択スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・5-8
8 リアデフォッガースイッチ ・・・・・・・・・5-11
9 送風温度調整(右側)ダイヤル ・・・・・・・・・5-7
10 余熱ヒータースイッチ ・・・・・・・・・・・・5-10
11 ACスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-10
12 オフスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-6
13 内気循環スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・5-9

※エアコンのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた(AUTOモード)

以下の操作をすると、エアコンディショナーがAUTOモードで作動を始め、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

1 AUTOスイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。このとき送風量インジケーターと送風口インジケーターは、点灯しません。

2 温度調整ダイヤルで好みの温度を設定します。
通常は22℃に設定することをおすすめします。

知　識

他のスイッチや送風温度調整ダイヤルを操作したときもエアコンディショナーは作動しますが、前回使用していたときと同じ設定になるとは限りません。

オフスイッチ

エアコンディショナーを停止するときに使用します。

エアコンディショナーを停止する

オフスイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

送風温度調整ダイヤル
送風温度を調整します。

温度を上げる：ダイヤルを時計回りにまわします。
温度を下げる：ダイヤルを反時計回りにまわします。

知　識
- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをおすすめします。

送風量調整スイッチ
AUTOモードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整のAUTOモードが解除され、手動で送風量の調整ができるようになります。また、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。
点灯している送風量インジケーターの表示灯の数は、送風量を表します。

送風を強くする：スイッチを押します。
送風を弱くする：スイッチを押します。

知　識
送風量スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

安全のために
安全装備
運転する前に
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
点検と整備
サービスデータ
こんなときは

送風口選択スイッチ

AUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、手動で送風口を選択できるようになります。また、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

送風口インジケーターの表示灯を、送風したい送風口のマークに合わせます。

表示灯を時計回りに移動させる

MODE▼スイッチを押します。

表示灯を反時計回りに移動させる

▲MODEスイッチを押します。

▶ : 中央(フロントとリア)とサイドの送風口を中心に送風されます。

▲ : デフロスター(フロントとドアウインドウ)とリア中央送風口を中心に送風されます。

▼ : 足元(フロントとリア)の送風口を中心に送風されます。

▲▼ : デフロスター(フロントとドアウインドウ)と足元(フロントとリア)、リア中央送風口を中心に送風されます。

知　識

- 送風口選択インジケーターの表示灯を各送風口マークの間に合わせることにより、組み合わせた送風口からの送風を行なうこともできます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。
- 中央(フロントとリア)とサイド送風口からの送風は、常に自動的に調整されています。
- リア足元の送風口はフロントシートの下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

内気循環スイッチ
外気が汚れているトンネル内などで内気循環に切り替えるときに使用します。

内気循環にする：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
外気導入にする：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

外気導入(表示灯が消灯)のときに、スイッチを約2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが自動で閉じます。

内気循環(表示灯が点灯)のときに、スイッチを約2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

知　識

内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフをこの機能で前回開いていた位置まで開くことはできません。

注　意！

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを作動させているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを止めて少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。

内気循環モードは一定時間を経過すると、外気導入に切り替わります。
- 外気温度が5℃以上のとき：約30分後
- 外気温度が5℃以下のとき：約5分後
- ACモードを解除しているとき：約5分後

知　識

- ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているときに内気循環にするとウインドウが曇りやすくなります。
- 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環に切り替わり冷房効率を高めますが、表示灯は点灯しません。約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- デフロスタースイッチを押すか、ACモードを解除すると、外気導入になります。

安全のために
安全装備
運転する前に
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
点検と整備
サービスデータ
こんなときは

ACスイッチ

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ACモードを解除する

ACスイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。
ACモードにするときは、再度ACスイッチを押します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。
- ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- エアコンディショナーの冷媒が減っているときにACスイッチを押すと、表示灯が点滅もしくは消灯したままになり、エアコンディショナーは作動しません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

余熱ヒータースイッチ

エンジン停止後に車内を暖房するときに使用します。

使用する：エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。
余熱ヒータースイッチを押します。スイッチの表示灯が点灯します。
送風温度調整ダイヤルで好みの温度に設定します。

停止する：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーターが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 余熱ヒータースイッチをONにしてから約30分後
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- 送風量は一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときは暖気の送風は行なわれません。

デフロスタースイッチ

フロントウインドウとフロントドアウインドウの曇りを取るときに使用します。

使用する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

停止する：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスタースイッチを押すとデフロスター専用のモードになりますが、再度スイッチを押すと元のモードに戻ります。
- 車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、フロントウインドウに冷気が当たらないように送風口を選択すると、外側の曇りを軽減できます。

リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

使用する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

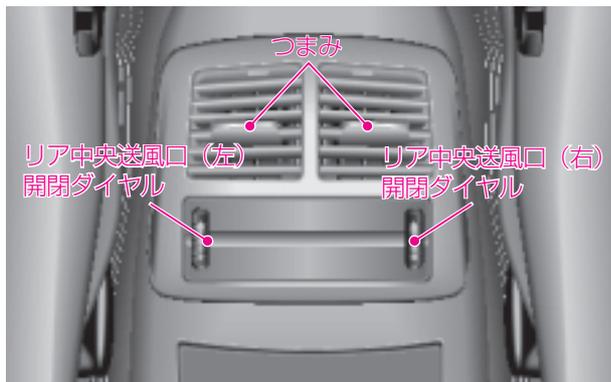
停止する：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。リアデフォッガーは約6～20分後に自動的に停止します。

注　意！

- リアウインドウに雪や氷が付着している場合は、それらを取り除いてからスイッチを入れてください。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めにスイッチを切ってください。

知　識

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

リア中央送風口

リア中央送風口

風量調節

開く　：開閉ダイヤルを上方にまわすと風量が上がります。

閉じる：開閉ダイヤルを下方にまわすと風量が下がります。止まるまで下方にまわすと、送風が止まります。

風向調節

つまみを動かして調節します。

知　識

- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。
- 送風温度は、フロントの中央送風口からの送風温度とほぼ同じです。
- リアの足元送風口が、フロントシート下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

エアコンディショナー (E 500 / E 55 AMG)

エアコンディショナー(クライメートコントロール)は、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。
車内の前後左右、4つのゾーンをそれぞれ好みの設定にすることができます。

注　意！

- 送風温度を高めに設定してあるときは送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。
- ドアウインドウやスライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーをオフにすると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気中に放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場にご相談ください。

各送風口

フロント
デフロスター
ウインドウデフロスター
中央送風口
ウインドウデフロスター
サイド送風口
エアコンスイッチ
サイド送風口
足元送風口
足元送風口
リア中央送風口

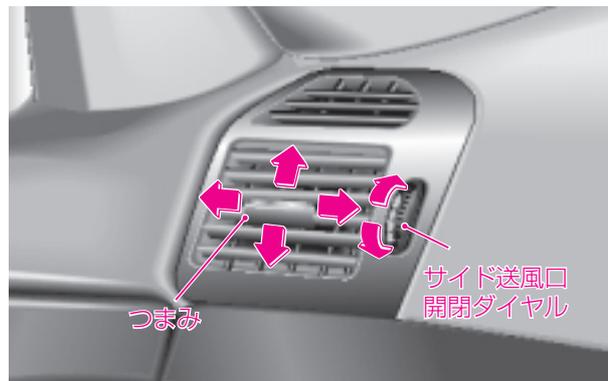
中央送風口

サイド送風口

各送風口の開閉

開く　：開閉ダイヤルを上方にまわすと徐々に送風口が開き、風量が上がります。

閉じる：開閉ダイヤルを下方にまわすと徐々に送風口が閉じ、風量が下がります。止まるまでまわすと送風口が閉じます。

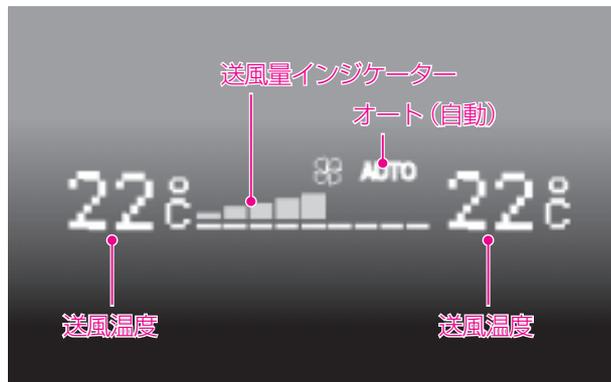
知　識
送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

各送風口の風向調節

つまみを動かして調節します。

スイッチの名称

知　識

気温や日射の強さにより、エンジン始動後は約30秒間、足元に送風が行なわれます。

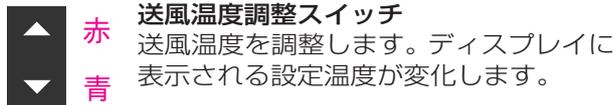
※エアコンのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

送風量インジケーター
オート(自動)
送風温度
送風温度

通常の使いかた(AUTOモード)
以下の操作をすると、エアコンディショナーがAUTOモードで作動を始め、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

1 AUTOスイッチを押します。
  スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにAUTOと表示されます。
2 送風温度調整スイッチで好みの温度を設定します。
  通常は22℃に設定することをおすすめします。

知　識
他のスイッチや送風口選択ダイヤルを操作したときもエアコンディショナーは作動しますが、前回使用していたときと同じ設定になるとは限りません。

オフスイッチ
エアコンディショナーを停止するときに使用します。

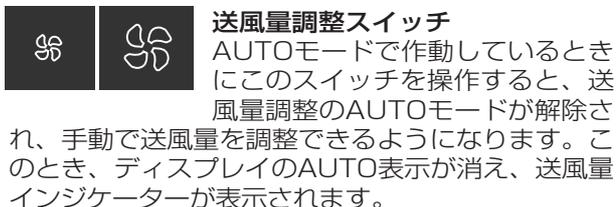
エアコンディショナーを停止する
オフスイッチを押します。
ディスプレイに0と表示されます。

赤
青

送風温度調整スイッチ
送風温度を調整します。ディスプレイに表示される設定温度が変化します。

送風温度を上げる：スイッチの上側を押します。
送風温度を下げる：スイッチの下側を押します。

知　識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをおすすめします。

送風量調整スイッチ
AUTOモードで作動しているときにこのスイッチを操作すると、送風量調整のAUTOモードが解除され、手動で送風量を調整できるようになります。このとき、ディスプレイのAUTO表示が消え、送風量インジケーターが表示されます。

送風を強くする：(大)スイッチを押します。表示される送風量インジケーターの数が増えます。
送風を弱くする：(小)スイッチを押します。表示される送風量インジケーターの数が減ります。

知　識

送風量スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

送風口選択ダイヤル
AUTOモードで作動しているときにこのダイヤルを操作すると、送風口選択のAUTOモードが解除され、手動で送風口を選択できるようになります。このとき、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

▶ : 中央(フロントとリア)とサイド(フロントとリア)の送風口を中心に送風されます。

▲ : デフロスター(フロントとドアウインドウ)とリア(中央およびサイド)の送風口を中心に送風されます。

▼ : 足元(フロントとリア)の送風口を中心に送風されます。

⬍ : デフロスター(フロントとドアウインドウ)と足元(フロントとリア)、リア中央送風口を中心に送風されます。

知　識

- ダイヤルを各送風口マークの間に合わせることにより、組み合わせた送風口からの送風を行なうこともできます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。
- 送風口の組み合わせは左右別々に選択できます。
- 中央とサイド(フロントとリア)送風口からの送風は、常に自動的に調整されています。
- リア足元の送風口はフロントシートの下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

内気循環スイッチ

外気が汚れているトンネル内などで内気循環に切り替えるときに使用します。

内気循環にする：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

外気導入にする：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

外気導入(表示灯が消灯)のときに、スイッチを2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが自動で閉じます。

内気循環(表示灯が点灯)のときに、スイッチを2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

知　識

内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフをこの機能で前回開いていた位置まで開くことはできません。

注　意！

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを作動させているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを止めて少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。

内気循環モードは一定時間を経過すると、外気導入に切り替わります。

- 外気温度が5℃以上のとき：約30分後
- 外気温度が5℃以下のとき：約5分後
- ACモードを解除しているとき：約5分後

知　識

- ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているとき、内気循環にするとドアウインドウが曇りやすくなります。
- 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環に切り替わり冷房効率を高めますが、表示灯は点灯しません。約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- デフロスタースイッチを押すかACモードを解除すると、外気導入になります。

A/C

ACスイッチ
AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ACモードを解除する
ACスイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。
ACモードにするときは、再度ACスイッチを押します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。
- ACモードを解除するとウインドウが曇りやすくなります。ACモードを解除するときは短時間にとどめてください。
- ACスイッチを押しても表示灯が点滅もしくは消灯したままのときは、エアコンディショナーの冷媒が減っているためエアコンディショナーは作動しません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

リアエアコンディショナースイッチ
フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作できます。

スイッチを押すと、ディスプレイの表示が切り替わり、フロントの送風温度調整スイッチで、リア中央送風口とリアサイド送風口の送風温度を左右別々に設定することができます。再度、スイッチを押すと、この機能は解除されます。

知　識

スイッチを押してから約5秒間なにも操作をしないと、この機能は解除され、ディスプレイが通常の表示に切り替わります。

余熱ヒータースイッチ
エンジン停止後に車内を暖房するときに使用します。

使用する：エアコンディショナーを作動させ、好みの送風温度に調整します。
エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。
余熱ヒータースイッチを押します。ディスプレイに "REST" と表示されます。
停止する：再度、スイッチを押します。
ディスプレイのREST表示が消えます。

以下のときは、余熱ヒーターが自動的に停止します。
- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 余熱ヒータースイッチをONにしてから約30分後
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識
- 送風量は一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときは暖気の送風は行なわれません。

デフロスタースイッチ
フロントウインドウの曇りを取るときに使用します。

使用する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
停止する：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

知　識
- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスタースイッチを押すとデフロスター専用のモードになりますが、再度、スイッチを押すと元のモードに戻ります。ただし、内気循環にしていた場合は外気導入に切り替わります。
- 車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、フロントウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

リアデフォッガースイッチ
リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

使用する：スイッチを押します。
スイッチの表示灯が点灯します。
停止する：再度、スイッチを押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

エンジンスイッチが2の位置のときに使用できます。リアデフォッガーは約6～20分後に自動的に停止します。

注　意！

- リアウインドウに雪や氷が付着している場合は、それらを取り除いてからスイッチを入れてください。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めにスイッチを切ってください。

知　識

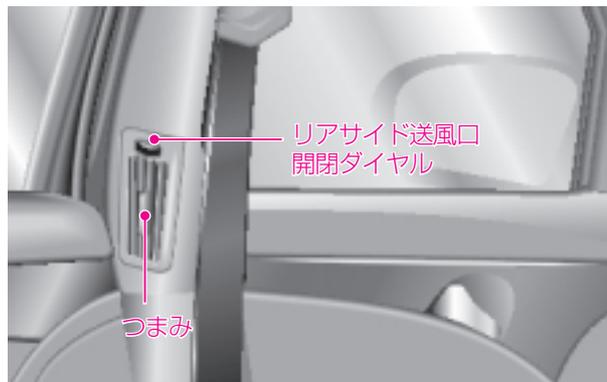
- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

リア中央送風口

リアサイド送風口

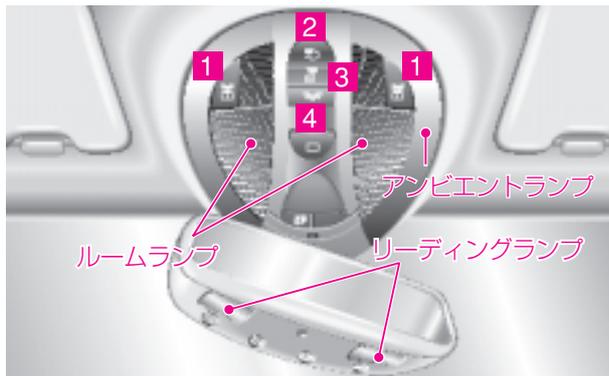
リアエアコンディショナー
リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動させることができます。

中央送風口の風量調節
開く　：開閉ダイヤルを上方にまわすと風量が上がります。
閉じる：開閉ダイヤルを下方にまわすと風量が下がります。止まるまで下方にまわすと、送風が止まります。

サイド送風口の風量調節
開く　：開閉ダイヤルを外側にまわすと風量が上がります。
閉じる：開閉ダイヤルを内側にまわすと風量が下がります。止まるまで内側にまわすと、送風が止まります。

各送風口の風向調節
つまみを動かして調節します。

各送風口の送風温度調節(温度スイッチ)
送風温度を上げる：スイッチの上側を押します。
送風温度を下げる：スイッチの下側を押します。

知　識
- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをおすすめします。
- フロントの送風量調整スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。
- フロントドアが開いているときはリアサイド送風口からは送風されません。
- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方または内側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

ルームランプ

フロント

自動点灯モード

ルームランプスイッチ3が押されていない状態のときは、自動点灯モードになります。周囲が暗いとき、ルームランプは以下のように点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します(3-102)。
- リモコン操作で解錠すると約30秒間点灯します。
- フロントドアを開くとフロントルームランプが点灯し、リアドアかテールゲートを開くとリアルームランプとラゲッジルームランプが点灯します。
  ◇エンジンスイッチが**2**の位置のときはドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。ドアやテールゲートを開いたままのときは消灯しません。
  ◇エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じてから数秒後に消灯します。ドアやテールゲートを開いたままのときは約5分後に消灯します。

知　識

スイッチ3が押されていない状態のときでも、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

常時消灯モード

ルームランプスイッチの3が押されている状態のときは、以下のいずれかの操作をしてもルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアやテールゲートを開く

ルームランプを手動で点灯 / 消灯する
点灯する：スイッチ4を押します。
消灯する：再度、スイッチ4を押します。

スイッチ2でリアルームランプとラゲッジルームランプを手動で点灯 / 消灯することができます。
点灯する：スイッチ2を押します。
消灯する：再度、スイッチ2を押します。

注　意！

リモコン操作で施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

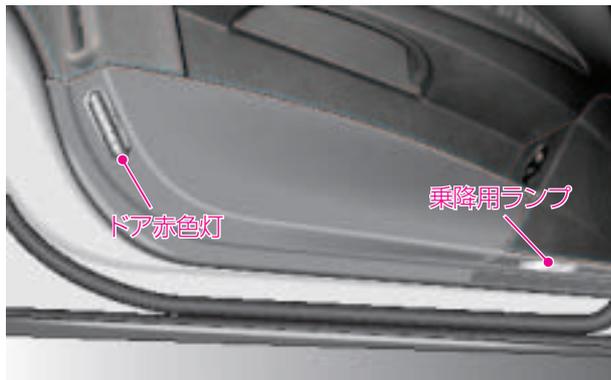
リア

アンビエントランプ
フロントとリアのルームランプの外周にあり、周囲が暗いときに車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

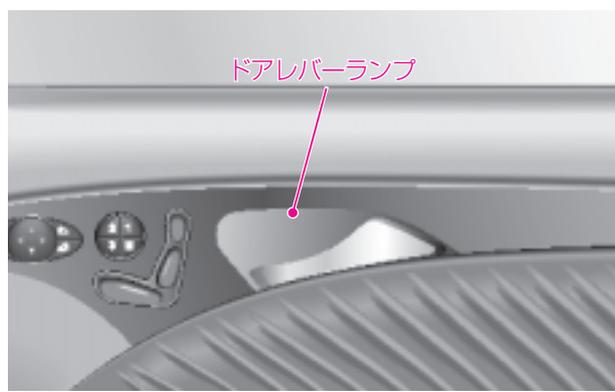
フロントアンビエントランプは、各種設定 "ﾗﾝﾌﾟ" の "ｱﾝﾋﾞｴﾝﾄ ﾗﾝﾌﾟ" 画面で明るさを5段階、または常時消灯に設定することができます(3-101)。

リアアンビエントランプの明るさは、スイッチ6、7で調節します。
明るくする：スイッチ6を押します。
暗くする　：スイッチ7を押します。

リーディングランプ
フロントリーディングランプはルームミラーの下部にあります(5-25)。
点灯する：スイッチ1を押します。
消灯する：再度、スイッチ1を押します。

リアリーディングランプはリアルームランプの後方にあります。
点灯する：スイッチ5を押します。
消灯する：再度、スイッチ5を押します。

乗降用ランプ / ドア赤色灯

乗降用ランプ / ドア赤色灯
乗降用ランプはドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。ドア赤色灯はドアの側部にあり、後続車や歩行者に注意を促します。
ルームランプが自動点灯モード**(5-25)**になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。エンジンスイッチが**2**以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。

フットウェルランプ
ダッシュボード下とフロントシート下にあり、乗降時に足元を照らします。
周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。エンジンスイッチが**2**以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。
フロントとリアのルームランプを点灯させているときも、フットウェルランプが点灯します。

ドアレバーランプ　右ハンドル車

センターコンソールランプ

ドアレバーランプ

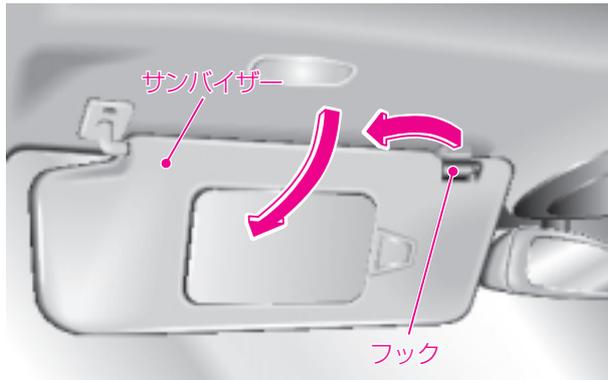
ドアレバーの上方にあります。以下のときに点灯し、ドアレバー周辺を照らします。

- 車幅灯を点灯させると点灯し、車幅灯が消灯すると約5分後に消灯します。
- ランプスイッチがAUTOの位置**(4-19)**になっていてランプが自動点灯すると点灯し、ランプが自動消灯すると消灯します。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約5分後に消灯します。

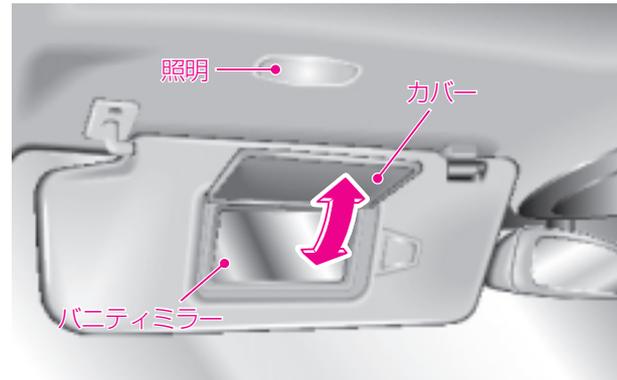
センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。以下のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

- 周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、ルームランプの点灯モードにかかわらず、約40秒間点灯します。
- ドアを開いたとき、または開いているドアを閉じたときに、ルームランプの点灯モードにかかわらず約30秒間点灯します。
- 周囲が暗いときに車幅灯を点灯させると点灯し、車幅灯が消灯すると消灯します。
- ランプスイッチがAUTOの位置**(4-19)**になっていてランプが自動点灯すると点灯し、ランプが自動消灯すると消灯します。

サンバイザー

直射日光が眩しいときに使用します。
横からの光が眩しいときは、サンバイザーをフックから外して横にまわしたり、スライドさせることができます。

注　意！

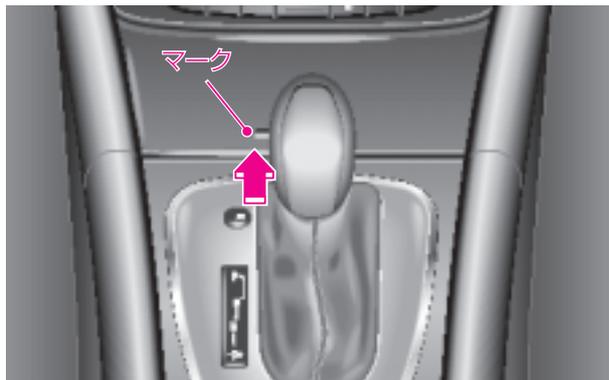
サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーのカバーを閉じてください。ルーフやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー
カバーを開いて使用します。
カバーを開くと照明が点灯します。

注　意！

眩惑を防ぐため、走行中はカバーを閉じてください。

知　識

サンバイザーをフックから外すと照明は点灯しません。

灰皿

フロントの灰皿
センターコンソールにあります。

開く　：カバーのマークを軽く押します。
閉じる：カバーを下方に押して閉じます。

注　意！

開くときはカバーの上部を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。

取り外す　：エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。
エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを**N**に入れます。
ノブを右側に押しながら、ノブ右側の凹部に指をかけて灰皿を取り出します。
取り付ける：灰皿をロックするまで押し込みます。

注　意！

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

リアの灰皿
左右のリアドアにあります。

開く　：カバーの上部を軽く押します。
閉じる：カバーを押して閉じます。

取り外す　：灰皿を開き、フラップを手前に引きながら、取り外します。
取り付ける：灰皿の下部の位置を合わせて、灰皿を押し込みます。

注　意！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

ライター

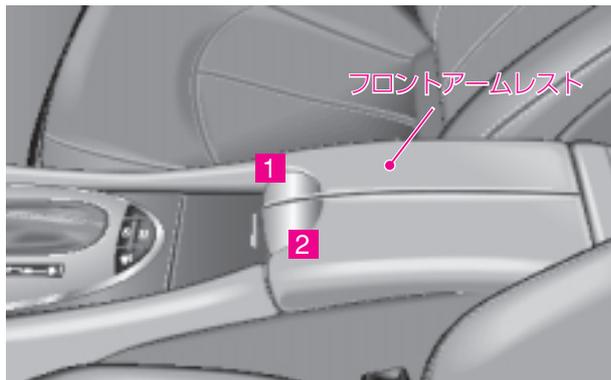
フロントの灰皿の横にあります。
エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。
ライターを押し込んで元の位置に戻るのを待ち、抜いて使用します。
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻してください。

⚠ 警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

アームレスト

フロントアームレスト
フロントアームレストには上部と下部に小物入れがあります。

上部の小物入れ

開く　：レバー1を引きます。アームレストカバーが左右に開きます。
閉じる：左右のカバーを閉じてロックします。

下部の小物入れ

開く　：レバー2を引いて、アームレストを引き上げます。
閉じる：アームレストを下げてロックします。

⚠ 警　告

走行中は必ず小物入れのカバーやアームレストを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時などに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

小物入れのカバーやアームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。

携帯電話の接続
フロントアームレスト上部の小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。
コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける
携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

携帯電話を取り外す
コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意！
携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。携帯電話を損傷するおそれがあります。

詳しくは、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をご覧ください。

リアアームレスト
引き出して使用します。
収納するときは押し込みます。

リアアームレストには、カップホルダー**(5-36)**と小物入れ**(5-40)**があります。

カップホルダー

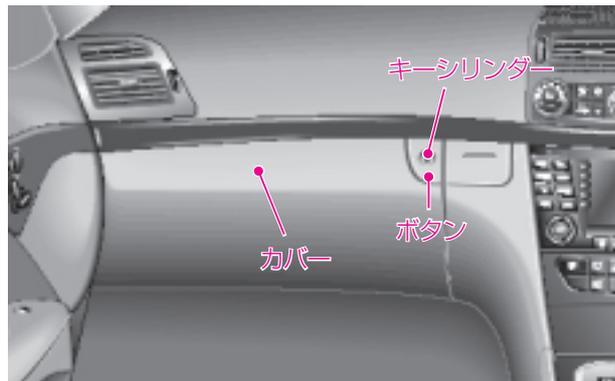
使用する

1 アームレストを引き出します。
2 カップホルダーを軽く押します。カップホルダーがスライドします。

収納する

カップホルダーを押してロックさせます。

注　意！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- サイズに合った容器を置いてください。
- 走行中は使用しないでください。

グローブボックス

右ハンドル車

開く　：ボタンを押します。
閉じる：カバーを押してロックさせます。

グローブボックスの独立施錠

キーシリンダーにエマージェンシーキーを差して解錠 / 施錠することができます。

解錠：キーを垂直位置にまわします。
施錠：キーを水平位置にまわします。

注　意！

- 走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時などに乗員がけがをしたり、収納物が飛び出すおそれがあります。
- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

知　識

- 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。
- グローブボックスの中にはペンホルダーなどがあります。
- エンジンスイッチが2の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

小物入れ

右ハンドル車

ダッシュボードの小物入れ＊

眼鏡などを収納することができます。

開く　：カバーを軽く押します。
閉じる：カバーを押してロックさせます。

センターコンソールの小物入れ

開く　：カバーのマークを軽く押します。
閉じる：カバーを後方に押してロックします。
内部のトレイは取り外すことができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

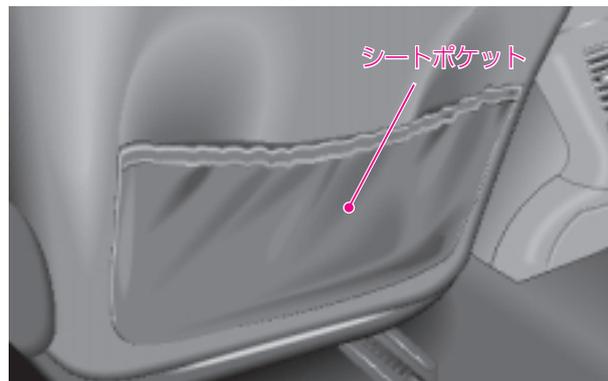
右ハンドル車

運転席シート下の小物入れ
開く　：ノブを引き、カバーを前方に開きます。
閉じる：カバーを後方に押してロックします。

注　意！

重い荷物は収納しないでください。

知　識

助手席シート下の小物入れには救急セットが入っています。

シートポケット
左右フロントシートの背面にあります。

注　意！

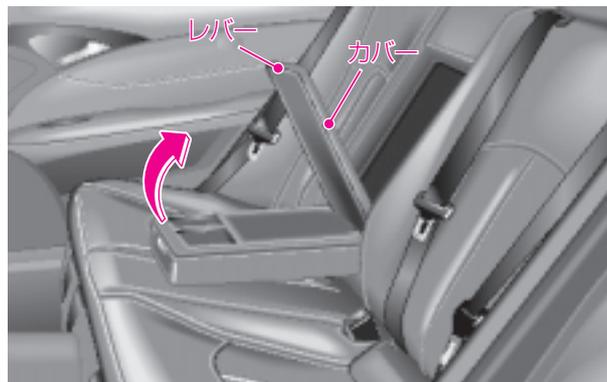
- シートポケットには、重い物や固い物、ピンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納物がポケットからはみ出さないようにしてください。

センターコンソール後部の小物入れ

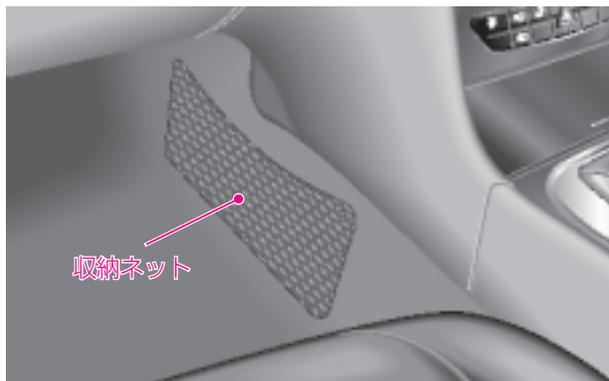
開く　：カバーを軽く押します。
閉じる：カバーを押してロックさせます。

小物入れ内部には電源ソケットがあります(5-43)。

注　意！

灰皿ではありません。たばこの火や灰などを落とさないでください。

リアアームレストの小物入れ

開く　：レバーを引きながら、カバーを引き上げます。
閉じる：カバーを下げてロックさせます。

収納ネット＊

右ハンドル車

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

注　意！

- 収納ネットには、重い物や固い物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ 警　告

SRSウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- **アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。**
- **コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。**
- **コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。**

注　意！

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上に大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

CDチェンジャーカバー

カバーを開く　：CDチェンジャーカバー開閉ボタンを押します。
カバーが上方に開きます。

カバーを閉じる：再度、CDチェンジャーカバー開閉ボタンを押します。
カバーが閉じます。

詳しくは、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をご覧ください。

注　意！

- CDチェンジャーカバーを開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。
- CDチェンジャーカバーは、開いてから約30秒後に自動的に閉じることがあります。指などを挟まないように注意してください。

知　識

CDチェンジャーカバーが開いているときにリモコン操作で施錠すると、カバーも閉じます。

12V電源ソケット

センターコンソール後部

センターコンソール後部の小物入れとラゲッジルーム左側に12V電源ソケットがあります。電気製品などの電源として使用します。
使用するときはカバーを上方に開きます。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

注　意！

- 必ずDC12V、最大消費電流15A以下(最大消費電力180W以下)の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
- 電源ソケットにライターを差し込まないでください。
- ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になるおそれがあります。

6. 万一のとき

事故・故障のとき

⚠ 警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近づけないように注意してください。火災や爆発が発生するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車し、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れ、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。

注　意！

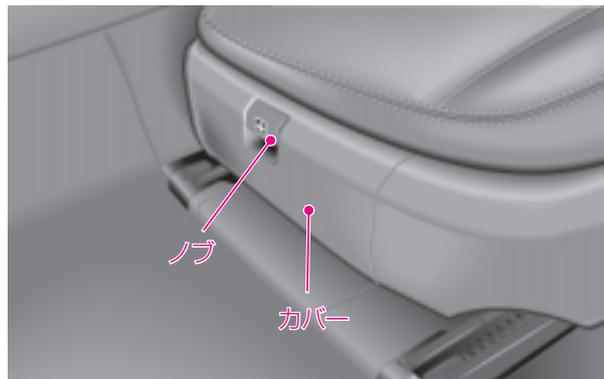
踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケット内に備えています。

知　識

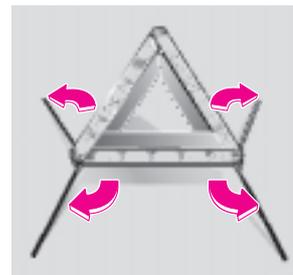
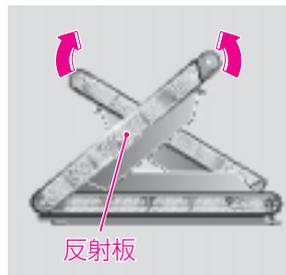
- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

救急セット

右ハンドル車

救急セットは助手席シート下部の小物入れに収納されています。救急セットの中身が揃っていて、使用可能であるかを、定期的に点検してください。

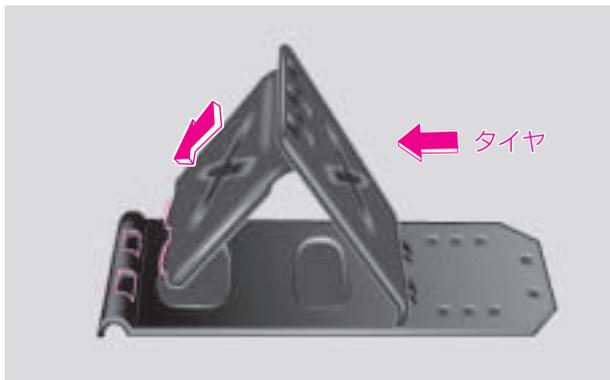
取り出す：ノブを引き、カバーを開いて救急セットを取り出します。
収納する：救急セットを入れてから、カバーを押して閉じます。

停止表示板

停止表示板はラゲッジルーム左側のサイドパネル内にあります。

停止表示板の使いかた

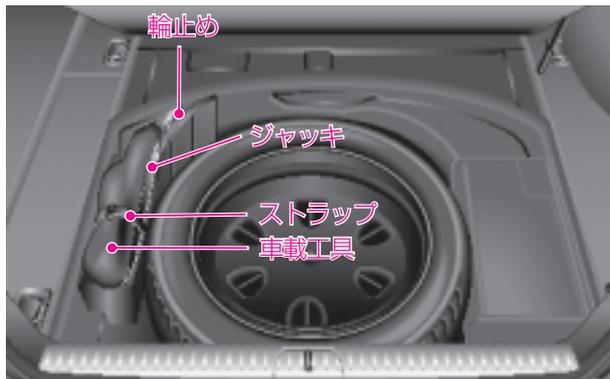
1 ラゲッジルーム左側のサイドパネルのカバーを開きます。
2 ストラップを外し、停止表示板ケースを取り出します
3 停止表示板ケースから停止表示板を取り出します。
4 反射板を開いて、三角形に組み立てます。
5 スタンドを拡げて、停止表示板を地面に立てます。

※車種により、装備される停止表示板が異なることがあります。

輪止め

輪止めは図のように組み立てます。

注　意！

輪止めを使用するときは方向に注意してください。

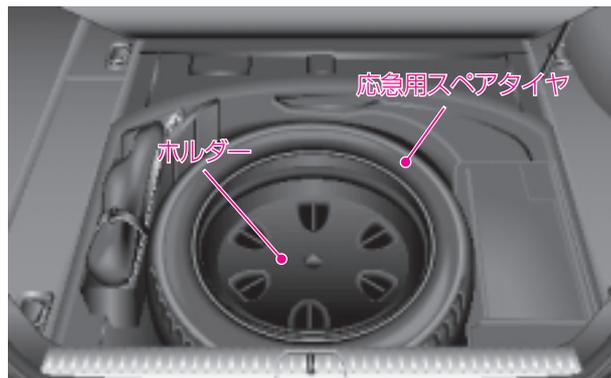
車載工具

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC / E 500
ラゲッジルームトレイを取り外した状態

E 55 AMG
ラゲッジルームトレイを取り外した状態

車載工具はラゲッジルームトレイ下の図の位置にあります。ジャッキ、輪止めと一緒に、ホイールレンチ、ガイドボルト、けん引フックなどが車載工具として収納されています。
ストラップを外して取り出します。

E 55 AMGの車載工具、タイヤリペアキット（タイヤフィット、電動エアポンプ）などはラゲッジルームトレイ下の図の位置にあります。

※タイヤフィット、電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ＊

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC / E 500

応急用スペアタイヤはラゲッジルームトレイ(3-37)の下に収納されています。応急用として、一時的に使用してください。

取り出す

1 ホルダーを反時計回りにまわして取り外します。
2 応急用スペアタイヤを取り出します。

収納する

1 ホイールの外側を下にして、応急用スペアタイヤを入れます。
2 ホルダーを時計回りにまわして固定します。

⚠ 警　告

- **応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。**
- **応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。**

注　意！

- ホルダーをまわすときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- ホルダーをいっぱいにまわして応急用スペアタイヤを固定しないと、ラゲッジルームトレイやフロアボードが完全に閉じなかったり、ホルダーを損傷するおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

知　識

ホルダーの上に、交換したタイヤを収納する保護シートが置いてあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パンクしたとき

パンクしたときは、応急用スペアタイヤに交換します(E 55 AMGを除く)。
タイヤ交換は、十分に安全を確保できる、地面が固く水平な場所で行なってください。
E 55 AMGは、タイヤリペアキットでパンクしたタイヤを修理します(**6-14**)。

⚠ 警　告

- **パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。**
- **路上でタイヤ交換をするときは、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置き、非常点滅灯を点滅させてください。**

注　意！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

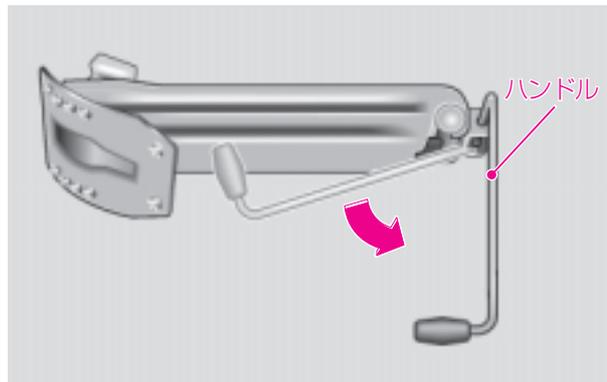
応急用スペアタイヤに交換する

1. 安全な場所に停車した後、パーキングブレーキを確実に効かせてからセレクターレバーを**P**に入れ、ステアリングを直進位置にして、エンジンを停止します。
2. エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。
3. ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します。
4. 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。
   やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。
   - 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。
   - 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

5　ホイールレンチで、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

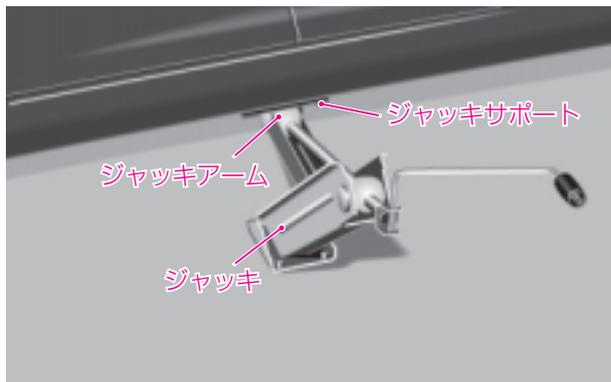
注　意！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。

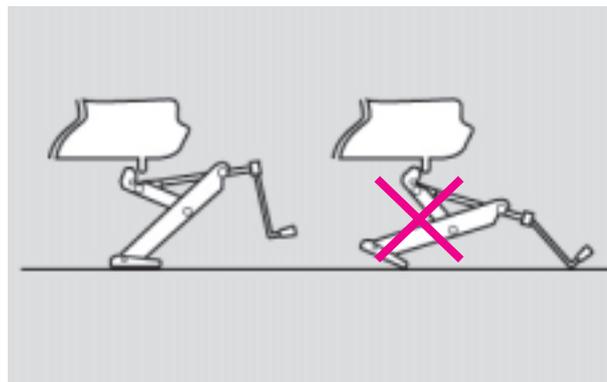
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

6　ジャッキを取り出します。ハンドルを矢印の方向に動かします。

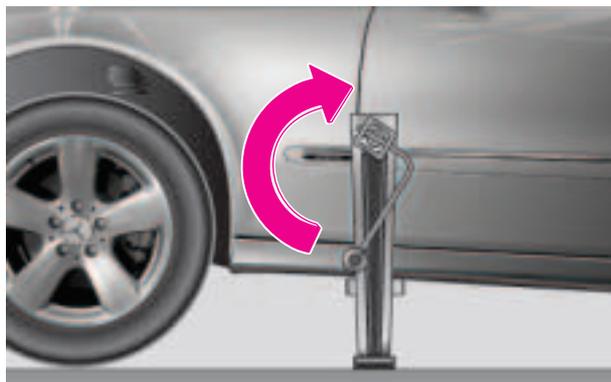
注　意！

車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 地面が固く水平な場所で使用してください。
- ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。

7 ジャッキアームをジャッキサポートの位置に合わせます。

知　識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部に計4ヵ所設けられています。

注　意！

- ジャッキアップする前に人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキアームが正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。
- ジャッキは側面から見て、垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

8 ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、ゆっくりとジャッキアップします。

⚠ 警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意！

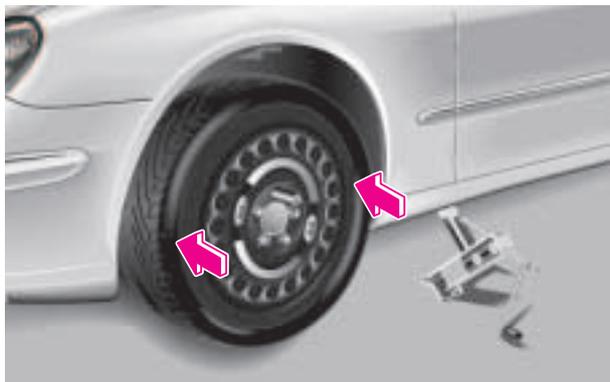
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から3cm以内にしてください。

9 上側のホイールボルトを1本外します。

10 そのネジ穴に車載工具のガイドボルトを取り付けます。

11 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

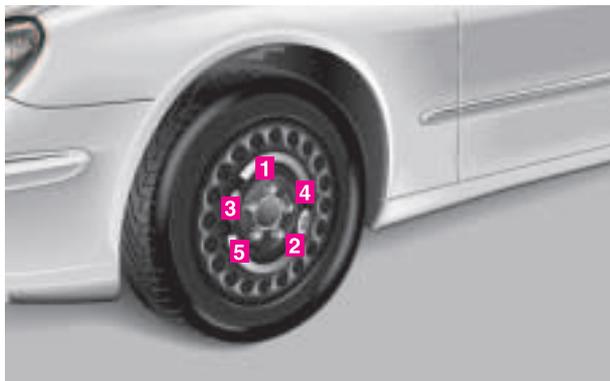
注　意！

- ホイールボルトに砂や泥を付けないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

12 ガイドボルトに合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。
13 4本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。
14 ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。
15 ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

⚠ 警　告

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

注　意！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷したときは、すぐに修理してください。
- 応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れるおそれがあります。

16 ジャッキを外します。
17 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクは13 kg-m（130Nm）です。

タイヤ交換後は、指定サービス工場などでホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

18 ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めとともに元の位置に収納します。
19 外したタイヤは車載の保護シートに入れて、ラゲッジルーム内に収納します。

注　意！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

パンクしたとき(E55 AMG)

パンクしたタイヤをタイヤフィット＊で修理すると、一時的に走行することができます(E 55 AMGのみ)。

パンクしたタイヤを修理するときにタイヤフィットを使用することができるのは、タイヤの接地面に傷があってその傷の大きさが4mm以内のときです。接地面以外に傷があるときや4mmより大きい傷のときは他の方法で車両を移動させてください。

※装備されているタイヤフィットのタイプが、取扱説明書に記載のものから変更されている車両があります。そのような車両には、変更後のタイヤフィットの使い方に関する補足版が追加されています。本編の当該箇所を補足版に置き換えて、ご使用の前によくお読みください。
補足版は取扱説明書とともに車の中に保管してください。

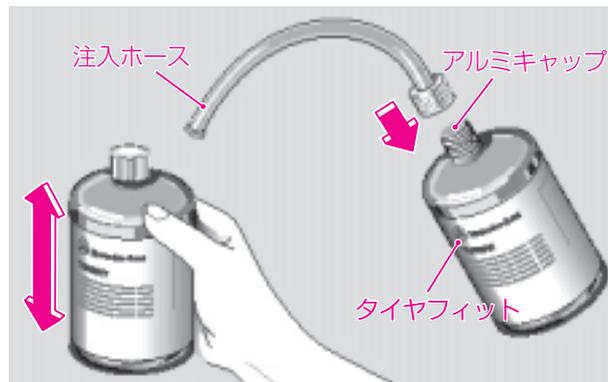
⚠ 警　告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、最寄りの指定サービス工場で必ずタイヤを交換してください。走行するときの最高速度は80km/hです。
- 空気圧不足で走行したためにタイヤに凹み、亀裂、ひびなどがある場合、タイヤから空気が完全に抜けている場合、ホイールに著しい損傷がある場合などは、タイヤフィットを使用しないでください。
- タイヤフィットは、決して身体や衣服に付着させないように注意してください。眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水でしっかり洗い流し、医師の診断を受けてください。衣服に付着した場合は、付着した衣服を着替えてください。また、アレルギー症状が出た場合は、医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、絶対に吐かせないでください。ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませます。そして、すぐに医師の診断を受けてください。
- 火気は近づけないでください。タバコの火などが原因となり、火災が発生するおそれがあります。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

タイヤフィットの使用方法

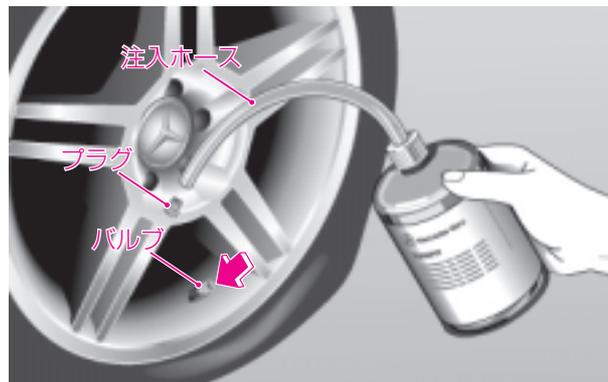
以下の点に注意してください。

- タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。
- 外気温度が−20℃以下のときは使用しないでください。
- タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。
- 損傷したタイヤの中に注入したタイヤフィットは、乾燥させてタイヤとともに処分してください。
- タイヤフィットを注入したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。
- タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。またタイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。
- タイヤフィットの使用期限は一般的には約3年間です。

1 安全な場所に停車した後、パーキングブレーキを確実に効かせてからセレクターレバーをPに入れ、エンジンスイッチを0の位置にします。
2 タイヤフィットを取り出し、容器をよく振ります。
3 注入ホースを容器にねじ込みます（その際、アルミキャップを突き刺します）。

4 バルブキャップを取り外し、バルブレースを反時計回りにまわして、バルブからバルブコアを取り外します。

注 意！

バルブコアを汚したり、損傷しないように注意してください。

※タイヤフィット、バルブコア、バルブレースなどの形状や絵柄は、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからない場合は、指定サービス工場におたずねください。

5 注入ホースからプラグを外し、注入ホースの先端をバルブに差し込みます。

6　容器を逆さにして中身を完全にタイヤの中へ押し込みます。
7　ホースをバルブから外します。
バルブ、リム、タイヤなどにシール剤が付着した場合は拭き取ります。

8　バルブレースを使用して、バルブコアを元どおりに取り付けます。

知　識

予備のバルブコアがタイヤリペアキットに付属しています。タイヤに装着されていたバルブコアが汚れたり、損傷しているときは、予備のバルブコアと交換してください。

9 電動エアポンプで、1.8バールになるまでタイヤに空気を入れます。

注　意！

電動エアポンプは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

※タイヤフィット、電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

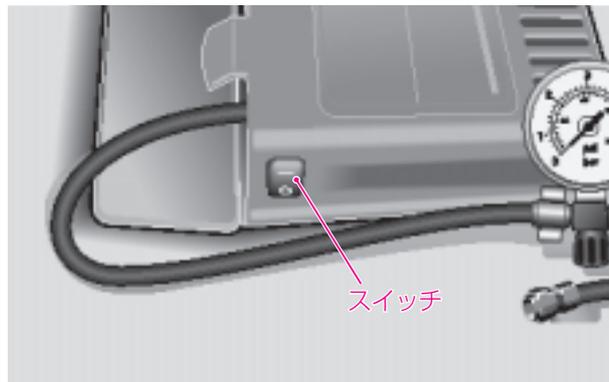
ライターのソケットを使う場合

10 電動エアポンプのホースをパンクしたタイヤのバルブに取り付けます。

11 エンジンスイッチを0の位置にして、電動エアポンプのプラグをライターのソケットかセンターコンソール後部、またはラゲッジルーム左側の電源ソケットに差し込みます。

12 空気圧調整バルブが完全に閉じていることを確認して、エンジンスイッチを1の位置にします。

注 意！

- エンジンを始動させないでください。
- 電動エアポンプは8分以上作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。
  再度作動させるときは、冷えていることを確認してから行なってください。

13 電動エアポンプのスイッチをⅠ（ONの位置）にします。電動エアポンプが作動して、タイヤに空気が送り込まれます。

14 1.8バールになるまでタイヤに空気を入れます(約5分間)。圧力計が1.8バールになったら、エンジンスイッチを0の位置にして、電動エアポンプを停止します。1.8バールを超えたときは、空気圧調整バルブをゆるめて空気を抜き、1.8バールに調整します。

15 ソケットからプラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取り外します。

注　意！

空気圧が1.8バールに達しない場合は、タイヤのバルブから電動エアポンプのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約10m前進または後退させます。その後タイヤに空気を入れ直します。それでも1.8バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、指定サービス工場に連絡してください。

16 バルブキャップを取り付けます。
17 タイヤフィットがタイヤにまんべんなく行き渡り、損傷箇所が固まるように、ただちに走行してください。

⚠警　告

パンク修理後に走行するときの最高速度は80km/hです。カーブでは特に慎重に走行してください。また、操縦性が変わることがあります。

注　意！

- 安全のため、付属の最高速度のステッカー（max.80km/h）を運転者の見やすい場所に貼付してください。
- タイヤフィットが流れた場合は、乾燥させてから拭き取ってください。

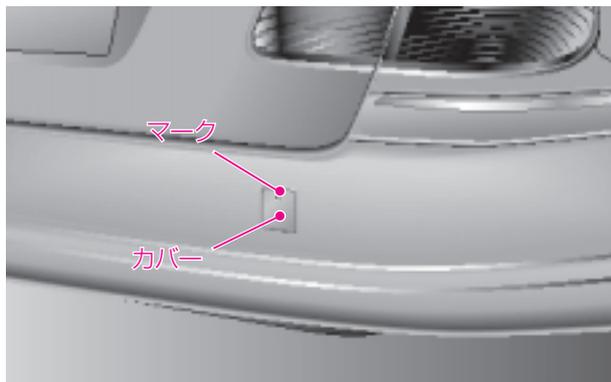
18 およそ10分間走行した後、電動エアポンプの圧力計でタイヤの空気圧を点検します。1.3バール以下の場合はそれ以上走行せず、指定サービス工場に連絡してください。
1.3バール以上の場合は、電動エアポンプで規定値(燃料給油フラップの裏側のタイヤ空気圧ラベルを参照)になるまでタイヤに空気を入れてください。

タイヤフィットの廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

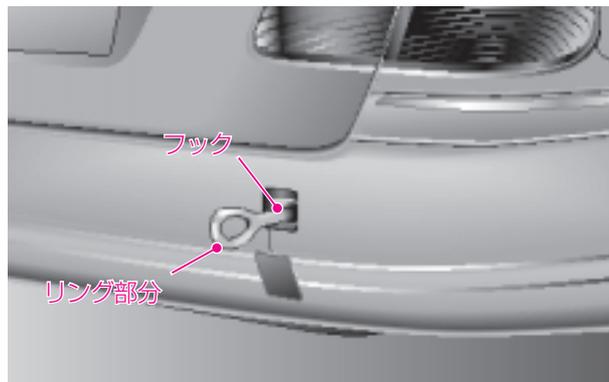
けん引

- けん引はできるだけ避け、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

けん引フックの取り付け

1. 車載工具からけん引フックとホイールレンチを取り出します。
2. カバーのマークを押し、カバー全体を手前に引いて取り外します。
3. 内部のネジ穴にフックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。さらに、ホイールレンチの柄の部分をフックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

- エンジンを始動できるときは、エンジンをかけて、セレクターレバーを N に入れます。
- エンジンを始動できないときは、エンジンスイッチを2の位置にし、セレクターレバーを N に入れます。

注　意！

けん引するときは、車速感応ドアロックを解除してください(3-105)。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

フロントかリアをつり上げてのけん引

- エンジンスイッチを2の位置にし、エンジンを始動せずにセレクターレバーを N に入れます。
- エンジンスイッチを0の位置にします。

注　意！

フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。エンジンスイッチが2の位置にあると、ESPが作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

注　意！

- SBCホールドを作動させていると、パーキングブレーキを効かせていなかったり、ブレーキペダルを踏んでいなくても車にはブレーキがかかっています。けん引で車を動かすときは、SBCホールドを解除してください。
- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- トランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないと、パワーステアリングが作動しません。ステアリングをまわすときに非常に大きな力が必要になります。

けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように車間距離と前車のブレーキランプに注意してください。
- 4MATIC車をけん引するときは、駆動装置などを損傷するおそれがありますので、以下の事項を守ってください。
  ◇車両運搬車などを使用し、4輪を持ち上げた状態で搬送してください。
  ◇やむを得ず車の前輪または後輪を上げてけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。また、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ブレーキが作動します。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをけん引フックかホイール、またはホイールリムにかけてください。サスペンションなどのメンバー部にかけると車体を損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます

- 水温計のゲージが上限に近づいている
- 走行中に冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る
- エンジンルームから蒸気が出ている

⚠ 警　告

- **エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。**
- **水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。**

注　意！

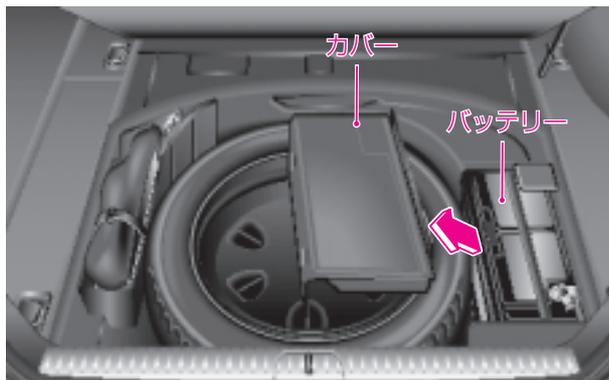
- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(9-21)をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

1 ただちに安全な場所に停車します。
2 エンジンをアイドリング状態で冷却します。
　エンジンファンが停止しているとき、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。
3 エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。
4 冷却水が不足していたら補給します(7-5)。

注　意！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

知　識

- バッテリーがあがり、リモコン操作で解錠できないときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（3-25）。
- バッテリーがあがり、セレクターレバーを P から動かすことができなくなったときは手動で動かすことができます（4-18）。

⚠ 警　告

- ブースターケーブルでエンジンを始動するとき、バッテリーの取り扱いやブースターケーブルの接続を誤ると、バッテリーが爆発してけがをしたり、車の電装部品を損傷するおそれがあります。
- ブースターケーブルを使用して始動しているときはバッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- エンジンルーム内にあるSBC用バッテリーは、ブースターケーブルによるエンジン始動には使用できません。SBC用バッテリーには、絶対にブースターケーブルなどを接続しないでください。また、SBC用バッテリーの接続を外さないでください。

バッテリーの位置

バッテリーはラゲッジルームにあり、ブースターケーブルはこのバッテリーにのみ接続することができます。

フロアボードを引き上げ、ラゲッジルームトレイ(3-37)を取り外します。

※マルチファンクションディスプレイにバッテリーに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(9-18)をご覧ください。

始動の方法

1　バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。
2　救援車のエンジンを停止します。
3　両車の電気装備をすべてオフにします(エンジンスイッチを0の位置にします)。
4　自車の⊕ターミナルカバーを開きます。
5　救援車のバッテリーの⊕端子と自車の⊕端子を赤色ブースターケーブルで接続します。
　先に救援車のバッテリーの⊕端子を接続してください。
6　救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
7　救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルの一方を接続し、反対側を自車の⊖端子に接続します。
8　自車のエンジンを始動します。

注　意！

• 電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにヒーターやデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ライトは点灯させないでください。
• 救援車の取扱説明書もよくお読みください。

9　取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。
10 必要のない電気装備を停止します。

注　意！

- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジンが暖まっているときは、ブースターケーブルでエンジンを始動しないでください。
  ◇エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場へ連絡してください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  ◇ケーブル部分や絶縁部分を損傷しているものは使用しないでください。
  ◇ケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

知　識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近づけずにバッテリー全体を暖め(50℃以下)、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。このときは、以下の手順で再設定してください。
  1　安全な場所に停車し、エンジンを始動します。
  2　ステアリングをいずれかに停止するまでまわし、次に反対側へ停止するまでまわします。

また、パワーウインドウやスライディングルーフのリセット、オーディオなどの記憶（メモリー）の再設定が必要になります。

ヒューズの交換

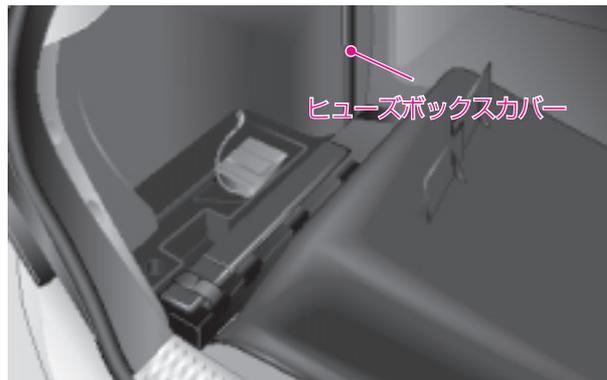
右ハンドル車

ランプ類が点灯しないときや電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズの交換

1　キーを抜くか、エンジンスイッチを0の位置にします。
2　ヒューズリムーバーなどを使用して該当ヒューズを取り外します。
3　ヒューズを点検し、心線部が切れているときは同じ電流値（色）の予備ヒューズと交換します。

ランプスイッチ横のヒューズボックス

矢印の位置にドライバーなどを差し込み、カバーを開きます。ヒューズブロック横にヒューズの配置表（英文）があります。

ラゲッジルームのヒューズボックス

ラゲッジルーム左側のサイドパネル内にあります。図の位置のヒューズボックスカバーを取り外します。

注　意！

- 規格や容量の異なるヒューズを使用したり、ヒューズを改造しないでください。
- 以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
  ◇ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
  ◇ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

※ヒューズ一覧は(8-6)をご覧ください。

電球の交換

電球を交換するときは、規格に合った同容量の電球と交換してください。
LEDやキセノンランプ、またリアランプ類はユニット交換になるため、必ず指定サービス工場で交換作業を行なってください。その他の電球の交換も、指定サービス工場で交換作業を行なうことをおすすめします。

マルチファンクションディスプレイの警告表示
マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(9-22)をご覧ください。
すみやかに電球を交換してください。

方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネル内の方向指示表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。

⚠ 警　告

- **キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。電源が接続された状態では高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。**
- **キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。**

注　意！

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になるおそれがあります。
- ハロゲンランプが熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。ハロゲンランプには圧力のかかったガスが封入されているので、破裂するおそれがあります。
- ハロゲンランプを交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。ハロゲンランプは高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

知　識

ドアミラーの方向指示灯は、すべてのLEDが切れたときにマルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージが表示されます。

スタンバイランプ機能
方向指示灯、ブレーキランプ、車幅灯、テールランプの電球が切れると、他の電球が代替として点灯します。

※電球一覧は(8-5)をご覧ください。

7. 点検と整備

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー・クライスラー社指定の点検整備
  ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。
- 1年および2年点検整備
  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。
  次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。
  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(3-78)。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、お客様が日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。
点検項目は整備手帳に記載されています。
点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに点検を受けてください。

エンジンルーム

エンジンルーム内の各所を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

⚠ 警　告

- **イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。**
- **エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンが自動的に回転することがあります。エンジンファンの回転部には身体や物を近づけないでください。**

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。
エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

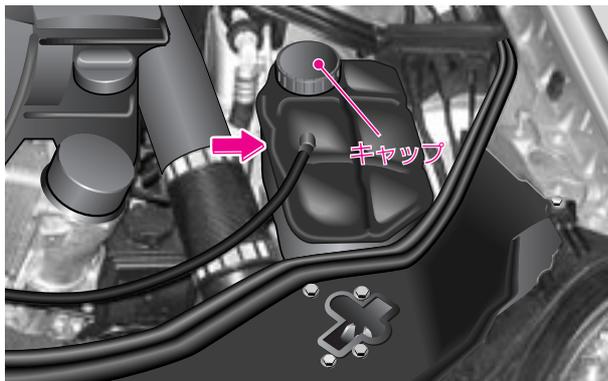
注　意！

- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選んで行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルードの交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。
亀裂や破損がないか点検してください。

冷却水

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

冷却水の量を点検する

点検は水平な場所で行ないます。
冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク本体の白と黒の境目(矢印)までであれば適量です。水温が高いときは約15mmほど高くなります。

※マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(9-21)をご覧ください。

⚠ 警　告

- **水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。**
- **不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。**

注　意！

- 冷却水量・冷却水温度警告灯**(3-71)**が頻繁に点灯するときは、冷却水が漏れている可能性があります。指定サービス工場で点検を受けてください。
- 冷却水が適量でも、冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯しているときは、冷却装置が故障しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

1 リザーブタンクのキャップをゆっくり反時計回りにまわします。約1回転までまわして、圧力を抜きます。
2 キャップを反時計回りにゆっくりまわして取り外します。
3 レベルに注意して冷却水を補給します。
通常は軟水(水道水)に純正の不凍液を混ぜて使用します。
車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

凍結温度	不凍液混合率
－37℃	約50%
－45℃	約55%

注　意！

- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適切な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- 冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC

E 500 / E 55 AMGにはオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検を行なってください(**3-80**)。

エンジンオイル量を点検する

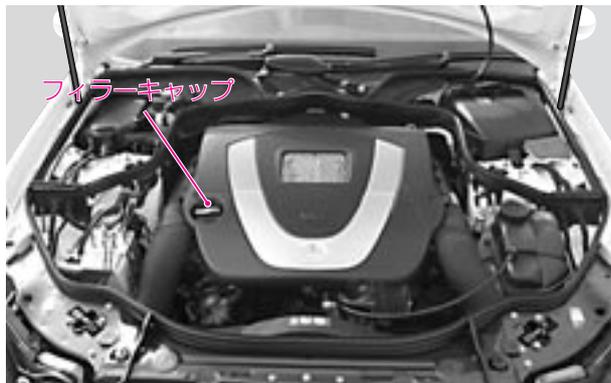
1 水平な場所に停車します。
2 エンジンを始動し、エンジンオイルを温めます。
3 エンジンを停止して、5分ほど待ちます。
4 オイルレベルゲージを抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。
5 再度オイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はオイルレベルゲージの上限(MAX)と下限(MIN)の間にあれば正常です。
6 エンジンオイルが下限以下のときは、フィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量だけ補給します。

注 意!

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(**9-22、23**)をご覧ください。

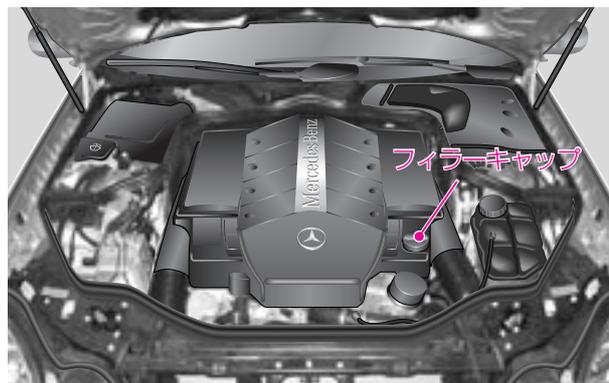
知 識

- オイルレベルゲージの上限と下限の間は約2リットルです。
- 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少多くなることがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

フィラーキャップ

E 280 / E 350 / E 350 4MATIC

E 500

エンジンオイルを補給する

フィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを補給します。安全に十分注意して、作業を行なってください。

⚠ 警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンオイルが熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-22、23)**をご覧ください。

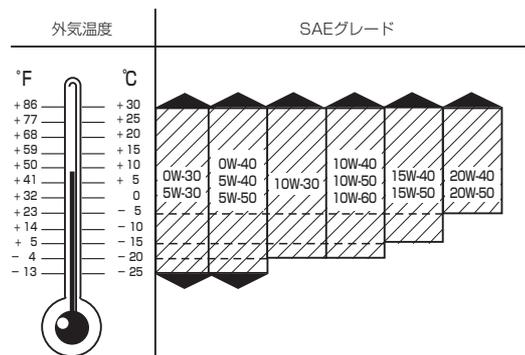
知　識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

注　意！

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になることがあります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをおすすめします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ブレーキ液

右ハンドル車

ブレーキ液のレベルを点検する

リザーブタンク上方のカバーを取り外します。ブレーキ液リザーブタンクのレベルマークで点検します。ブレーキ液のレベルが下限(MIN)と上限(MAX)の間にあれば正常です。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-19)**をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警　告

- **必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。**
- **ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限(MAX)を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気管などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。**
- **マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯(3-69)が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。**

注　意！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 補給はエンジンが冷えてから行なってください。排気系部品などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。
- ブレーキ液レベルの上限(MAX)を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

右ハンドル車

ワイパーウォッシャー液のリザーブタンクはリアワイパーウォッシャー液、ヘッドランプウォッシャー液と兼用です。

ウォッシャー液を補給する
リザーブタンクのキャップを開いて行ないます。

※マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(9-24)**をご覧ください。

使用するウォッシャー液
純正の専用ウォッシャー液を水に混ぜて使用します**(8-8)**。

⚠ 警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近づけたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

注　意！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。専用以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

知　識

ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

1 タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であるか点検します。
2 タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。
3 タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

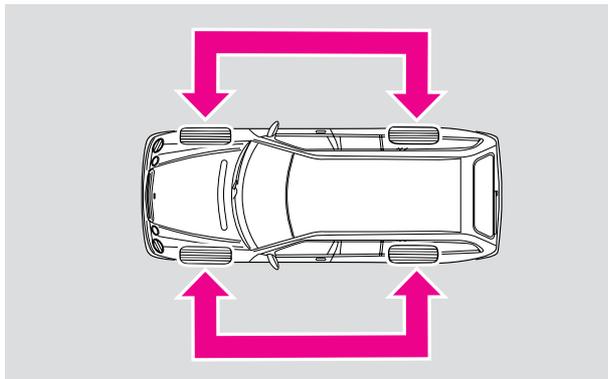
⚠ 警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルがあります（7-15)。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

注　意！

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または指定品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

知　識

新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをおすすめします。

タイヤローテーション

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。5,000～10,000kmを目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

注　意！

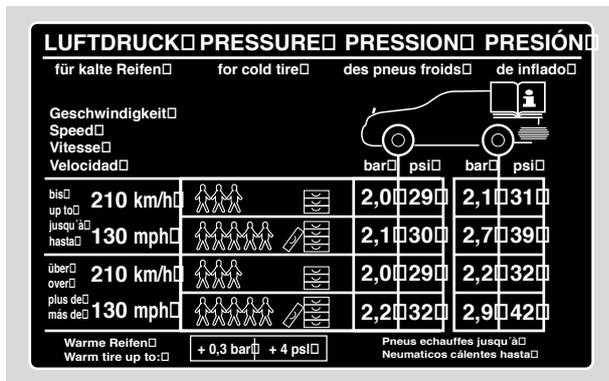
E 350 / E 500のスポーツパッケージ装着車とE 55 AMGは、前後のタイヤサイズが異なるので、タイヤローテーションは行なわないでください。

知　識

- タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。
- タイヤローテーションは、前後の位置を入れ替えてください。
- タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。
- 指定空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してある空気ラベルで確認ください。

LUFTDRUCK PRESSURE PRESSION PRESIÓN
für kalte Reifen　for cold tire　des pneus froids　de inflado

Geschwindigkeit Speed Vitesse Velocidad			bar	psi	bar	psi
bis up to jusqu'à hasta	210 km/h		2,0	29	2,1	31
	130 mph		2,1	30	2,7	39
über over plus de más de	210 km/h		2,0	29	2,2	32
	130 mph		2,2	32	2,9	42

Warme Reifen
Warm tire up to:　+ 0,3 bar　+ 4 psi　Pneus echauffes jusqu'à
Neumaticos cálentes hasta

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています。ラベルはシンボル表記になっています。乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。単位は「bar（≒kg/cm²）」」と「psi」で示しています。

知　識

通常はラベルの上側の段（up to 210km/h）の空気圧に調整してください。

注　意！

必ず法定速度を守って走行してください。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。

知　識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。
- 走行直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar(kg/cm²)ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧については(8-10)をご覧ください。

※タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

⚠ 警　告

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。ただちに清潔な水で5分以上洗い流したあと、医師の診断を受けてください。
- 衣服や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。
  液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。⊕端子と⊖端子をショートさせると、爆発するおそれがあります。
- 火気は近づけないでください。

注　意！

- エンジンがかかっているときは、バッテリーケーブルを外したり、ゆるめたりしないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 長期間、車を使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリーケーブルの接続を外す前に、エンジンスイッチを**0**の位置にするかキーを抜き、すべての電気装置をOFFにします。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- 車からバッテリーを取り外すと、ラジオのプリセットメモリーなど、記憶（メモリー）が消去されます。

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検については指定サービス工場におたずねください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分をお願いしてください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であること、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です(7-19、20)。
スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。
凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをおすすめします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを傷つけないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、ドアのキーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリングがまわせなくなって事故を起こすおそれがあります。
  また、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、テールゲート、ウインドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷することがあります。
周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。
安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください(4-6)。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。前後の車に十分注意し、ときどきブレーキペダルを操作してブレーキの効き具合を確認してください。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンがかかっていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光のあたる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側に段ボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をおすすめします。

装着するウインタータイヤは、指定されたサイズで４輪とも同じ銘柄のものにしてください (8-10)。

注　意！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、SBCホールド、クルーズコントロールは使用しないでください。
- ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールを乾燥した冷暗所で保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意！

- スポーツパッケージ装着車とE 55 AMGは、標準ホイールにスノーチェーンを取り付けないでください。
- AIRマティックDCサスペンション＊装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高調整スイッチで車高を上げて走行してください**(4-45)**。標準の車高では、チェーンがボディに接触し、ボディが損傷するおそれがあります。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。日常の手入れには、ダイムラー・クライスラー社が指定する用品のみを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警　告

- **一部の合成クリーナーなどには、揮発性有機溶剤や可燃性物質が含まれているおそれがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。**
- **車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。**

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面が損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、およびガソリンなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをおすすめします。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。
- 遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

洗車

1. ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
2. 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
3. スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。
4. 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 走行直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- パークトロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、固い布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。パークトロニックセンサーを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分などに近づけないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーでパークトロニックセンサーを清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

8. サービスデータ

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー・クライスラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。
アクセサリーについても、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外のものを使用しないでください。事故やけがの原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を代用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

注　意！

- エアバッグ、シートベルトテンショナー、インストルメントパネル、センターコンソール、センターピラーのフロアパネル付近の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えることがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。透明吸盤がレンズとして作用し、火災が起こることがあります。

ビークルプレート

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に車の車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレートが貼付してあります。

エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号が打刻してあります。

ボンネットの裏側

車台番号
右側フロントシート足元のカーペット下に車台番号が打刻してあります。

オプションコード
ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレートが貼付してあります。

電球一覧

電球(ランプ)		ワット数 (規格)
方向指示灯(ドアミラー)		LED(発光ダイオード)
フロント方向指示灯		21W(黄色)
ヘッドランプ	上向き / 下向き	35W(キセノンD2S)
	上向き	55W(H7)
フロントパーキングランプ / 車幅灯		5W
フロントフォグランプ		51W(HB4)または55W(H11)
ハイマウントブレーキランプ		LED(発光ダイオード)
ブレーキランプ		16W球(HIP)またはLED(発光ダイオード)
ライセンスランプ		5W

- 電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。
- リアフォグランプは右側のみです。
- ライセンスランプ以外のリアランプ類はユニット交換になるため、必ず指定サービス工場で交換作業を行なってください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス1（ラゲッジルーム内）

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

1 30A ：運転席シート
2 30A ：助手席シート
3 7.5A：ナビゲーションシステム、パークトロニック
4 20A ：燃料ポンプ
または
7.5A
5 ：未使用
6 40A ：オーディオ
7 15A ：リアワイパー
8 7.5A：アンテナモジュール、盗難防止警報システム
9 25A ：ルーフユニット
10 40A ：リアデフォッガー
11 20A ：テールゲートコントロールユニット
12 15A ：電源ソケット（ラゲッジルーム）
13 15A ：電源ソケット、マルチコントロールシートバック
14 ：未使用
15 10A ：燃料給油フラップ
16 20A ：オプション
17 ：未使用
18 ：未使用
19 20A ：マルチコントロールシートバック
20 ：未使用

ヒューズボックス2（ランプスイッチ横）

21 30A ：右リアドアコントロールユニット
22 30A ：助手席ドアコントロールユニット
23 30A ：助手席シート調整＆メモリー
24 ：未使用
25 ：未使用
26 7.5A：CDチェンジャー
27 ：未使用
28 5A ：ラジオ
29 7.5A：ステアリングロック
30 7.5A：診断ソケット
31 5A ：ヒューズ＆リレー
32 30A ：左リアドアコントロールユニット
33 30A ：運転席ドアコントロールユニット
34 30A ：運転席シート調整＆メモリー
35 ：未使用
36 25A ：フロントシートヒーター
37 5A ：AIRマティックDCサスペンション
または
15A
38 7.5A：オプション
39 5A ：スイッチパネル
40 ：未使用
41 5A ：セントラルゲートウェイ
42 7.5A：エンジンコントロールモジュール、ヒューズ＆リレー

(A211 545 04 00 04.10.2004)

知　識

仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

注　意！

ヒューズボックス1、2以外のヒューズには手を触れないでください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意！

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

油脂類	車　種	容　量(ℓ)	指　定　品　目	備　考
エンジンオイル	E 280 E 350 E 350 4MATIC	約8.0	承認オイル	オイルフィルター分を含む
	E 500	約8.5		
	E 55 AMG	約8.5		
オートマチックトランスミッションオイル	E 280 E 350 E 350 4MATIC	約9.0	承認オイル	工場出荷時注入量
	E 500	約9.6		
	E 55 AMG	約8.7		
パワーステアリングオイル	全車	－	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ディファレンシャルオイル	全車	－	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
ブレーキ液	全車	－	純正ブレーキ液	DOT 4規格

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

	車　種	容　量(ℓ)	指　定　品　目	備　考
燃料	全車	約80.0	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約8.0～9.0ℓ
冷却水	E 280 E 350 E 350 4MATIC	約10.0	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用 濃度に注意**(7-5)**
	E 500	約11.0		
	E 55 AMG	約13.5		
ウォッシャー液	全車	約7.0	純正ウインドウ ウォッシャー液 冬用、夏用	水と純正ウォッシャー液を混ぜて使用
バッテリー	全車	12V / 90Ah、95Ah、100Ah		ラゲッジルーム内に装備
エアコン冷媒	全車	R134a		R-12を使用しないこと

注　意！

- 必ず取扱説明書に記載の指定燃料を使用してください。指定燃料は無鉛プレミアムガソリンです。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車　種		タイヤサイズ	軽合金ホイールサイズ	オフセット
E 280		225 / 55R16	8J×16	36mm
E 350		225 / 55R16	7.5J×16	42mm
	スポーツパッケージ	前輪 245 / 40R18 後輪 265 / 35R18	前輪 8J×18 後輪 9J×18	前輪 30mm 後輪 39mm
E 350 4MATIC		225 / 55R16	7.5J×16	42mm
E 500		245 / 45R17	8J×17	38mm
	スポーツパッケージ	前輪 245 / 40R18 後輪 265 / 35R18	前輪 8J×18 後輪 9J×18	前輪 30mm 後輪 39mm
E 55 AMG		前輪 245 / 40R18 後輪 265 / 35R18	前輪 8J×18 後輪 9J×18	前輪 30mm 後輪 39mm

注　意！

- E 350とE 500のスポーツパッケージ装着車とE 55 AMGは、標準ホイールにスノーチェーンを装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください(全車)。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

応急用スペアタイヤ

車　種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
E 280 E 350 E 350 4MATIC E 500	T 155 / 70R17	4.00B×17 軽合金もしくはスチール	34mm	4.2bar / 60psi / 420kpa

※応急用スペアタイヤにスノーチェーンは装着しないでください。

ウィンタータイヤ

車　種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
E 280 E 350 E 350 4MATIC	225 / 55R16 M+S	7.5J×16	42mm
		8J×16	36mm
E 350スポーツパッケージ E 500 E 500スポーツパッケージ	245 / 45R17 M+S	8J×17	38mm
		8.5J×17	38mm
E 55 AMG	245 / 40R18 M+S	8J×18	30mm

※スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
※ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

積載荷物の制限重量

車　種	ルーフラック
全車	100kg

※ルーフラック積載荷物の制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。
※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

9. こんなときは

トラブル	原 因	対 応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電力の供給が不足し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶必要のない電気装備を停止してください。 ▶電力が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACスイッチの表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーのACスイッチを押しても冷房 / 除湿されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガーが短時間で停止し、スイッチを押しても作動しない。リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電力の供給が不足し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶必要のない電気装備を停止してください。 ▶電力が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
パークトロニックインジケーターの赤色の表示灯だけが点灯して警告音が鳴り、約30秒後にパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶すみやかに指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックインジケーターの赤色の表示灯だけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶パークトロニックセンサーを清掃してください(**7-22**)。 ▶再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。	▶場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください(**4-58**)。

トラブル	原 因	対 応
E 55 AMG： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグの機能が解除されている。	
	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • 電源の入ったパソコン • 携帯電話 • 磁気カードやICカード 電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するときは、すみやかに指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。
E 55 AMG 以外： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が一時的に点灯する。	チャイルドセーフティシート検知システムを装備していないため、センサー付き純正チャイルドシートを装着しても、助手席エアバッグが作動する状態になっている。	▶チャイルドセーフティシートを後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、前向きで使用し、助手席シートの位置をもっとも後ろの位置にしてください。
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドアをエマージェンシーキーで解錠し開いた。	▶キーの または を押してください。または、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。

トラブル	原 因	対 応
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示された。	▶故障 / 警告メッセージ(9-15～)に従ってください。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶パーキングブレーキを解除してください。
	ランプを消灯しないでドアを開いた。	▶ランプスイッチを0にしてください。
	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶シートベルトを着用してください。
ガソリンが漏れている。	燃料給油システム、または燃料タンクに問題がある。	▶ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶指定サービス工場に連絡してください。
事故を起こし、損傷の程度が分からない場合		▶指定サービス工場に連絡してください。
事故を起こし、以下には損傷がなさそうな場合 ・主要部品 ・燃料システム ・エンジンマウント		▶エンジンスイッチを一度0の位置にしてから、エンジンを始動してください。

トラブル	原 因	対 応
ブレーキペダルの踏みしろが通常より少し大きい。 ブレーキペダルの踏みごたえがいつもより弱い。	SBCが作動している。 または、エンジン始動後、最初にブレーキペダルを踏んだ。	▶再度ブレーキペダルを踏むと、通常の踏みしろや踏み応えに戻ります。
	SBCがエマージェンシーモードになっている。	▶ブレーキペダルを通常時より深く(奥に)強く踏み込んでください。 ▶故障 / 警告メッセージ(**9-19**)に従ってください。
ブレーキペダルに脈動が伝わってくる。	SBCの油圧ポンプが作動している。	
燃料給油フラップが開かない。	開閉機構に異常があり、燃料給油フラップは解錠されていない。	▶指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。エンジンスイッチを**3**の位置にするとスターターモーターの音がする。	エンジンの電気システム、または燃料供給に異常がある可能性がある。	▶エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置に戻してください。 ▶始動操作を繰り返してください(**4-4**)。 ただし、エンジン始動を長時間続けると、バッテリーがあがるおそれがあります。 ▶何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。エンジンスイッチを**3**の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっている可能性がある。	▶ブースターケーブルを使用して始動してください(**6-25**)。 ▶何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	原 因	対 応
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアーも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒が損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約130℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください(7-5)。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶冷却水温度が約130℃以下のときは、最寄りの指定サービス工場まで走行してください。 ▶エンジンなどに大きな負担をかけたり（山間部の走行など)、停止 / 発進を繰り返さないでください。
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

トラブル	原 因	対 応
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	▶エマージェンシーモードにして走行できる場合があります。 ▶停車してセレクターレバーをPに入れ、エンジンを停止します。 ▶10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶前進する場合はセレクターレバーをDに入れます。 後退する場合はセレクターレバーをRに入れます。 ▶ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらくすると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。
ワイパーの動きが妨害されている。	ウインドウに障害になる物が付着している。	▶安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いて、障害物を取り除いてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください(**4-25**)。 ▶指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

トラブル	原 因	対 応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ドアミラー格納 / 展開スイッチ(3-63)を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。
パワーウインドウが自動で全閉しない。	ドアウインドウとドアフレームの間やドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まったりしている。	▶ドアウインドウを開いてください。 ▶障害物を取り除いてください。 ▶ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。
運転席ドアのパワーウインドウが自動で全閉しない。 全閉操作が中断され、ドアウインドウが少し開いた状態で停止する。		▶ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶キーの先端をフロントドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 ▶リモコン操作ができないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶キーの電池を交換してください(3-7)。
	キーが故障している。	▶エマージェンシーキーでドアを解錠 / 施錠してください(3-25)。 ▶指定サービス工場でキーの点検を受けてください。

トラブル	原 因	対 応
キーのスイッチを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶キーの電池を交換してください(3-7)。電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	原 因	対 応
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた。	▶エンジンスイッチからキーを抜き、再度差してください。 ▶バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶エンジンスイッチを2の位置にしてください。
	バッテリーの電圧が低下している。	▶必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 ▶エンジンスイッチがまわらないときは、バッテリーを点検し、必要であれば充電するか、ブースターケーブルを使用して始動してください（6-25）。 ▶指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯	原 因	対 応
エンジンがかかっているときに黄色のABS / ESP表示灯が点灯している。	ESPの機能が解除されている。	▶ESPを待機状態にしてください(4-40)。 ▶ESPの機能を解除して走行する場合は、必ず路面と天候の状態に合わせて運転してください。
走行中に黄色のABS / ESP表示灯が点滅する。	タイヤがグリップを失っているか車が横滑りをしているため、ABSまたはESPが作動している。	▶発進するときにアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ESPの機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
ABS エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	故障のためABSが解除されている。ABSとともにBASとESPも解除されている。ABS、BAS、ESPを除き、SBCは機能する。	▶通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、十分注意して走行してください。 ▶マルチファンクションディスプレイの表示に従ってください(9-15)。 ▶すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	乗員保護システムに異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶十分注意して最寄りの指定サービス工場まで走行し、エアバッグシステムの点検を受けてください。

警告灯		原 因	対 応
	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	パーキングブレーキを解除せずに走行している。	▶パーキングブレーキを解除してください。
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 または、SBCに異常がある。	▶ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。 ▶走行を続けないでください。 ▶ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶マルチファンクションディスプレイの表示 **(9-17)** に従ってください。
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
		冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶冷却水温度が約130℃以下のときは、最寄りの指定サービス工場まで走行してください。 ▶エンジンなどに大きな負担をかけたり（山間部の走行など）、停止 / 発進を繰り返さないでください。

警告灯	原 因	対 応
走行中に赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足し、冷却水温度が約130℃を超えている。 エンジンが冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。また、冷却水温度が約130℃を超えている。 エンジンが冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶走行しないでください。 ▶指定サービス工場に連絡してください。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	燃料タンクが空になっている。	▶燃料の補給後、エンジン始動操作を3〜4回繰り返してください。 エマージェンシーモードが解除されます。車の点検を受ける必要はありません。
	以下に異常があるため、エンジンがエマージェンシーモードになっている。 • インジェクションシステム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性もある。	▶すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯	原 因	対 応
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。また、約25km/hを超えると点滅し警告音も鳴る。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶シートベルトを着用してください。
	助手席シートの上に荷物を置いている。	▶荷物をシートから降ろします。 または ▶荷物をシートベルトで固定します。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
ABS	ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	故障のためABSとBASが解除されている。ABSを除き、SBCは機能する。	▶通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ABSとBAS、またはABS表示が故障している。	▶十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
バッテリーホゴ	ｺﾝﾌｫｰﾄ ｷﾉｳ ｦ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	電力の供給が不足し、リアデフォッガーなどの電気装備に電力の供給ができない。	▶電力が回復すると、自動的に作動を開始します。
	ｺﾝﾌｫｰﾄ ｷﾉｳ ｦ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｽ	バッテリーの電力が回復し、電気装備のスイッチがオンになっている。	
ESP	ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	故障のためESPの機能が解除されている。ESPを除き、SBCは機能する。	▶通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	故障または電力の供給不足のためESPの機能が解除されている。 ESPを除き、SBCは機能する。	通常のブレーキ時の制動能力は確保されます。 ▶ESPをリセットしてください(4-41)。 ▶リセットできないときは、十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ESPまたはESP表示が故障している。	▶十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
P	ｾﾚｸﾀﾚﾊﾞｰ Ｐ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	SBCホールドが作動しているときに、エンジンスイッチを0か1の位置にしたか、運転席ドアを開いた。またはボンネットのロックを解除した。	▶セレクターレバーをPに入れてください。必要であれば、パーキングブレーキを効かせて車を確実に停止させてください。
SBC H	SBC H ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	SBCホールドを作動させることができない。	▶パーキングブレーキを解除してください。 ▶SBCホールドの作動条件を確認してください(**4-36**)。
	SBC H ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾄﾘｱﾂｶｲｾﾂﾒｲｼｮ ｻﾝｼｮｳ	SBCホールドに異常が発生している。	▶指定サービス工場でSBCホールドの点検を受けてください。
スピードリミッター	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。	▶指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	SRSｼｽﾃﾑ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	乗員保護システムが故障している。	▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロール	― ― ―	速度が記憶されていない状態でクルーズコントロールを設定しようとしている。	▶速度を設定してください。
		約30km/h以下の速度で走行しているとき、またはESPの機能を解除しているときにクルーズコントロールを設定しようとしている。	▶約30km/h以上の速度で設定してください。 または ▶ESPを待機状態にしてください。
	ｻｰﾋﾞｽ ﾒﾓﾘ ﾌﾙ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	メンテナンスインジケーターのデータ量が容量を超えた。	▶指定サービス工場でメンテナンスインジケーターの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ	車高が選択したレベルに上がっている。	
	ｼｬｺｳｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	停車時の車高が低すぎる。	▶走行しないでください。 ▶車高が調整されるまで待ってください。車高が走行に適したレベルになるとメッセージが消えます。
	ﾃｲｼｬ､ｼｬｺｳｶﾞ ﾋｸｽｷﾞﾏｽ!	車高調整システムが故障している。	ステアリングをまわしすぎないでください。フロントのフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。擦れる音がしないかチェックしてください。 ▶80km/hを超えないように走行してください。 ▶路肩まで走行し、より高い車高レベルを選択してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ディスプレイまたは車高調整システムが故障している。	▶80km/hを超えないように走行してください。 ▶指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	車高調整システムの一部が制限されている。あるいは、ディスプレイまたは車高調整システムが故障している。	▶80km/hを超えないように走行してください。 ▶指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	いくつかのシステム表示が故障している。システム全体が故障しているおそれがある。	▶十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	バッテリー、オルタネーター、コントロールユニットなどが故障している。	▶ただちに安全な場所に停車してください。 ▶走行しないでください。 ▶すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 電力が不足するとSBCの機能が制限されます。ブレーキペダルを踏むのにかなりの力が要求され、制動距離が通常よりも長くなります。
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 ・オルタネーターの故障 ・Ｖベルトの損傷 ・電力システムの故障	▶ただちに停車して、Ｖベルトを点検してください。 Ｖベルトが切れているとき： 走行しないでください。指定サービス工場に連絡してください。 Ｖベルトが切れていないとき： ただちに最寄りの指定サービス工場まで走行してください。 電力が不足するとSBCの機能が制限されます。ブレーキペダルを踏むのにかなりの力が要求され、制動距離が通常よりも長くなります。
	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶すみやかにブレーキパッドを交換してください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
STOP	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｹﾞﾝｼｮｳ! ﾌﾞﾚｰｷｦ ｼﾞｭｳﾌﾞﾝﾆ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ!	SBCがエマージェンシーモードになっている。ブレーキを踏むのにかなりの力が要求され、制動距離が通常よりも長くなる。最高速度が約90km/hに制限される。	▶ただちに安全な場所に停車してください。 ▶走行しないでください。 ▶指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ! ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ!	バッテリーの電圧が低下しているため、SBCに十分な電力供給ができなくなっている。	▶エンジンを始動してください。 エンジンが始動するとメッセージが消えます。
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ! ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	SBCがエマージェンシーモードになっている。ブレーキシステムの能力が完全には発揮されない。	▶十分注意して走行してください。 ▶ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｶﾈﾂ ｼﾃｲﾏｽ! ﾁｭｳｲｼﾃ ｿｳｺｳ!	過度の負荷によりブレーキシステムが非常に高温になっている。	▶ブレーキシステムへの負荷を軽減してください。 ▶十分注意して走行してください。 ▶下り坂では、より低いギアを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。 ▶走行中にブレーキが冷却されるように注意しながら走行してください。
	ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ!	SBCホールドの作動中に異常が発生している。	▶マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	ﾌﾞﾚｰｷｵｲﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ただちに安全な場所に停車してください。 ▶走行しないでください。 ▶指定サービス工場に連絡してください。 ▶ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解決しません。

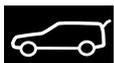
ディスプレイ表示		原因	対応
	ｻｰﾋﾞｽ ﾌﾞﾚｰｷ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	故障があるが、SBCは通常通り作動する。	▶指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	パーキングブレーキを解除せずに走行している。	▶パーキングブレーキを解除してください。
	ﾘｱ ﾐｷﾞ ﾊﾞｯｸﾚｽﾄ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｾﾝ	後席右側バックレストがロックされていない。	▶バックレストを確実にロックしてください。
	ﾘｱ ﾋﾀﾞﾘ ﾊﾞｯｸﾚｽﾄ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｾﾝ	後席左側バックレストがロックされていない。	▶バックレストを確実にロックしてください。
	ﾈﾝﾘｮｳﾆ ﾐｽﾞｶﾞ ｺﾝﾆｭｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!		▶指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!		▶指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬｼﾃ、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。	▶すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶エンジンを停止してください。 ▶メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶冷却水温度を点検してください。 ▶冷却水温度が下がったときは、ただちに最寄りの指定サービス工場まで走行してください。
		Ｖベルトが切れている可能性がある。	▶すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶エンジンを停止してください。 ▶Ｖベルトを点検してください。 Ｖベルトが切れているとき： • 走行しないでください。 • 指定サービス工場に連絡してください。 Ｖベルトが切れていないとき： • メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ラジエターの冷却ファンが故障している。	▶冷却水温度を点検してください。 ▶すみやかに指定サービス工場で冷却ファンを交換してください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	冷却水量が不足している。	▶冷却水を補給してください(7-5)。 ▶通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ[1]	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。	▶すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｾﾝｻ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶各種設定のﾗﾝﾌﾟ のﾍｯﾄﾞﾗｲﾄ ｽｲｯﾁ画面で、ﾏﾆｭｱﾙに切り替えてください(3-99)。 ▶ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾎﾞﾝﾈｯﾄｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ	ボンネットが開いたまま走行している。	▶ボンネットを閉じてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	E 280 / E 350 / E 350 4MATIC : エンジンオイル量が減っている。	▶エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください(7-6、7)。 ▶通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ!	E 500 / E 55 AMG : エンジンオイル量が不足している。	▶エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください(7-6、7)。 ▶通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ	E 500 / E 55 AMG : エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがある。	▶ただちに安全な場所に停車してください。 ▶エンジンを停止してください。 ▶エンジンオイルを補給してください。

1) この例以外のメッセージが表示されることがあります。車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所と対応が表示されます。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	E 500 / E 55 AMG： エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください(7-6、7)。 ▶通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	E 500 / E 55 AMG： エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがある。	▶エンジンオイルを抜いてください。エンジンオイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ｼﾃｲﾉｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	E 500 / E 55 AMG： エンジンオイルに水が混じっている。	▶エンジンオイルと冷却システムを点検してください。
	ｵｲﾙｾﾝｻ ｺｼｮｳ	E 500 / E 55 AMG： エンジンオイル量計測システムが故障している。	▶指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ	以下が故障している可能性がある。 ・インジェクションシステム ・排気システム ・イグニッションシステム	▶すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	1つ以上のエレクトロニックシステムが情報を伝達できない状態で、以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターのインジケーター	▶指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		原 因	対 応
	ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｼｽﾃﾑ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	シートベルトシステムが故障している。	▶ただちに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾃｰﾙｹﾞｰﾄ ｱｲﾃｲﾏｽ!	テールゲートが開いたまま走行している。	▶テールゲートを閉じてください。
	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ﾙｰﾌ ﾄｼﾞﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	スライディングルーフを開いた状態でエンジンスイッチからキーを抜いた。	▶スライディングルーフを閉じてください(3-55)。
	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ﾙｰﾌ ﾄｼﾞﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	スライディングルーフをチルトアップした状態でエンジンスイッチからキーを抜いた。	▶スライディングルーフを閉じてください(3-55)。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ 1)	燃料の残量が非常に少なくなっている。	▶最寄りのガソリンスタンドで燃料補給してください。
	ﾄﾞｱ ｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ドアを閉じてください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	ウォッシャー液量が不足している。	▶ウォッシャー液を補給してください(7-11)。

1) 車種や仕様により、このメッセージは表示されません。

ア

カ

サ

タ

ハ

ラ

ワ

A

B

E

N

S

4

“ESP®” “SBC®” はダイムラー・クライスラー（株）の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2006年 3月現在のものです。

対象モデル

E 280 STATIONWAGON
E 350 STATIONWAGON AVANTGARDE
E 350 4MATIC STATIONWAGON AVANTGARDE
E 500 STATIONWAGON AVANTGARDE
E 55 AMG STATIONWAGON